



令和6年度 林業・木材産業
国際競争力強化総合対策のうち

**日本産木材製品プロモーション活動支援事業
輸出相手国の市場実態等調査報告書
(中国)**

林野庁

(調査委託機関：有限責任監査法人トーマツ)
2026年3月

目次

本調査の目的、概要等	3
1 需要調査	7
1-1 調査方法	10
1-2 統計情報	13
1-3 市場実態	52
2 流通・販売に係る規格・規制調査	68
2-1 調査方法	70
2-2 調査結果	72

3 木材輸入手続き調査	84
3-1 調査方法	86
3-2 調査結果	88
4 日本産木材製品の輸出拡大策の提言	96

本報告は、日本産木材製品のうち特に2×4工法構造材の輸出を促進するため、中国を対象とした需要調査及び規格・規制調査を行い、その結果を取りまとめたものです

事業の目的

- 2030年に5兆円を目指す農林水産物・食品輸出額目標の達成のためには、海外市場へ展開する製品のターゲットとする国・地域の市場実態等を的確に捉え、効果的な方法で販路開拓の取組を進めていくことが重要です。
- 本事業は、2×4工法構造材の有望な輸出先と考えられる国・地域にターゲットを絞り、ターゲット国・地域における2×4工法構造材の市場実態等について、専門的な調査・分析を行い、日本産樹種の2×4工法構造材としての輸出促進に資することを目的としています。

事業の概要

- 本事業では、米国、中国、韓国、台湾、ベトナムにおける、2×4工法構造材の市場実態、消費者特性、流通・販売に係る規制、商慣習等について調査・分析を行い、国・地域ごとに体系的に取りまとめました。
- 日本産木材製品の輸出に係る調査としては、下記の2つの観点から調査を実施しました。
 - I.【需要調査・分析】
 - ・ 市場実態
 - ・ 競合製品の市場動向、その他
 - II.【流通・販売に係る規制、商慣習等の調査・分析】
 - ・ 規格や品質基準、規制等の運用状況
 - ・ 流通・販売に係る規制、商慣習
 - ・ 日本産木材製品が各国における規格・基準を満たすために必要となる手続きの調査・整理
 - ・ 日本産木材製品（スギ、ヒノキ等）を各国に輸出するに当たっての必要事項の整理

本調査では、輸出相手国・地域の実態調査結果について、章別に内容を取りまとめました

調査報告書の構成

調査結果

1章 需要調査

- ▶ 対象国・地域における輸入統計、住宅統計等から、主に2×4構造用製材・構造用面材の需要調査、競合製品分析等を実施

2章 規格・規制調査

- ▶ 対象国・地域において、木造建築物に用いる木材製品に求められる規格や品質基準、規制等の運用状況、流通・販売に係る規制や商慣習、日本産木材製品が各国における規格・基準を満たすために必要となる手続き、必要事項の整理を行った

3章 輸出手続き

- ▶ 構造用製材、構造用面材を対象国・地域に輸出するための手続きを取りまとめた

提言

4章 日本産木材製品の輸出拡大策の提言

- ▶ 1～3章を踏まえ、今後の日本産木材製品の輸出拡大策の提言を取りまとめた

本調査事業における調査対象品目は下記の通りとしました

調査対象品目（各国・地域共通）

樹種	HSコード	調査対象品目	具体例
スギ、ヒノキ、カラマツ	4407	製材	主として2x4構造用製材
	4412	合板	主として2x4構造用合板

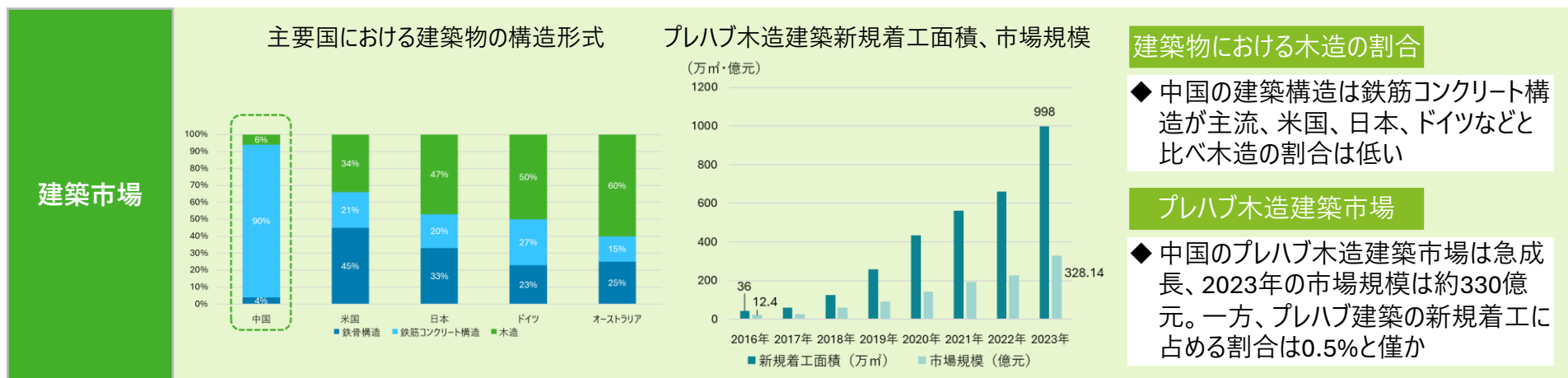
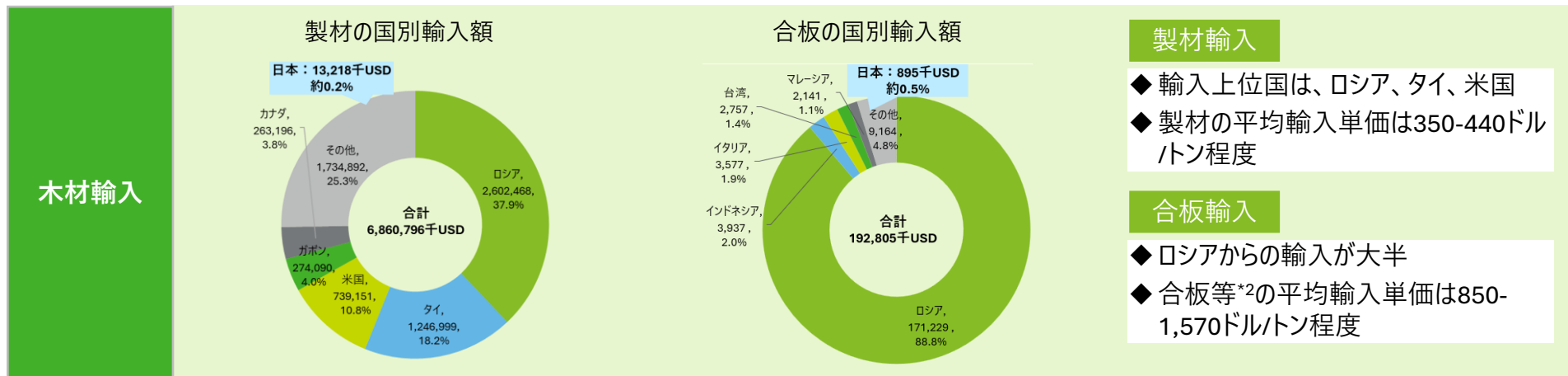
※各国の輸出入統計調査では、集成材・CLT等、OSB、パーティクルボード、MDFとも調査対象品目とした

調査項目	主な調査内容
対象国・地域における市場実態	<ul style="list-style-type: none"> ■ 輸入統計、住宅統計等から統計資料を調査・分析 ■ 市場実態については、主に2x4構造用製材・構造用面材の需要、市場実態を調査・分析
対象国・地域における木材製品の流通・販売に係る規制及び制度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 2x4構造用製材・構造用面材の流通・販売に当たって必要となる規格・規制等 ■ 木材製品の規格や品質基準（日本工業規格や日本農林規格に該当するもの）の有無、運用状況及び当該基準の普及状況
対象国・地域における建築基準等の調査	<ul style="list-style-type: none"> ■ 木造建築物に関する建築基準等の有無、運用状況
対象国・地域における木材製品の輸入に係る規制	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日本からの調査対象品目の輸入に係る植物検疫の条件 木材製品に対する検疫要求 輸入許可書、輸出植物検疫証明書等 ■ 調査対象品目の通関時に提出必要となる書類や品質検査等、輸入時における規制状況

1 需要調査

中国は、大量の木材消費国ですが、建築、製紙、家具等の業界で木材消費量が多い*1とされ、木造建築物の構造材としての消費量は限定的であることに留意が必要です

需要調査（統計）（概要）



*1：JETRO「中国輸出支援プラットフォーム『中国への農林水産物・食品の輸出に関するカントリーレポート 品目別：木材（2023年12月）』」

*2：合板等の平均輸入単価はHSコード4桁で算出（6桁データは取得不可）しているため、合板の他、LVL、ブロックボード、その他積層木材を含む

中国の住宅市場は巨大である一方、木造建築物の比率は低いため、市場規模は限定的で、日本産木材製品の輸出拡大のためには木造建築物の普及・促進も併せて必要です

需要調査（市場実態）（概要）

中国における住宅市場と木造住宅の位置づけ	中国の住宅市場	◆ 中国における住宅は、特に都市部においては多くがマンションとなっている。地方農村部では戸建て住宅も立てられるが、ほとんどがコンクリート造等で木造住宅は極めて少ない
	木造建築物市場	◆ 現在の中国市場においては、木造建築物は以下3種類に類型化される ①高級別荘（住宅）、②リゾートログハウス（非住宅）、③公共建築物（非住宅） ◆ 木造建築物の施主は、現状は一部の富裕層と、企業・行政に限定される
木材流通実態	流通樹種	◆ 木造住宅に使われる樹種はショウジマツ*（中国・ロシア産）、スプルース（米国・カナダ材）等
	製材流通価格	◆ 中国、ロシア産のマツ材は、25,000～29,000円/m ³ 程度で流通、米国のダグラスファー（ベイマツ）、スプルースは40,000円/m ³ 前後程度で流通している
	顧客ニーズ	◆ 木造建築物の樹種選定は建築事業者が担っている。樹種の選定は、価格・性能面の評価が重視されるため、日本からの製材品輸出で競合製品との競争優位性を見出すことは難しい
木材取引の商慣習 規格規制の実態	GB規格の遵守状況	◆ 木造建築物では、国家標準であるGB規格の遵守が求められる ◆ 業界全体では、行政プロジェクトや大手案件ではGB規格が遵守される一方、中小企業ではGB規格からの逸脱もあり、全体として木造建築物の施工不良・欠陥などが多発してしまった過去があり、木造建築物の評価は一概に高いとは言えない
	民間需要	◆ 構造用木材の樹種については、ダグラスファー（ベイマツ）やヘムロックなど、一度使用して良好な実績があった樹種はその後好んで使われる傾向にある一方、日本産スギ・ヒノキ等は実績や裏付けデータが不足しているために使用されにくい現状にある ◆ 中国南部地域の多湿地域では、防腐処理木材の需要も存在する
	行政プロジェクト	◆ 公共の木造建築物需要の主要顧客であるが、行政プロジェクトでは支払い遅延が多発し、中国全体で前払い資金の慣行がある点には注意が必要

* ショウジマツとヨーロッパアカマツは学名同一

1-1 調査方法

貿易・産業統計等によりデスクトップ調査を行うとともに、日本産木材を輸出する国内事業者や中国事業者へのヒアリングを行い、需要調査を実施しました

市場・需要調査 調査方法

デスクトップ調査



各種統計資料等の調査・分析

- 統計資料等の収集
- 住宅市場、木材市場等の分析
- 製材品等における樹種特性等の調査

ヒアリング後の情報収集

- ヒアリングで得られた情報に関連する資料等の収集

為替の設定

- 為替については、以下のレート*で算出した
 - 1元=20.72円で換算（2024年平均）

木材商社・卸売業者等へのヒアリング



オンラインヒアリング

- 【国内事業者】
 - ・ 実際に中国に輸出している国内事業者
- 【中国事業者】
 - ・ 木材製品卸売事業者、住宅事業者等
 - ・ 木材製品規格の関係者等

ヒアリング内容

- 市場・需要実態調査
 - ・ 2×4住宅の建築材等の市場規模、価格帯
 - ・ 中国における2×4材の流通経路、競合製品等
- 規格規制・商慣習等の取引実態
 - ・ 中国における2×4材の流通・販売時の規格等の取り扱い

* 三菱UFJリサーチ&コンサルティング「外国為替情報」

本報告書では単位表記統一の為、必要に応じて換算係数を用いて集計しています

本報告書で適用する単位について

本報告書での通貨表記

- グラフ上の通貨の表記は、米ドルはUSD、中国元はCNY

本報告書で適用する換算係数

- 数量データは、以下の換算係数を用いて品目ごとに単位を m³ に変換している
- 換算困難な単位（1,000meters, Unit, Mixed）は、データ内の主要単位と同一と仮定して変換している

Product	製品名	該当するHSコード	m ³ /tons		
			General (一般)	Coniferous (針葉樹)	Non-coniferous (広葉樹)
Sawlogs and veneer logs	製材用丸太と単板用丸太				
Tropical	熱帯	4403.41,4403.42,4403.49			1.37
Non-tropical	非熱帯	4403.11, 4403.12, 4403.21-26, 4403.91,4403.93-99		1.43	1.25
Sawnwood	製材	4407.11-4407.19, 4407.21-29, 4407.91-99 4418.81- 83, 4418.89*		1.82	1.43
Plywood	合板	4412.10, 4412.31, 4412.33-34, 4412.39	1.54		
OSB and Particle board	OSB・パーティクルボード	4410.12, 4410.11	1.54		
Medium/high density fibreboard(MDF/HDF)	MDF/HDF	4411.12-14	1.34		

参考：Food and Agriculture Organization of the United Nations「Forest product 2019」をもとに当法人が作成

* HS4418.81-83,4418.89に関しては、該当する係数がなかったことから針葉樹の製材の換算係数で代用

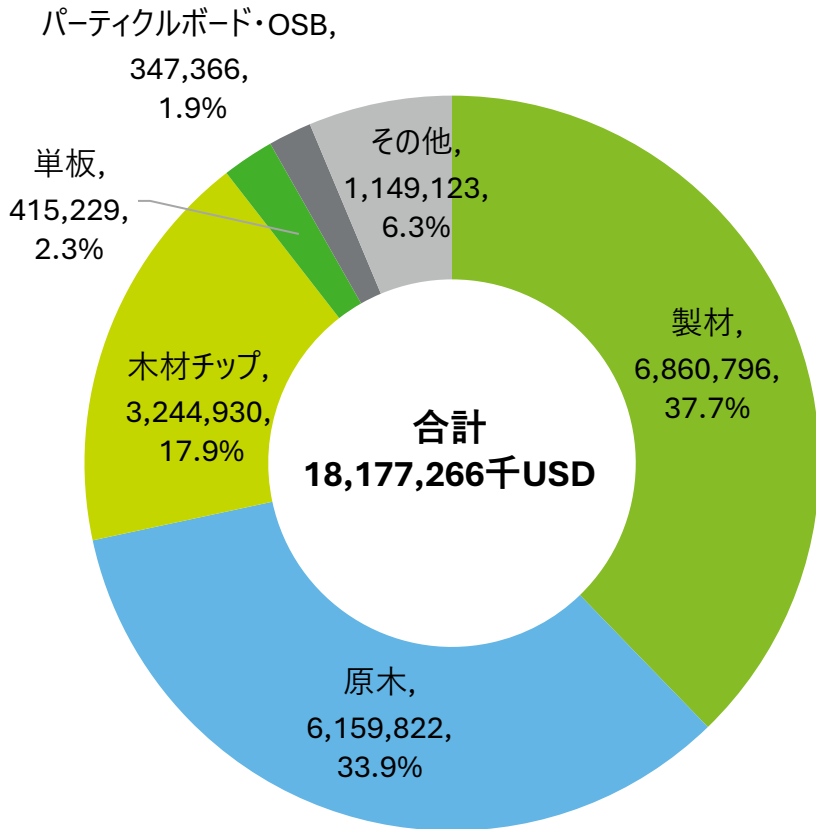
1-2 統計情報

中国は、世界各国から、製材や原木を主に輸入しており、国別では、特にロシアやベトナム、ニュージーランドから多く木材製品を輸入しています

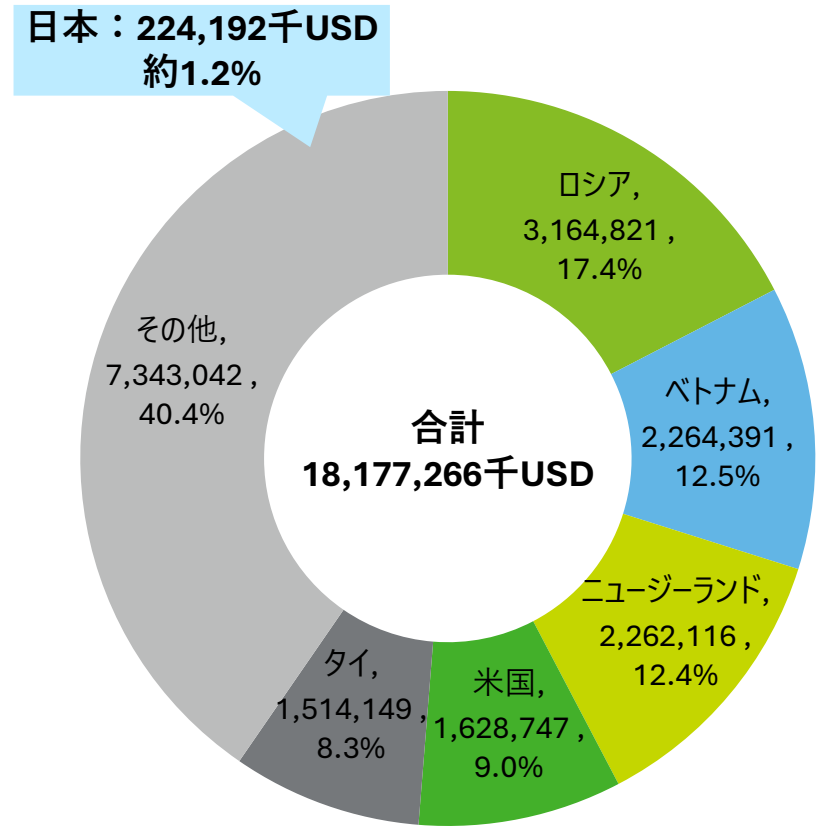
主要輸入国【木材・木材製品（HS44）】

需要調査
輸入統計情報
製材
合板
他の面材
集成材等

木材・木材製品の品目別輸入額（2024年）(千USD)



木材・木材製品の国別輸入額（2024年）(千USD)

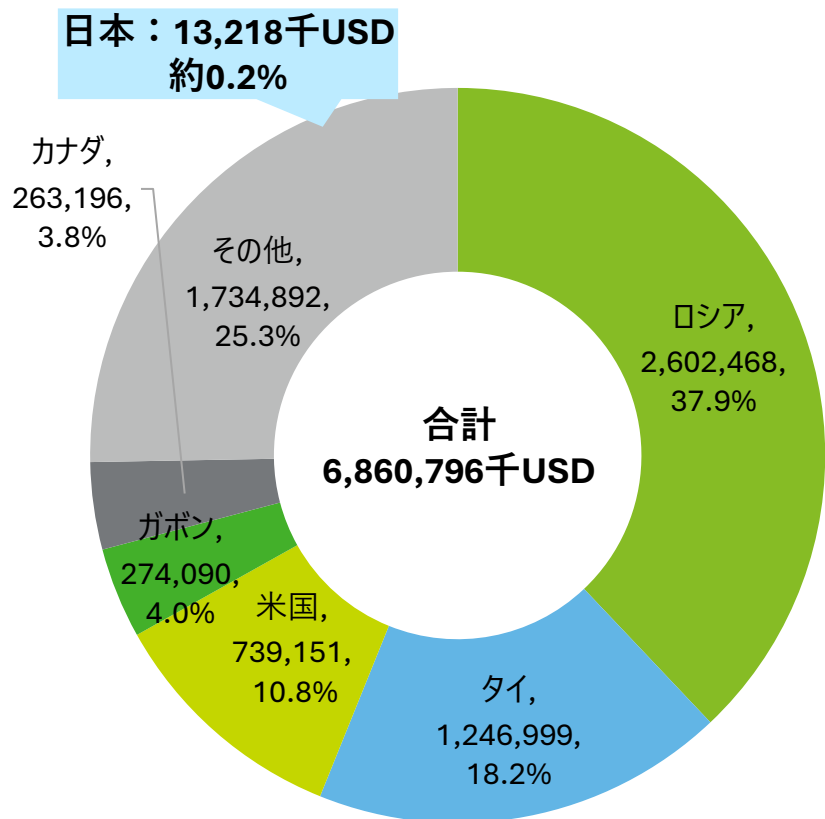


参考：International Trade Centre「Trade Map」をもとに当法人が作成

中国は製材を主にロシア、タイから輸入しており、日本からの輸入額は全体の約0.2%です

主要輸入国【製材（HS4407）】（1/2）

製材の国別輸入額（2024年）（千USD）



製材の国別輸入量（2024年）

国名	輸入量（トン）	輸入量*（m ³ ）
ロシア	6,995,473	12,731,761
タイ	3,663,212	6,667,046
米国	799,005	1,454,189
カナダ	752,356	1,369,288
ベラルーシ	699,008	1,272,195
その他	3,638,868	6,622,740
合計	16,547,922	30,117,218

参考：International Trade Centre「Trade Map」をもとに当法人が作成

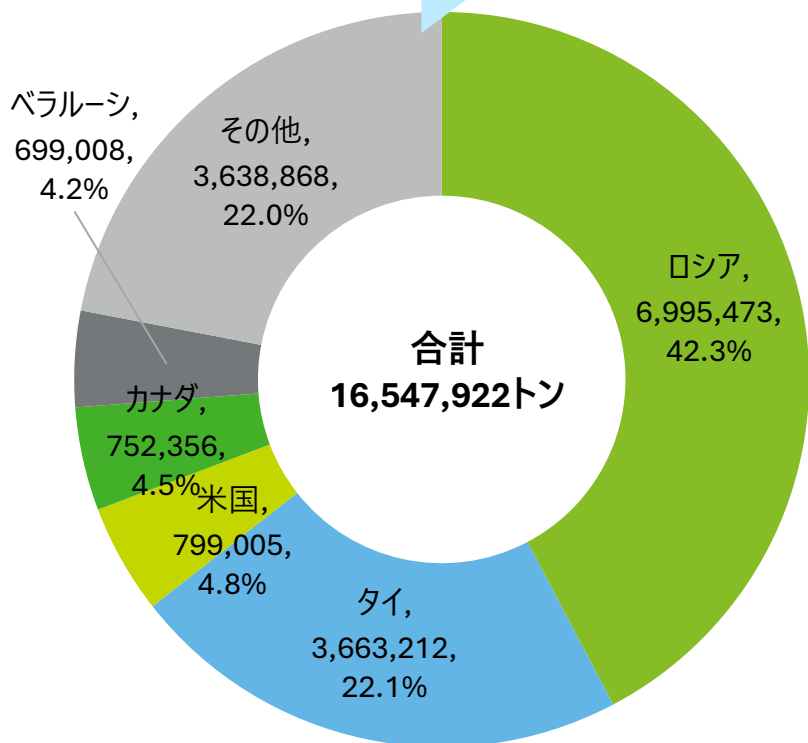
* 換算係数1.82を用い、トン→m³に換算

中国は製材を主にロシア、タイから輸入しており、日本からの輸入量は全体の約0.2%です

主要輸入国【製材（HS4407）】（2/2）

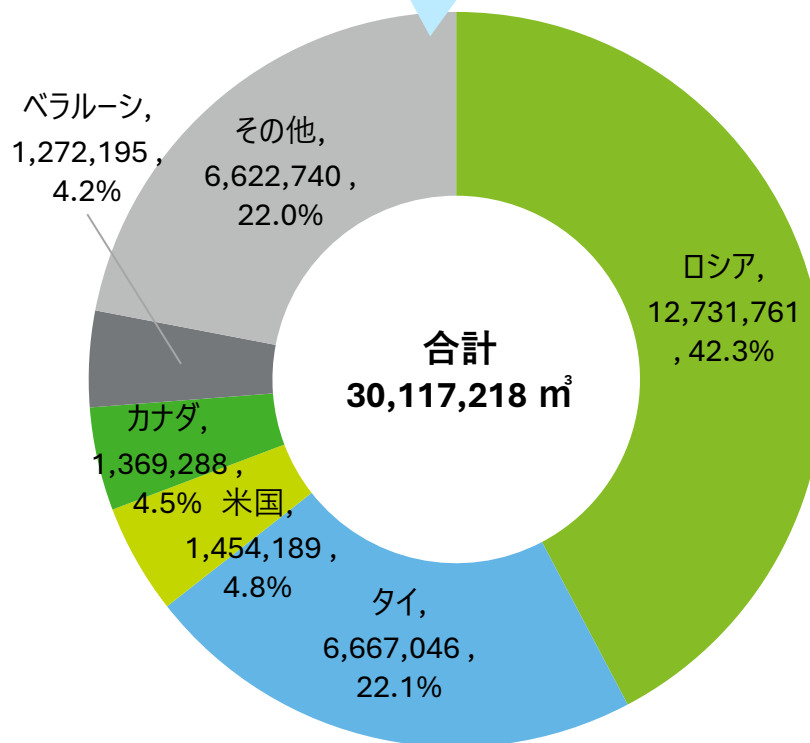
製材の国別輸入量（2024年）（トン）

日本：40,849トン
約0.2%



製材の国別輸入量（2024年）*（m³）

日本：74,345m³
約0.2%

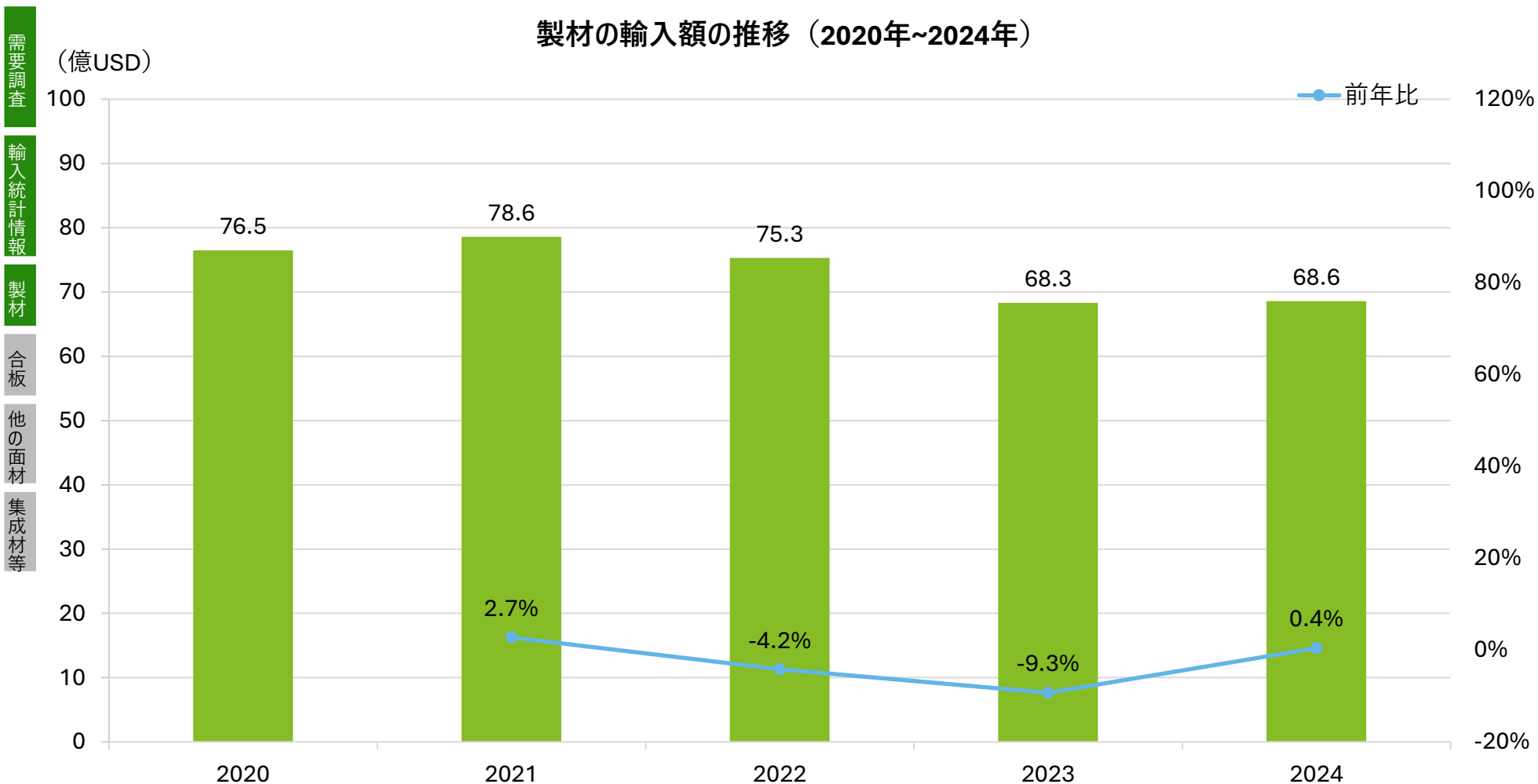


参考：International Trade Centre「Trade Map」をもとに当法人が作成

* 換算係数1.82を用い、トン→m³に換算

近年の中国における製材の輸入額は、2021年をピークに減少し、直近2年は68億ドル台で推移しています

輸入額推移【製材（HS4407）】



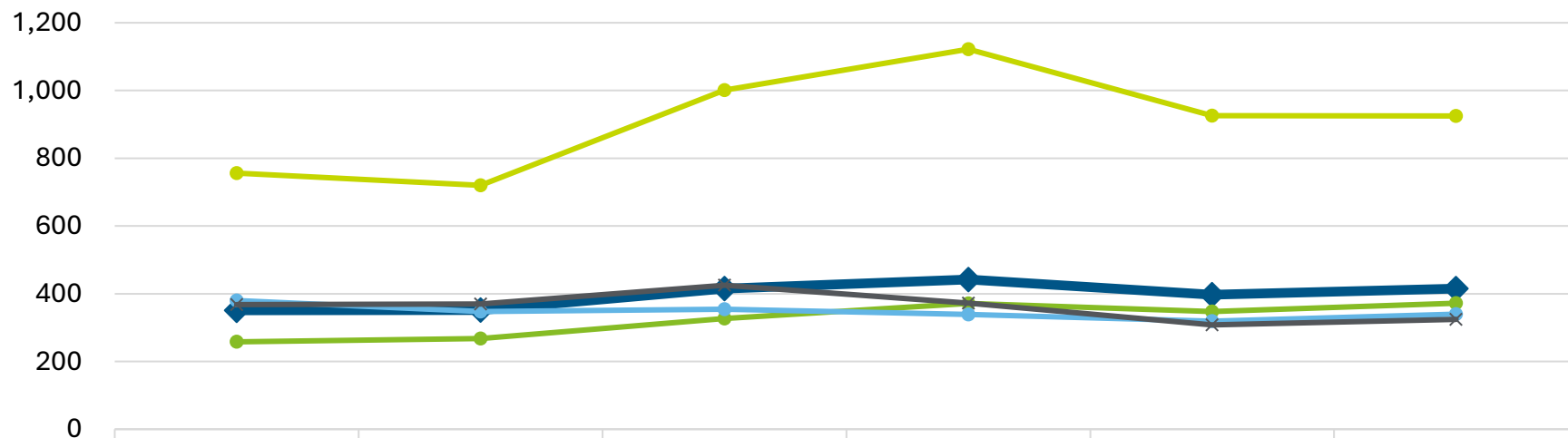
参考：International Trade Centre「Trade Map」をもとに当法人が作成

中国における製材の平均輸入単価は、世界平均で350-440ドル/トン前後の推移となっています

中国における国別平均輸入単価【製材（HS4407）】

製材の国別輸入額（2024年）の上位3か国及び日本の平均輸入単価（USD/トン）

(USD/トン)



	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
世界平均	351	352	415	442	397	415
ロシア	258	268	327	371	347	372
タイ	380	347	354	339	319	340
米国	756	720	1,001	1,122	926	925
日本	368	370	425	372	308	324

◆ 世界平均
 ● ロシア
 ● タイ
 ● 米国
 × 日本

参考：International Trade Centre「Trade Map」をもとに当法人が作成

需要調査
 輸入統計情報
 製材
 合板
 他の面材
 集成材等

製材の樹種別割合は、マツ属、モミ属・トウヒ属の割合が高くなっています

中国における樹種別輸入額【製材（HS4407）】

需要調査

輸入統計情報

製材

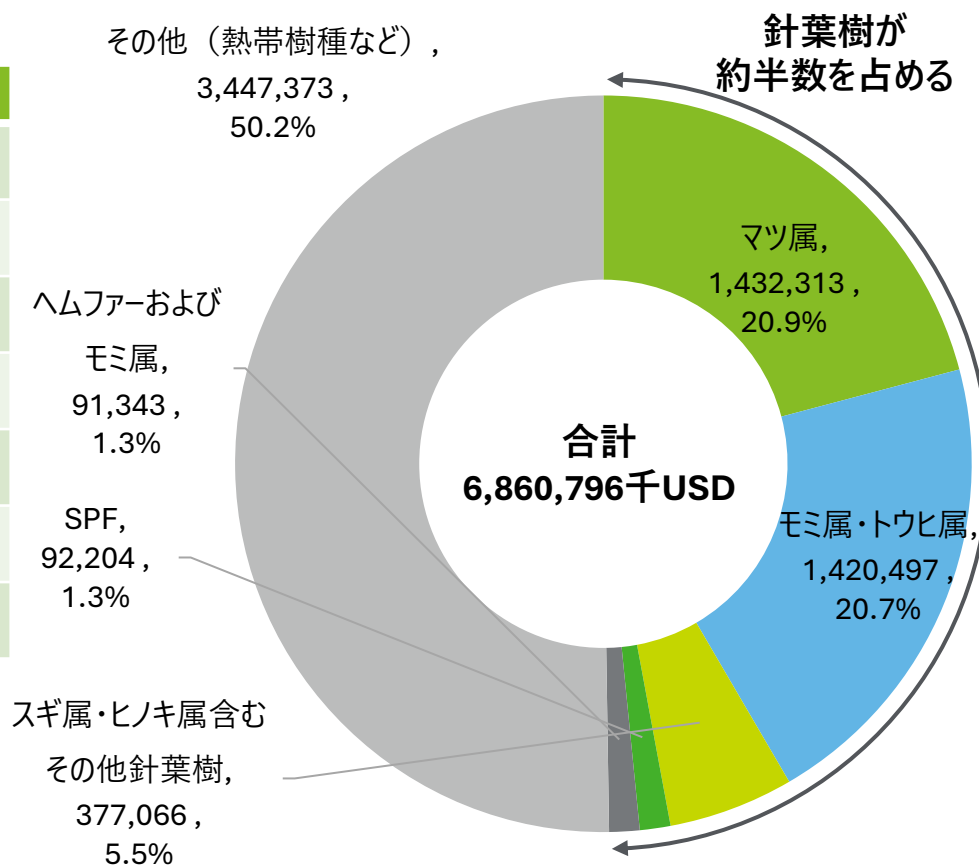
合板

他の面材

集成材等

HSコード	詳細分類
4407	製材全般
4407.11	-- マツ属
4407.12	-- モミ属・トウヒ属
4407.13	-- S P F
4407.14	-- ヘムファーおよびモミ属
4407.19	-- スギ属・ヒノキ属含むその他針葉樹
4407.21-99	その他（熱帯樹種など）

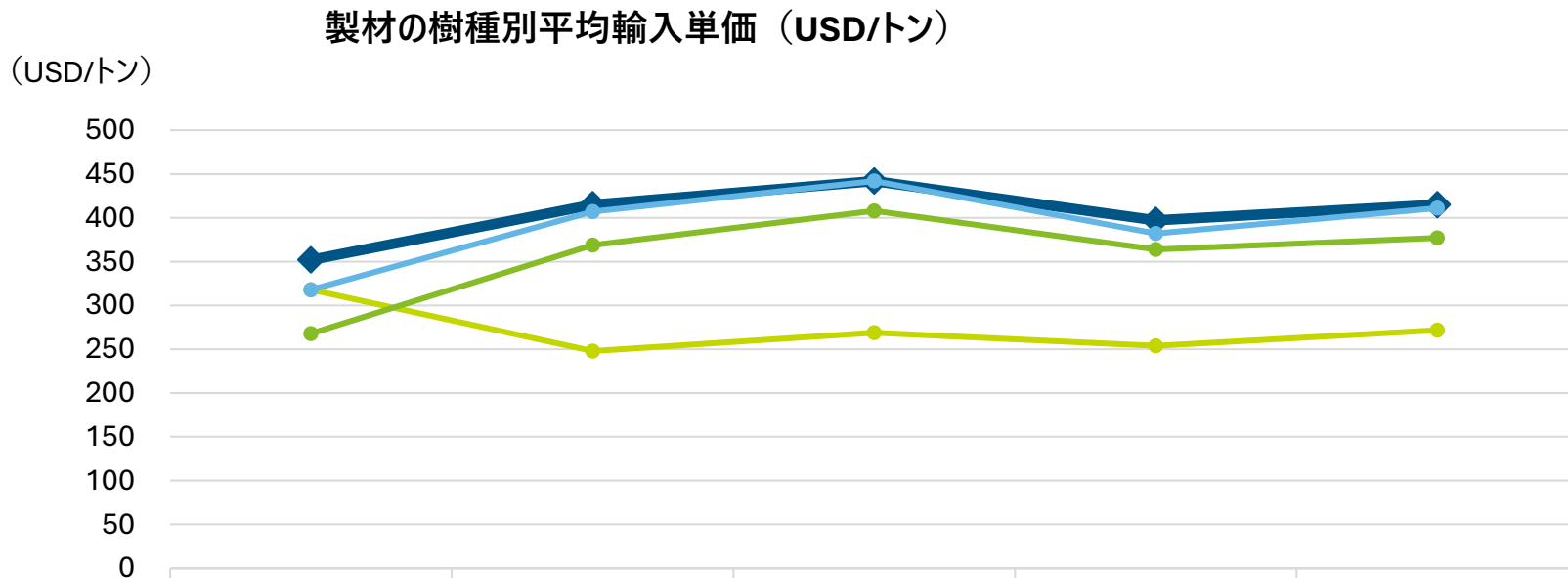
製材の樹種別輸入額（2024年）（千USD）



参考：International Trade Centre「Trade Map」をもとに当法人が作成

中国における製材の樹種別の平均輸入単価は、製材全体で350-440ドル/トン前後の推移となっています

中国における樹種別平均輸入単価【製材（HS4407）】



	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
◆ 製材全体	352	415	442	397	415
● スギ属・ヒノキ属含むその他針葉樹	318	248	269	254	272
● マツ属	268	369	408	364	377
● モミ属・トウヒ属	318	407	442	382	411

◆ 製材全体

● スギ属・ヒノキ属含むその他針葉樹

● マツ属

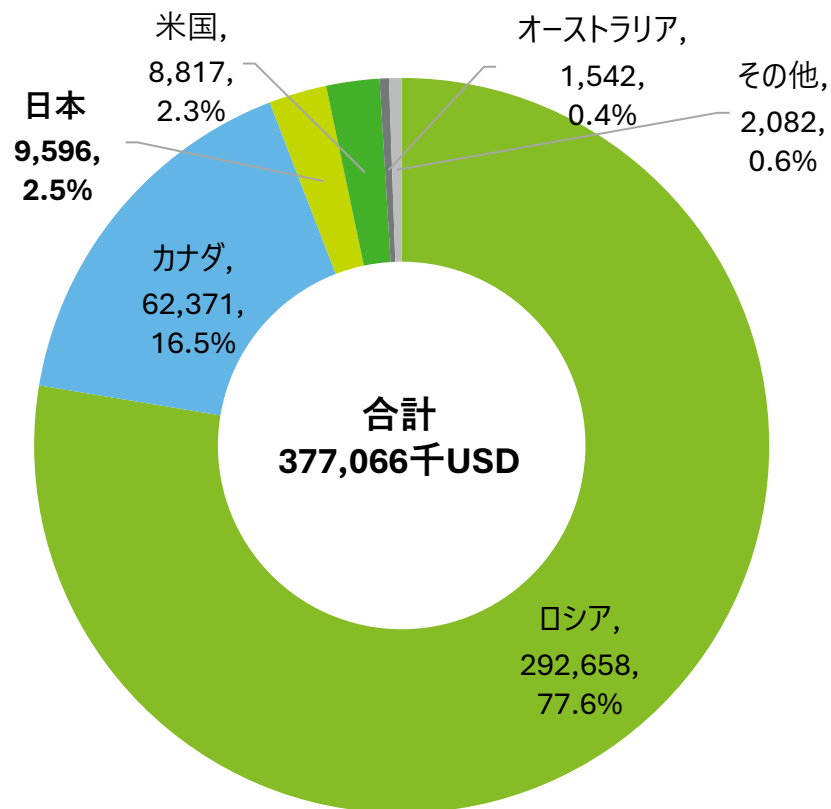
● モミ属・トウヒ属

参考：International Trade Centre「Trade Map」をもとに当法人が作成

中国はスギ・ヒノキ含む「その他針葉樹製材」をロシア、カナダ等から輸入しており、輸入額に占める日本の割合は約2.5%です

主要輸入国【その他針葉樹製材（HS4407.19）】（1/2）

その他針葉樹製材（スギ、ヒノキ等）*1（千USD）
の国別輸入額（2024年）



その他針葉樹製材（スギ、ヒノキ等）*1（m³）
の国別輸入量（2024年）

国名	輸入量（トン）	輸入量*2（m ³ ）
ロシア	1,157,316	2,106,315
カナダ	170,046	309,484
日本	33,076	60,198
米国	18,049	32,849
オーストラリア	2,086	3,797
その他	3,776	6,872
合計	1,384,349	2,519,515

参考：International Trade Centre「Trade Map」をもとに当法人が作成

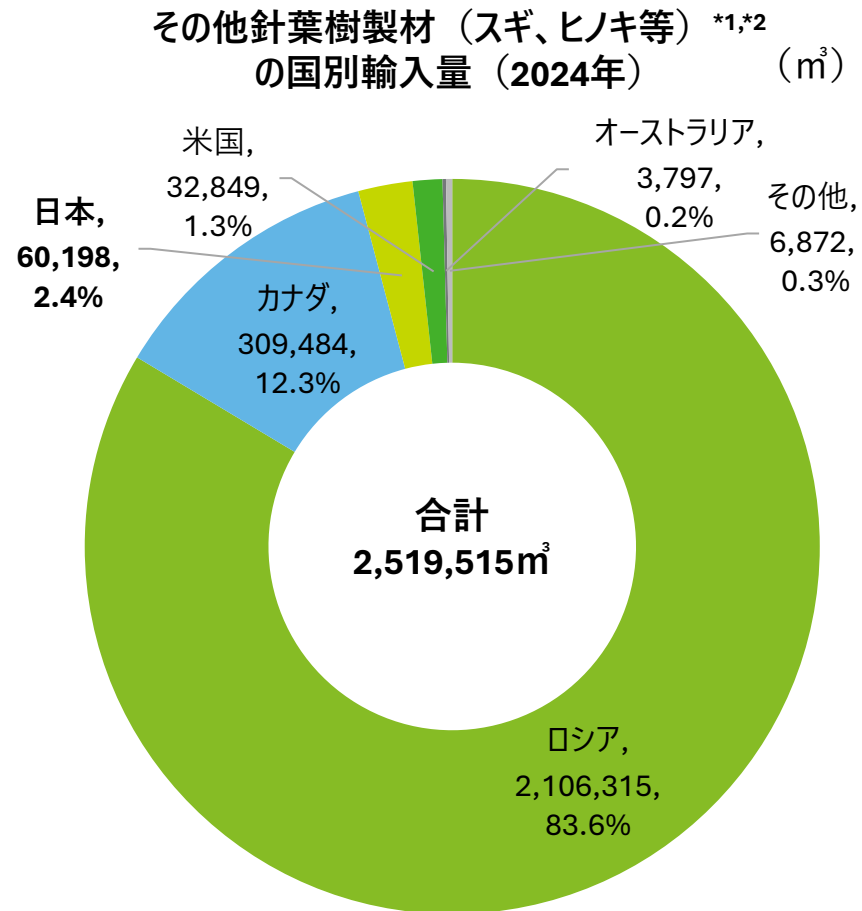
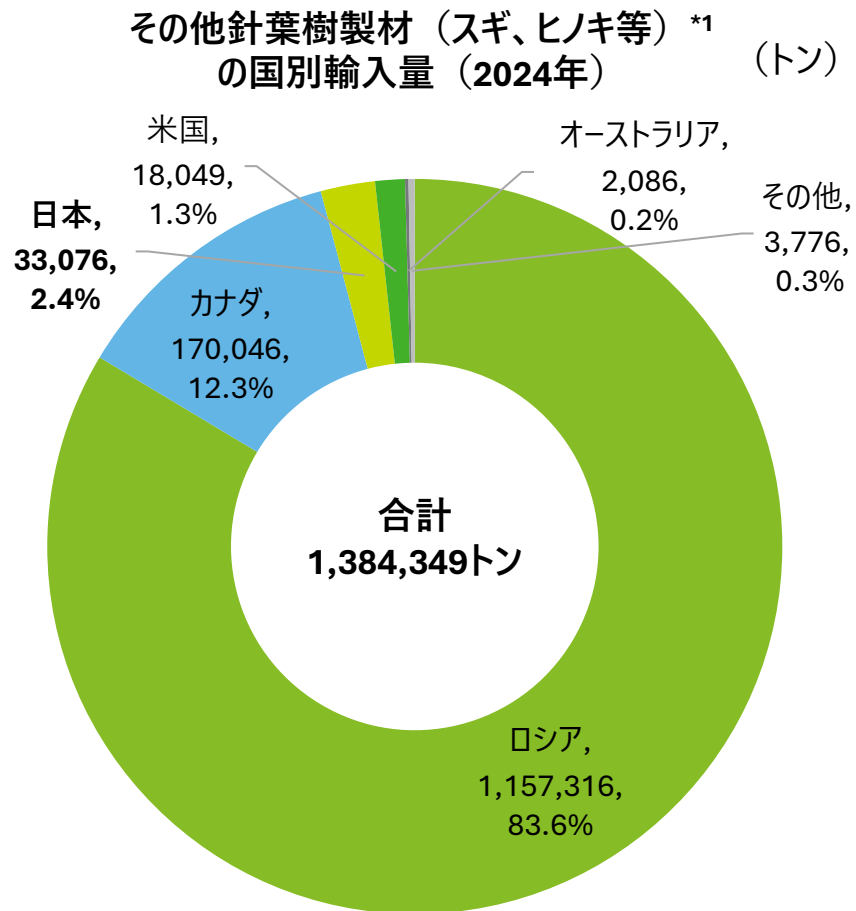
*1：「その他針葉樹製材（スギ、ヒノキ等）」は、HS4407.19（スギ属・ヒノキ属含むその他）を集計

*2：換算係数1.82を用い、トン→m³に換算

中国はスギ・ヒノキ含む「その他針葉樹製材」をロシア、カナダ等から輸入しており、輸入量に占める日本の割合は約2.4%です

主要輸入国【その他針葉樹製材（HS4407.19）】（2/2）

需要調査
輸入統計情報
製材
合板
他の面材
集成材等



参考：International Trade Centre「Trade Map」をもとに当法人が作成

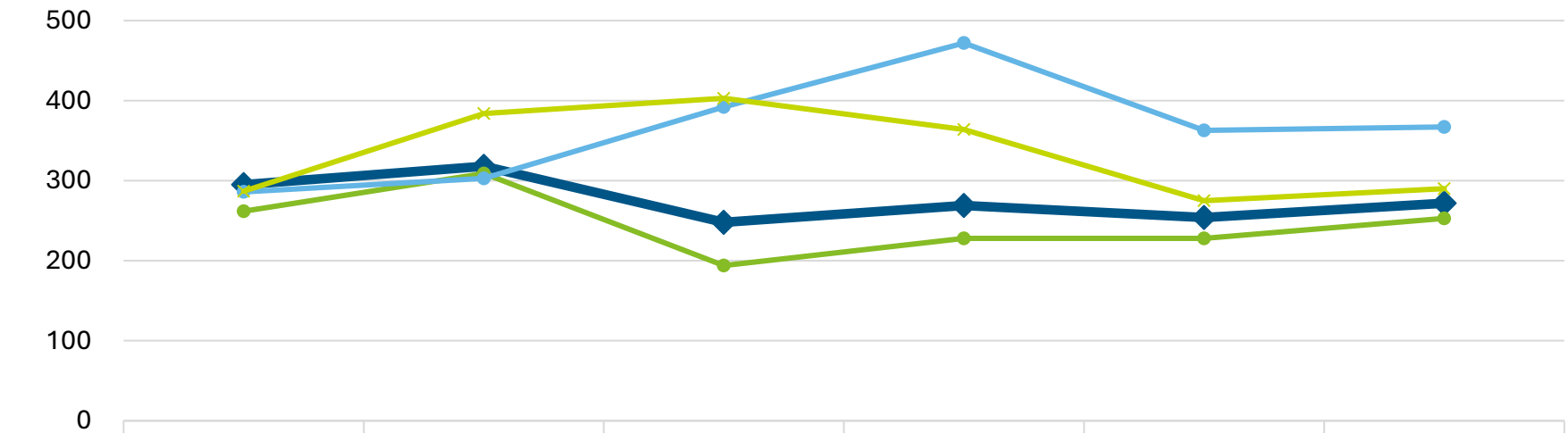
*1：「その他針葉樹製材（スギ、ヒノキ等）」は、HS4407.19（スギ属・ヒノキ属含むその他）を集計

*2：換算係数1.82を用い、トン→m³に換算

中国におけるスギ・ヒノキ含む「その他針葉樹製材」の平均輸入単価は、世界平均で250-320ドル/トン前後の推移となっています

中国における国別平均輸入単価【その他針葉樹製材（HS4407.19）】

その他針葉樹製材（スギ・ヒノキ等）*の国別輸入額（2024年）の
上位3か国の平均輸入単価（USD/トン）



	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
◆ 世界平均	295	318	248	269	254	272
● ロシア	262	309	194	228	228	253
● カナダ	286	303	392	472	363	367
✕ 日本	287	384	403	364	275	290

◆ 世界平均 ● ロシア ● カナダ ✕ 日本

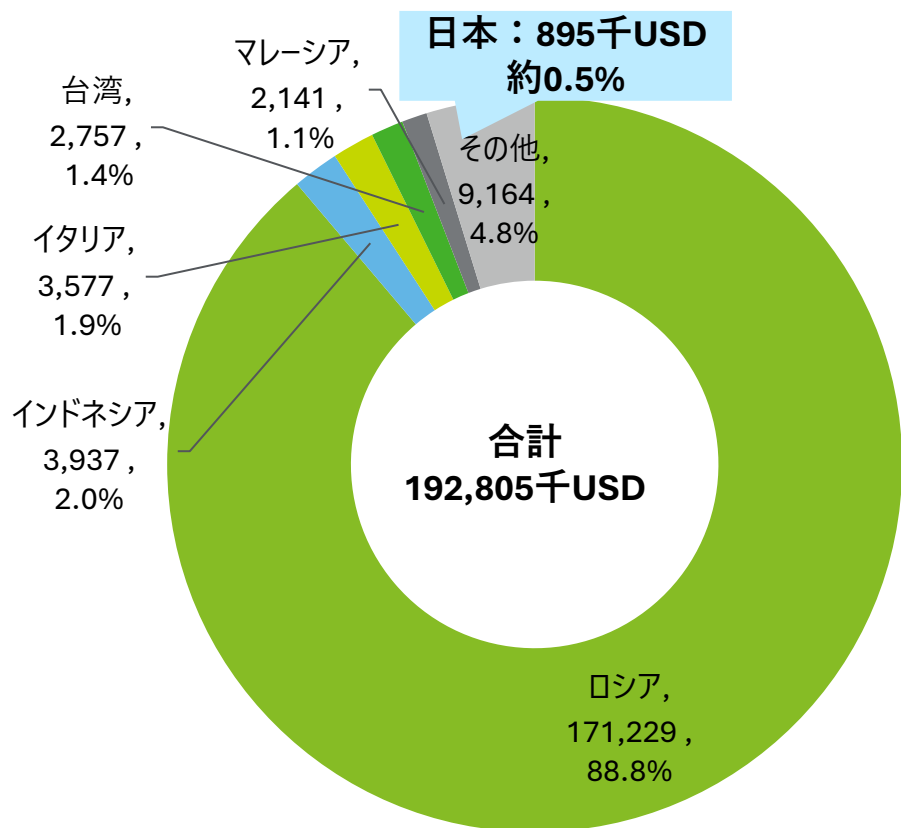
参考：International Trade Centre「Trade Map」をもとに当法人が作成

* 「その他針葉樹製材（スギ、ヒノキ等）」は、HS4407.19（スギ属・ヒノキ属含むその他）を集計

中国は合板を主にロシアから輸入しており、輸入額に占める日本の割合は約0.5%です

主要輸入国【合板（HS4412.10, 4412.31, 4412.33-34, 4412.39）】（1/2）

合板の国別輸入額（2024年）（千USD）



合板の国別輸入量（2024年）

国名	輸入量（トン）	輸入量*（m ³ ）
ロシア	233,569	359,696
インドネシア	4,185	6,445
マレーシア	2,956	4,552
ベトナム	2,135	3,288
日本	1,171	1,803
その他	5,750	8,855
合計	249,766	384,640

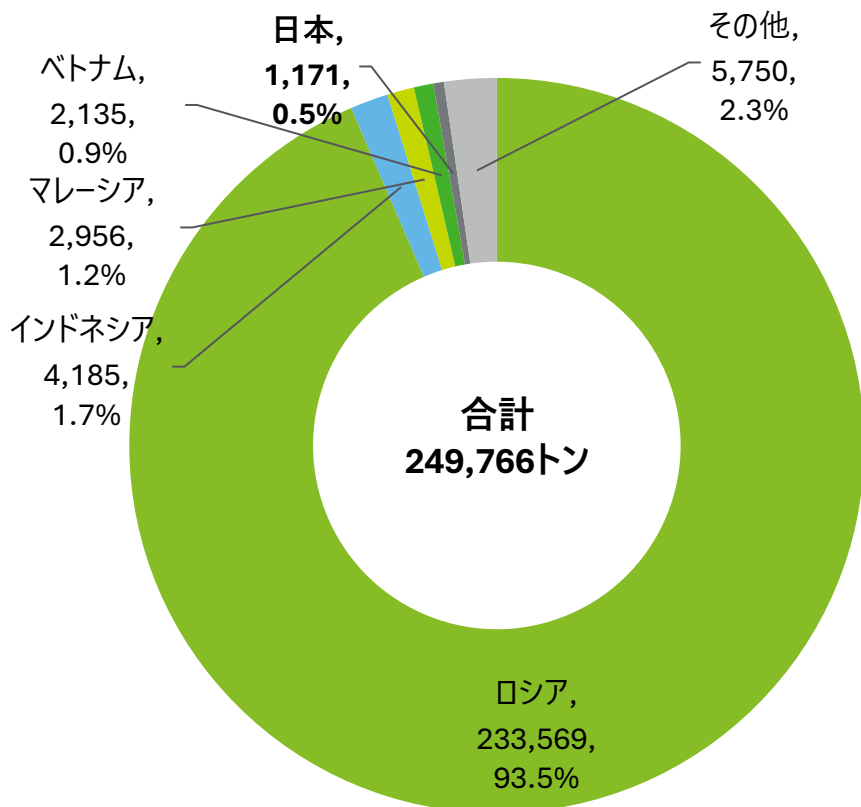
参考：International Trade Centre「Trade Map」をもとに当法人が作成

* 換算係数1.54を用い、トン→m³に換算

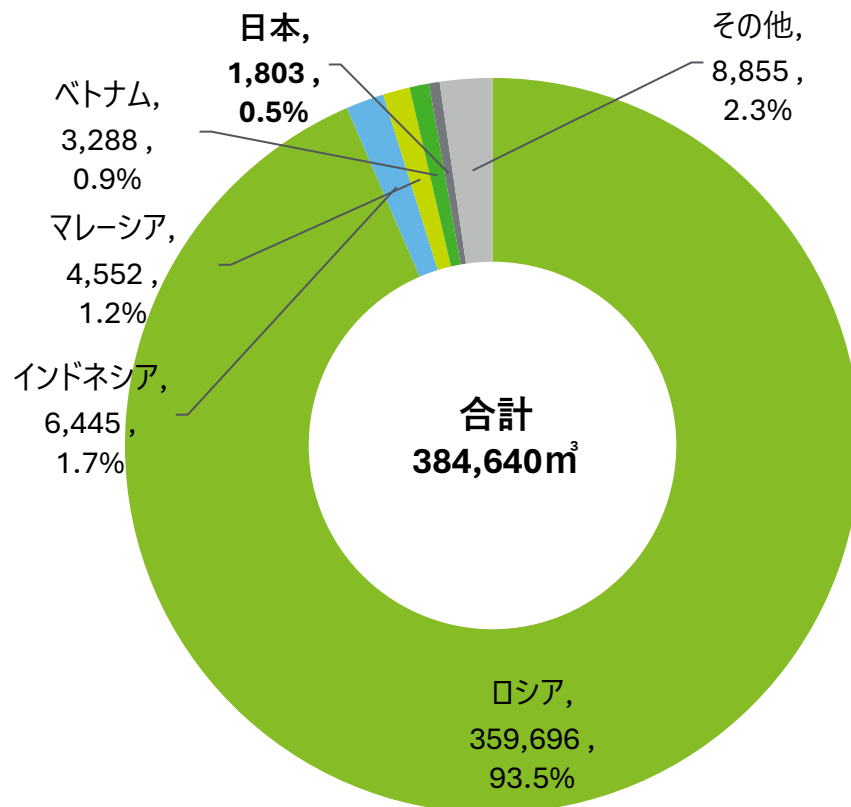
中国は合板を主にロシアから輸入しており、輸入量に占める日本の割合は約0.5%です

主要輸入国【合板（HS4412.10, 4412.31, 4412.33-34, 4412.39）】（2/2）

合板の国別輸入量（2024年）（トン）



合板の国別輸入量（2024年）*（m³）



参考：International Trade Centre「Trade Map」をもとに当法人が作成

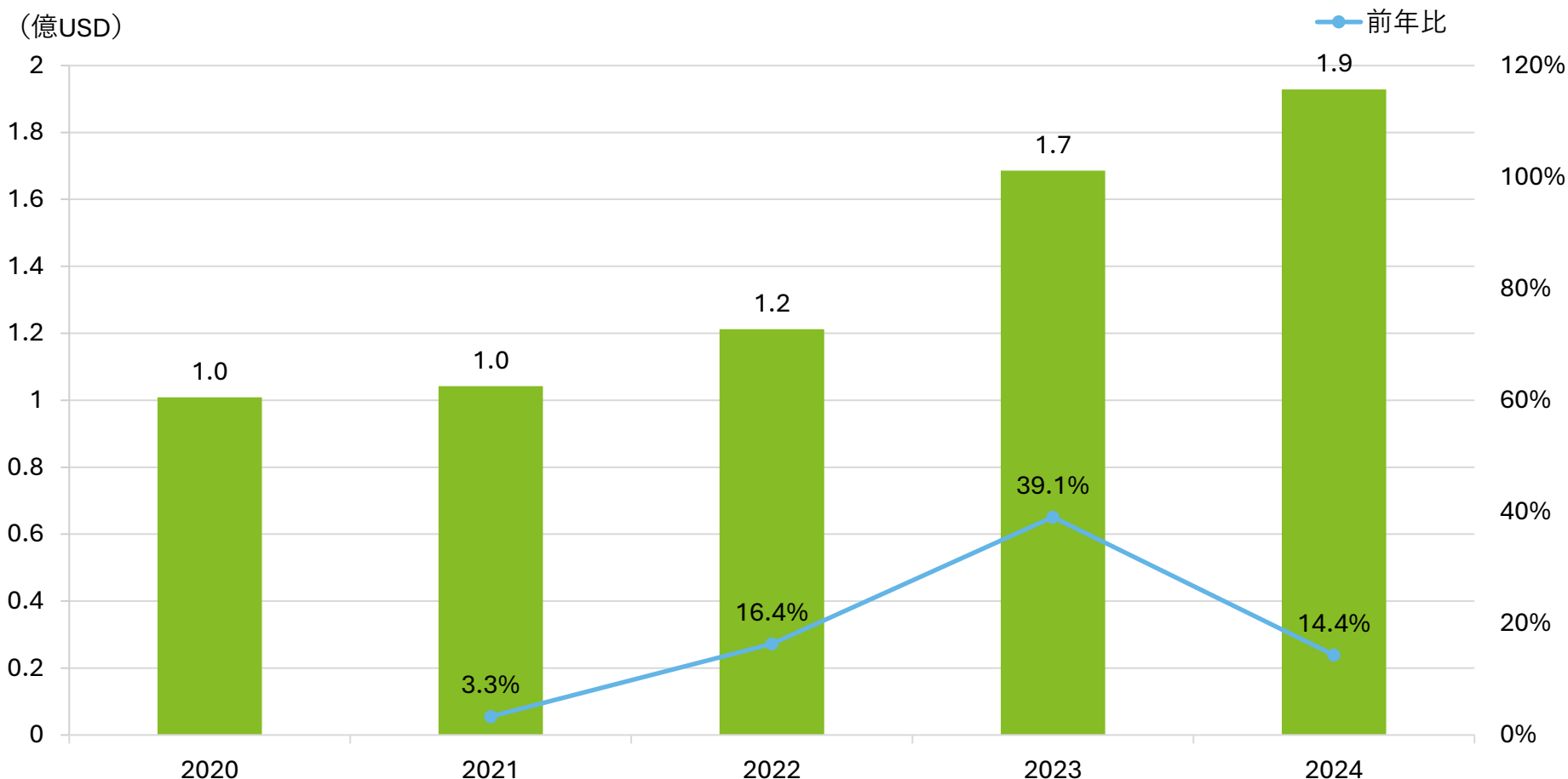
* 換算係数1.54を用い、トン→m³に換算

近年の中国における合板の輸入額は年々増加を続けており、2020年から2024年までの5年間で、約2倍になっています

輸入額推移【合板（HS4412.10, 4412.31, 4412.33-34, 4412.39）】

需要調査
輸入統計情報
製材
合板
他の面材
集成材等

合板の輸入額の推移（2020年~2024年）

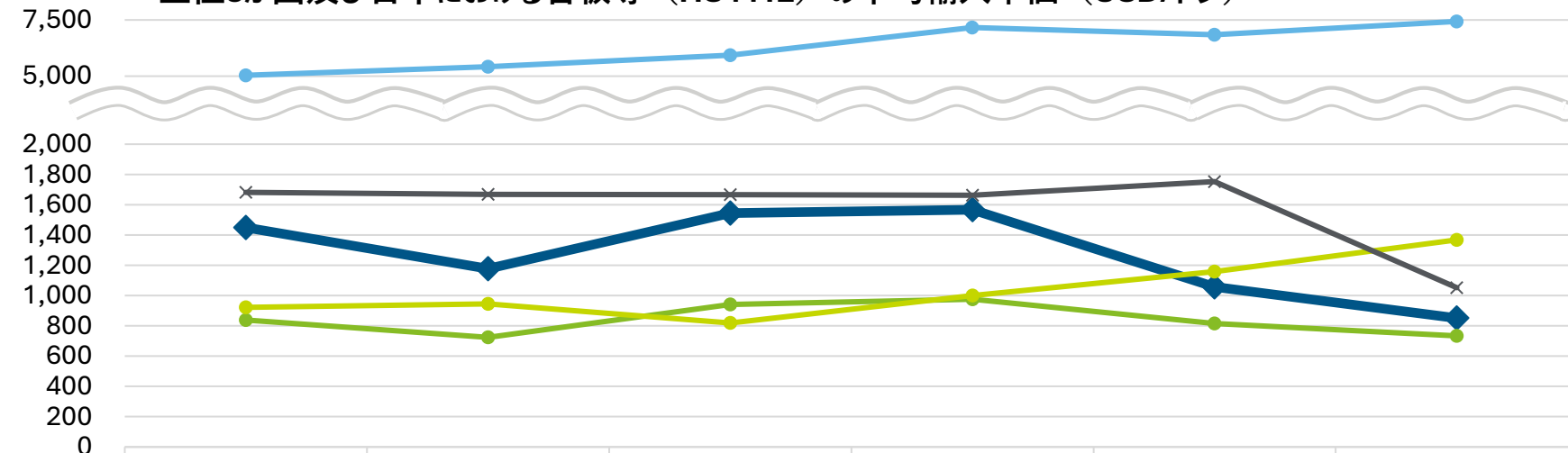


参考：International Trade Centre「Trade Map」をもとに当法人が作成

中国における合板等の平均輸入単価は、世界平均で850-1,570ドル/トン前後の推移となっています

中国における国別平均輸入単価【合板等（HS4412）*】

合板（HS4412.10, 4412.31, 4412.33, 4412.34, 4412.39）の国別輸入額（2024年）
 上位3か国及び日本における合板等（HS4412）の平均輸入単価（USD/トン）



	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
世界平均	1,449	1,177	1,545	1,567	1,058	851
ロシア	839	724	941	976	815	734
イタリア	5,038	5,424	5,935	7,168	6,841	7,435
インドネシア	922	945	819	1,000	1,159	1,368
日本	1,682	1,669	1,667	1,662	1,753	1,052

世界平均 ロシア イタリア インドネシア 日本

参考：International Trade Centre「Trade Map」をもとに当法人が作成

* 平均輸入単価はHSコード4桁で算出（6桁は単価の取得が不可のため）、HS4412は合板の他、LVL、ブロックボード、その他積層木材を含む

中国はOSB・パーティクルボード等を主にポーランド、ブラジル、タイ等から輸入しており、輸入額に占める日本の割合は約0.2%です

主要輸入国【OSB・パーティクルボード等（HS4410）】（1/2）

OSB・パーティクルボード等*1の国別輸入額（2024年）(千USD)

OSB・パーティクルボード等*1の国別輸入量（2024年）

需要調査

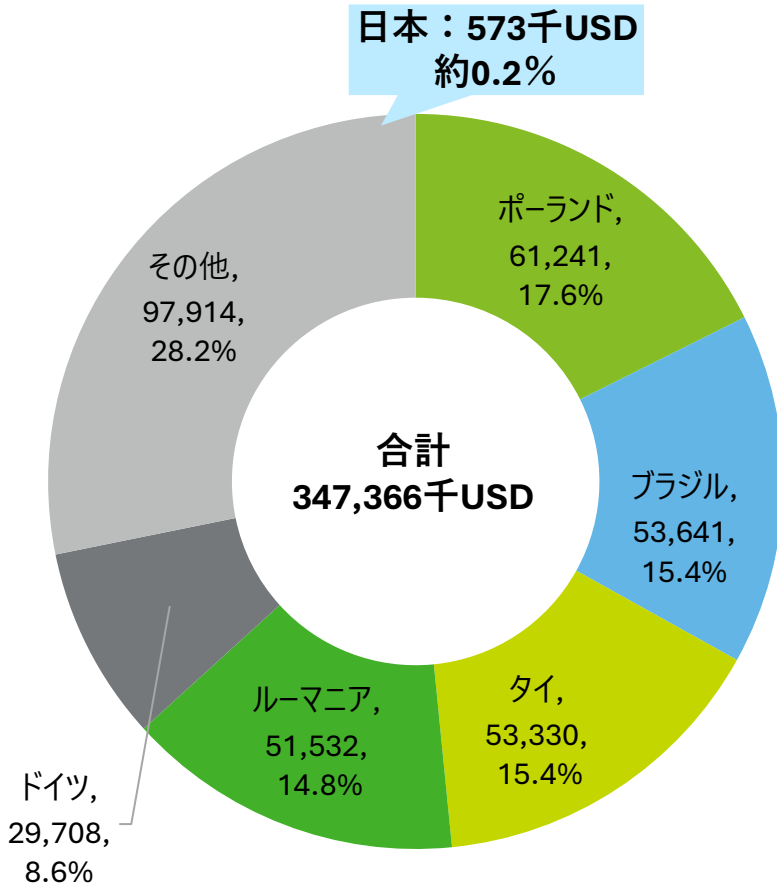
輸入統計情報

製材

合板

他の面材

集成材等



国名	輸入量 (トン)	輸入量*2 (m ³)
タイ	227,392	350,184
ブラジル	142,390	219,281
ポーランド	82,259	126,679
ルーマニア	73,959	113,897
ドイツ	49,724	76,575
その他	189,048	291,134
合計	764,772	1,177,749

参考：International Trade Centre「Trade Map」をもとに当法人が作成

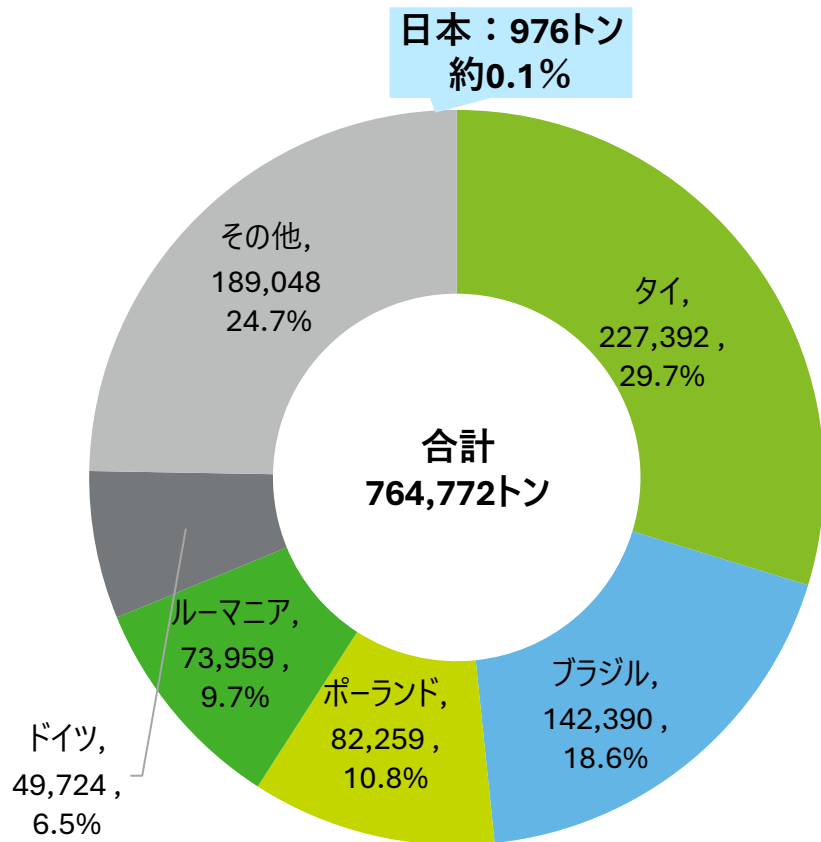
*1：OSB、パーティクルボード、その他木質ボード等を含む

*2：換算係数1.54を用い、トン→m³に換算

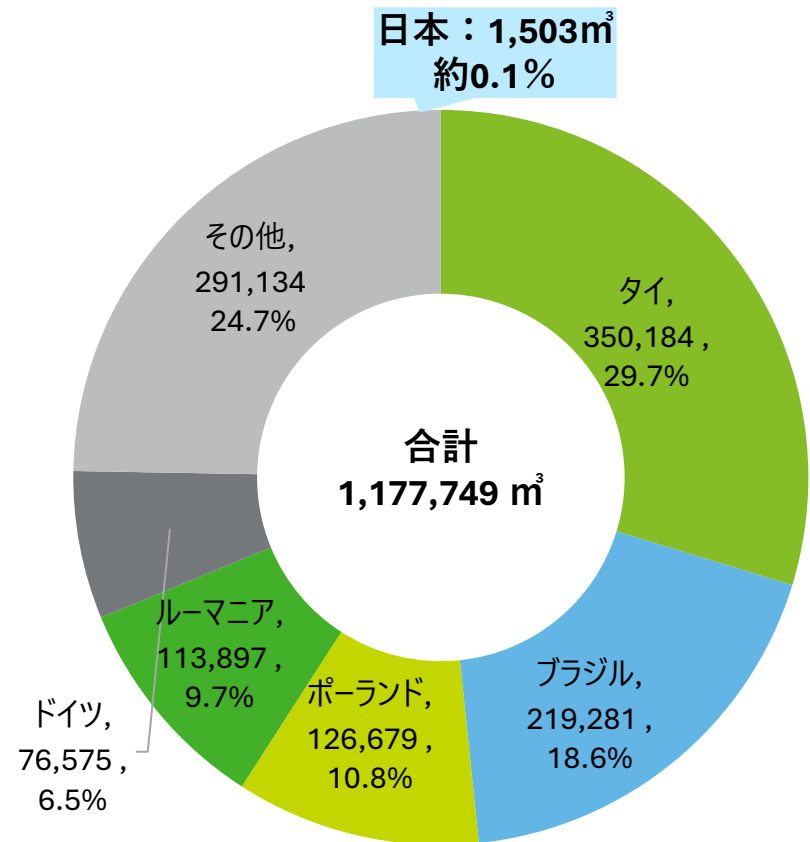
中国はOSB・パーティクルボード等を主にタイ、ブラジル、ポーランド等から輸入しており、輸入量に占める日本の割合は約0.1%です

主要輸入国【OSB・パーティクルボード等（HS4410）】（2/2）

OSB・パーティクルボード等*1の国別輸入量（2024年）(トン)



OSB・パーティクルボード等*1の国別輸入量（2024年）*2(m³)



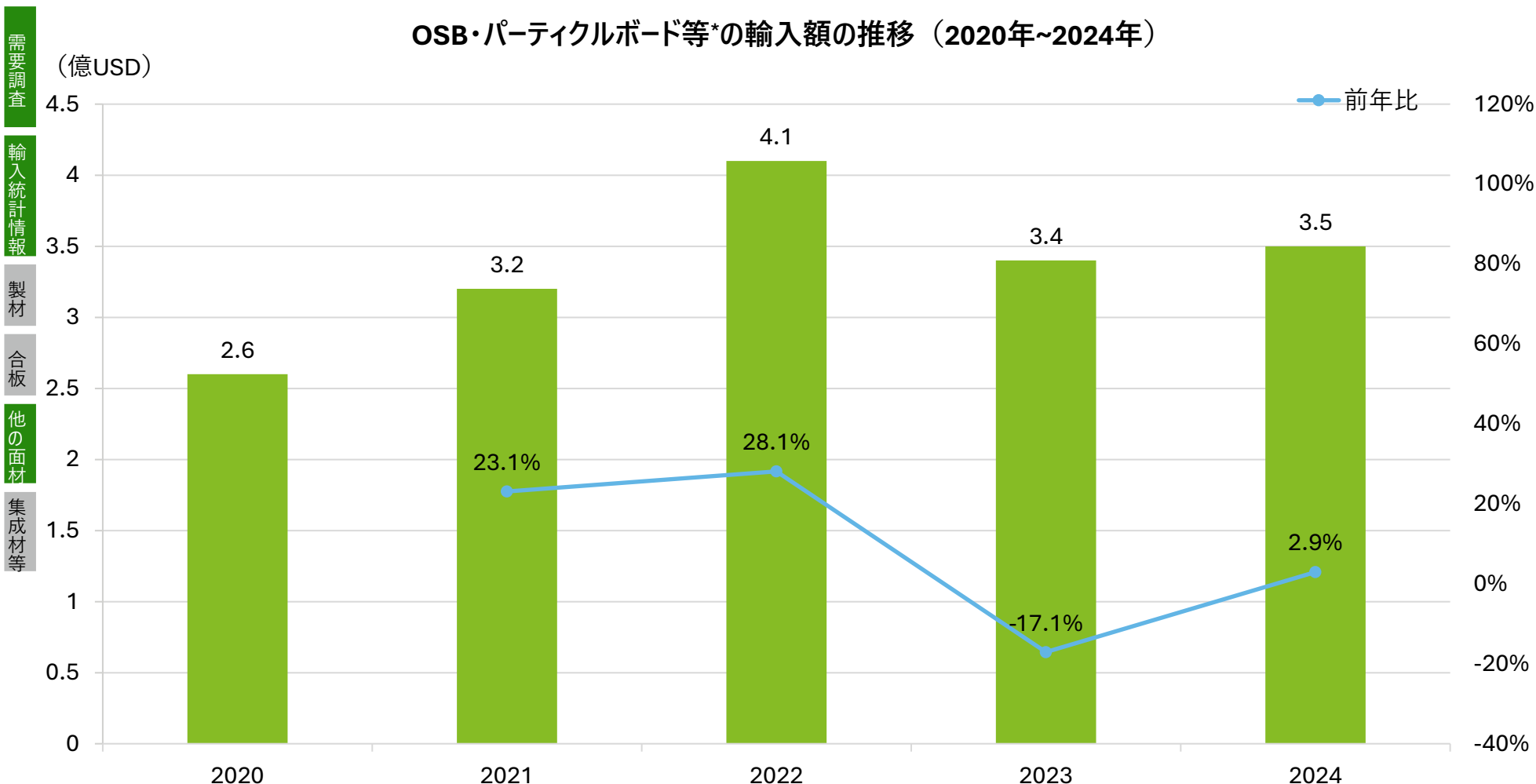
参考：International Trade Centre「Trade Map」をもとに当法人が作成

*1：OSB、パーティクルボード、その他木質ボード等を含む

*2：換算係数1.54を用い、トン→m³に換算

近年の中国におけるOSB・パーティクルボード等の輸入額は3-4億ドル前後で推移しています

輸入額推移【OSB・パーティクルボード等（HS4410）】



参考：International Trade Centre「Trade Map」をもとに当法人が作成

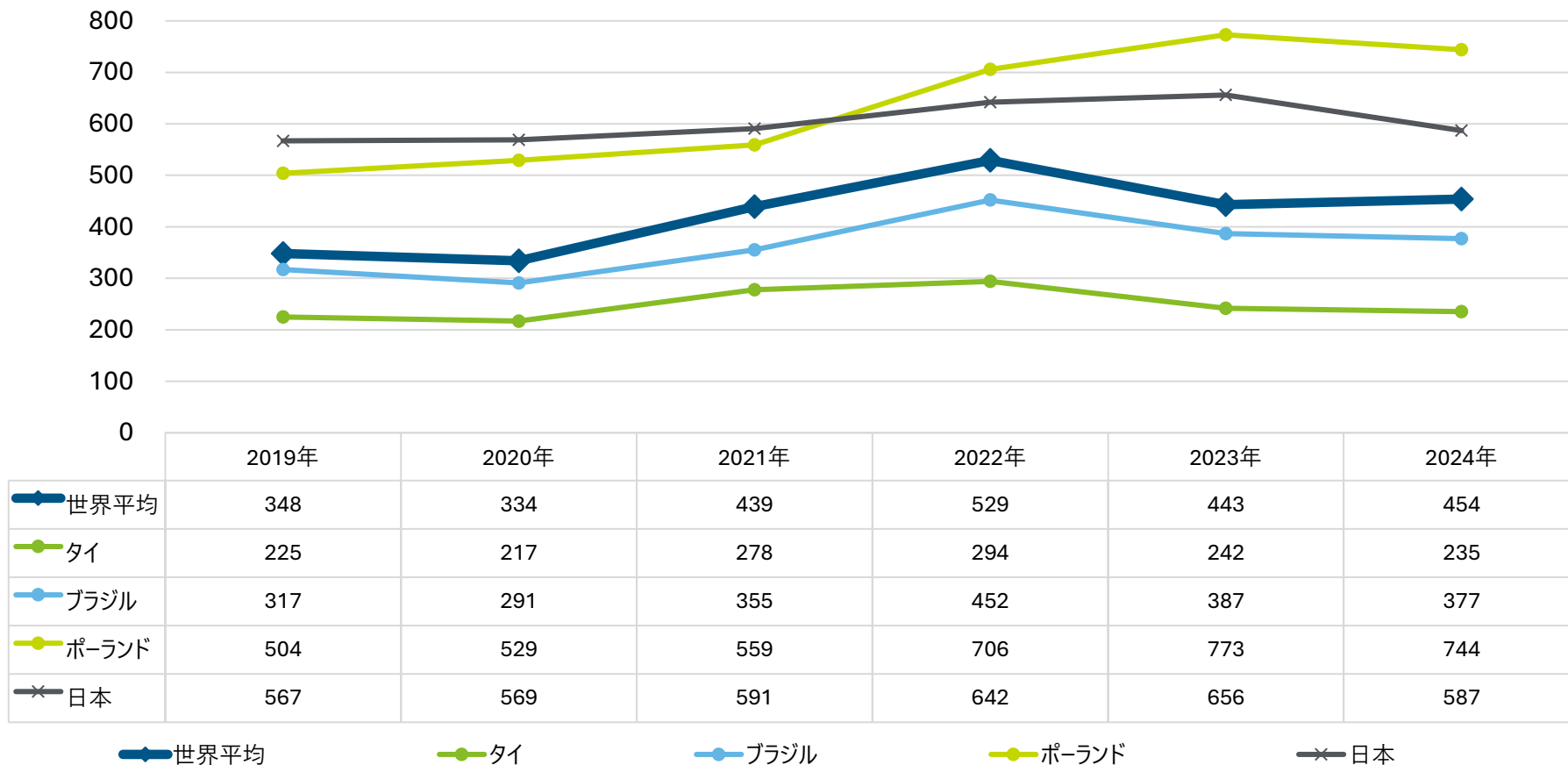
* OSB、パーティクルボード、その他木質ボード等を含む

30 輸出相手国の市場実態等調査（中国）

中国におけるOSB・パーティクルボード等の平均輸入単価は、世界平均で330-530ドル/トン前後の推移となっています

中国における国別平均輸入単価【OSB・パーティクルボード等（HS4410）】

OSB・パーティクルボード等*の国別輸入額（2024年）の上位3か国及び日本の平均輸入単価（USD/トン）
 (USD/トン)



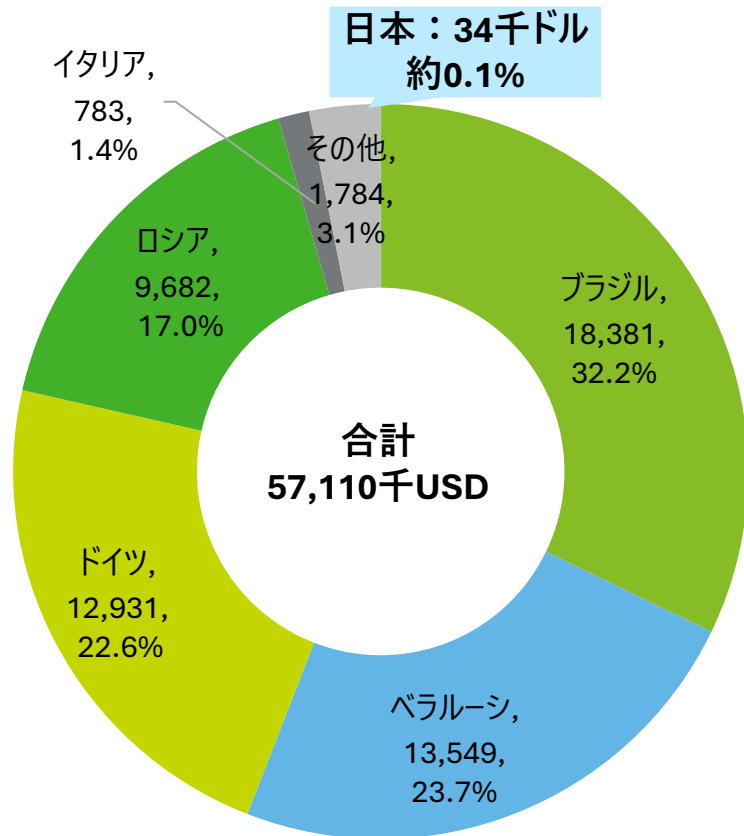
参考：International Trade Centre「Trade Map」をもとに当法人が作成

* OSB、パーティクルボード、その他木質ボード等を含む

中国はOSBを主にブラジル、ベラルーシ、ドイツ、ロシア等から輸入しており、日本からの輸入額は全体の約0.1%です

主要輸入国【OSB（HS4410.12）】（1/2）

OSBの国別輸入額（2024年）（千USD）



OSBの国別輸入量（2024年）

国名	輸入量 (トン)	輸入量* (m ³)
ブラジル	40,420	62,247
ベラルーシ	34,126	52,554
ロシア	26,728	41,161
ドイツ	26,148	40,268
マレーシア	2,417	3,722
その他	3,739	5,758
合計	133,578	205,710

参考：International Trade Centre「Trade Map」をもとに当法人が作成

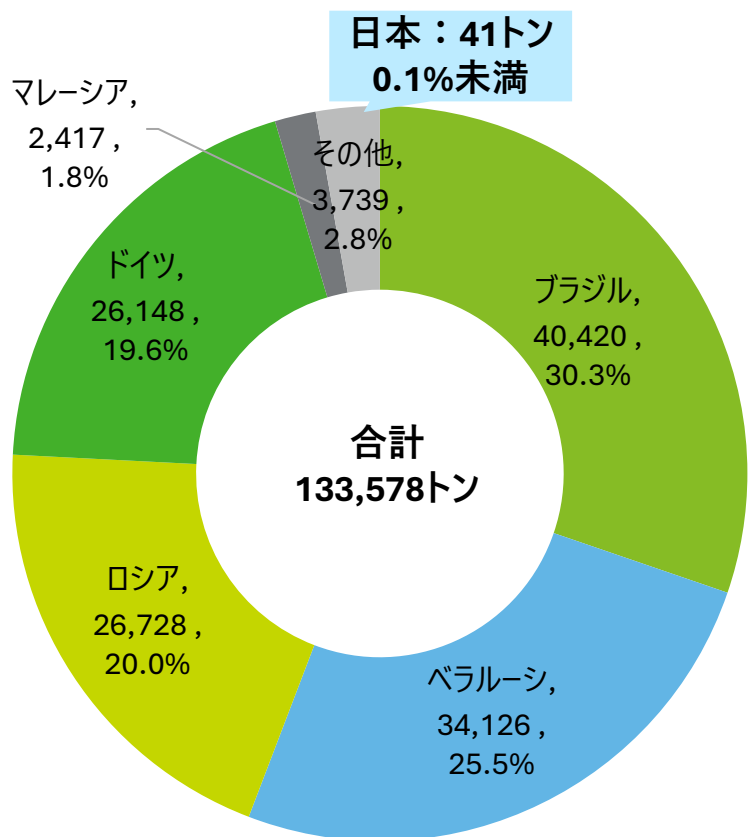
* 換算係数1.54を用い、トン→m³に換算

32 輸出相手国の市場実態等調査（中国）

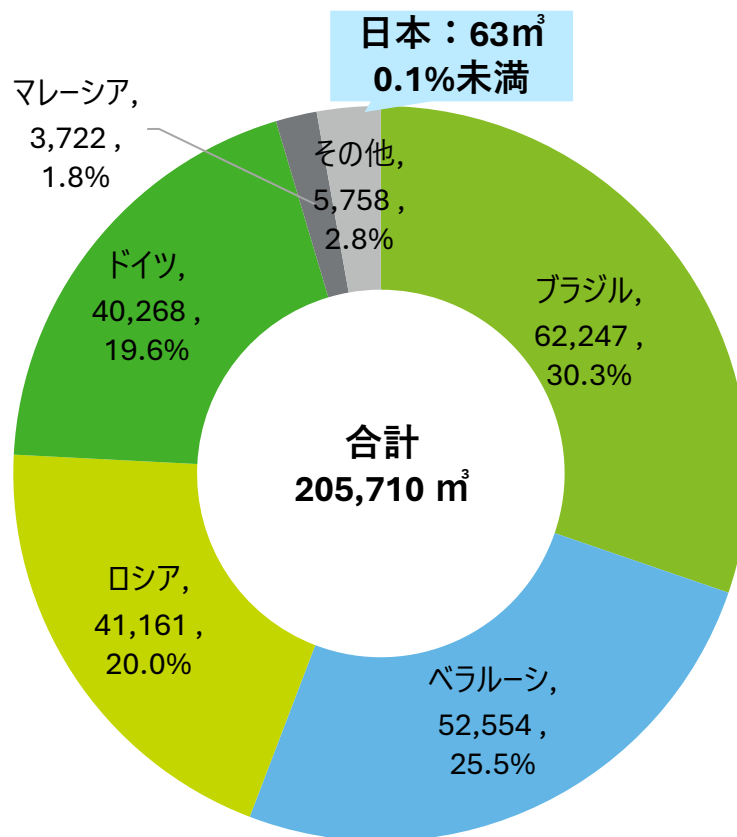
中国は、OSBを主に、ブラジル、ベラルーシ、ロシア、ドイツ等から輸入しており、日本からの輸入量は、全体の0.1%未満です

主要輸入国【OSB (HS4410.12)】 (2/2)

OSBの国別輸入量 (2024年) (トン)



OSBの国別輸入量 (2024年) * (m³)



参考：International Trade Centre「Trade Map」をもとに当法人が作成

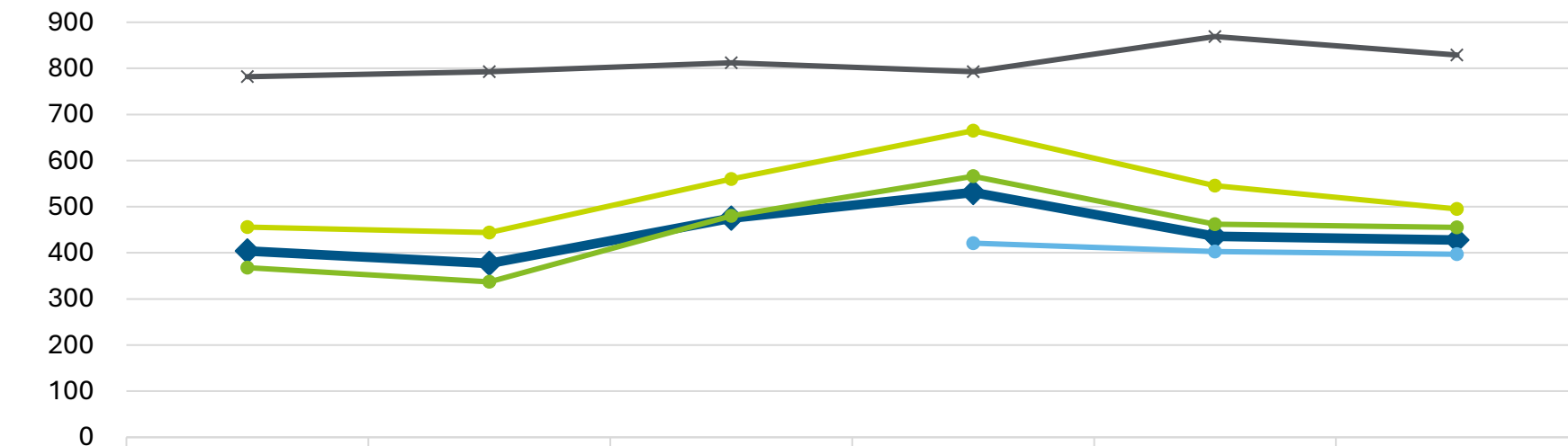
* 換算係数1.54を用い、トン→m³に換算

中国におけるOSBの平均輸入単価は、世界平均で380-530ドル/トン前後の推移となっています

中国における国別平均輸入単価【OSB（HS4410.12）】

OSBの国別輸入額（2024年）の上位3か国及び日本の平均輸入単価（USD/トン）

(USD/トン)



	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
世界平均	404	377	475	531	436	428
ブラジル	368	337	480	566	462	455
ベラルーシ	—	—	—	421	403	397
ドイツ	456	444	560	665	546	495
日本	782	793	812	793	869	829

◆ 世界平均

● ブラジル

● ベラルーシ

● ドイツ

× 日本

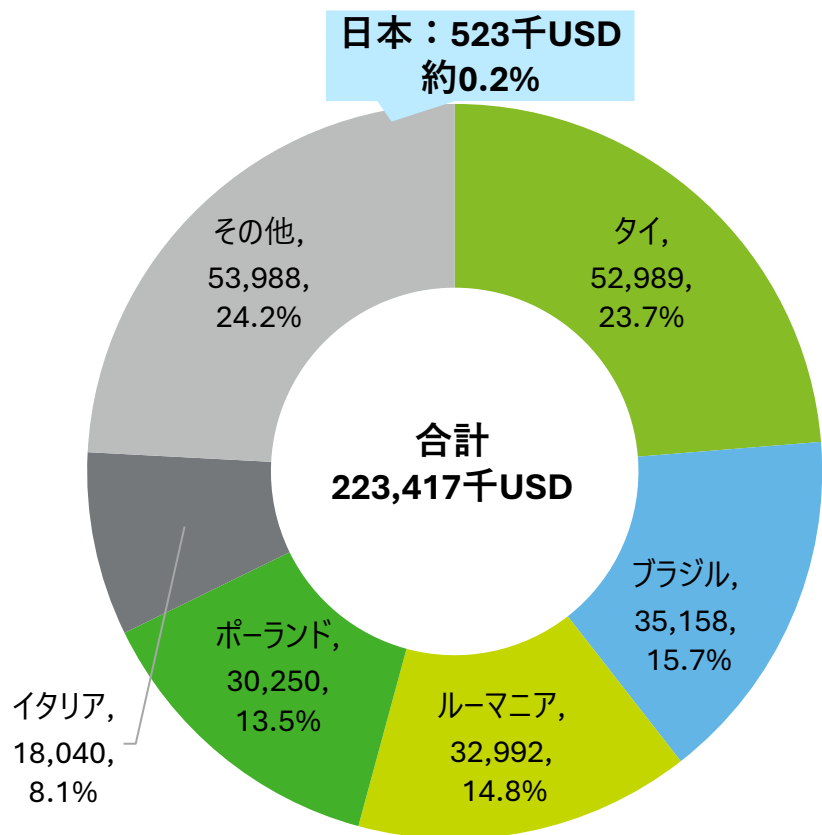
参考：International Trade Centre「Trade Map」をもとに当法人が作成

* 表中「-」の記載箇所は参考元データが欠損していることを示す

中国はパーティクルボードを主にタイ、ブラジル、ルーマニア、ポーランド等から輸入しており、輸入額に占める日本の割合は約0.2%です

主要輸入国【パーティクルボード（HS4410.11）】（1/2）

パーティクルボードの国別輸入額（2024年）（千USD）



パーティクルボードの国別輸入量（2024年）

国名	輸入量 (トン)	輸入量* (m ³)
タイ	225,715	347,601
ブラジル	101,704	156,624
ルーマニア	47,363	72,939
ポーランド	39,858	61,381
マレーシア	26,904	41,432
その他	102,103	157,239
合計	543,647	837,216

参考：International Trade Centre「Trade Map」をもとに当法人が作成

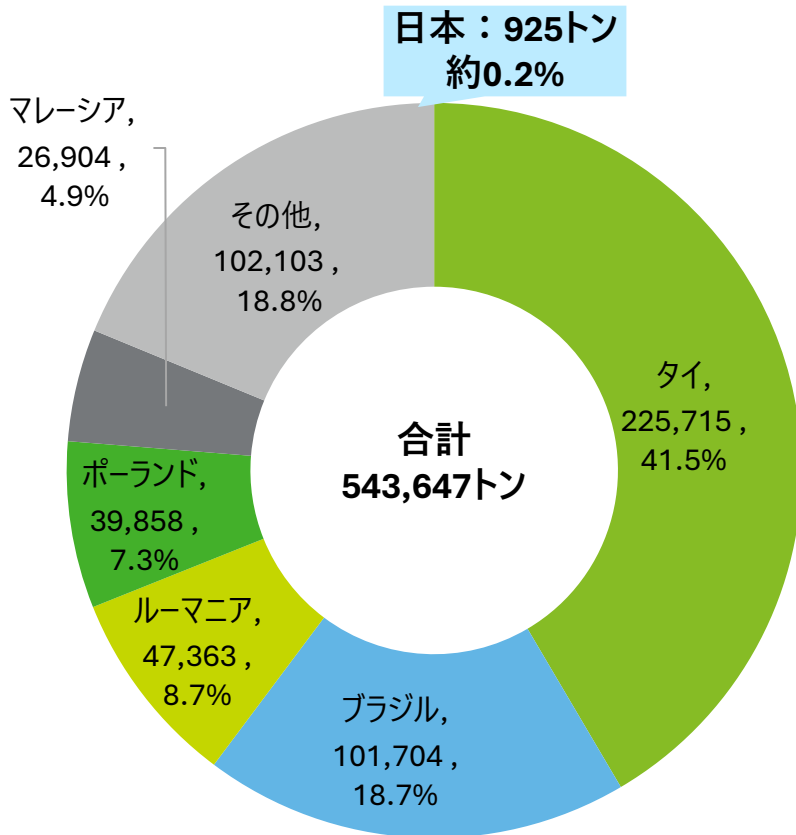
* 換算係数1.54を用い、トン→m³に換算

35 輸出相手国の市場実態等調査（中国）

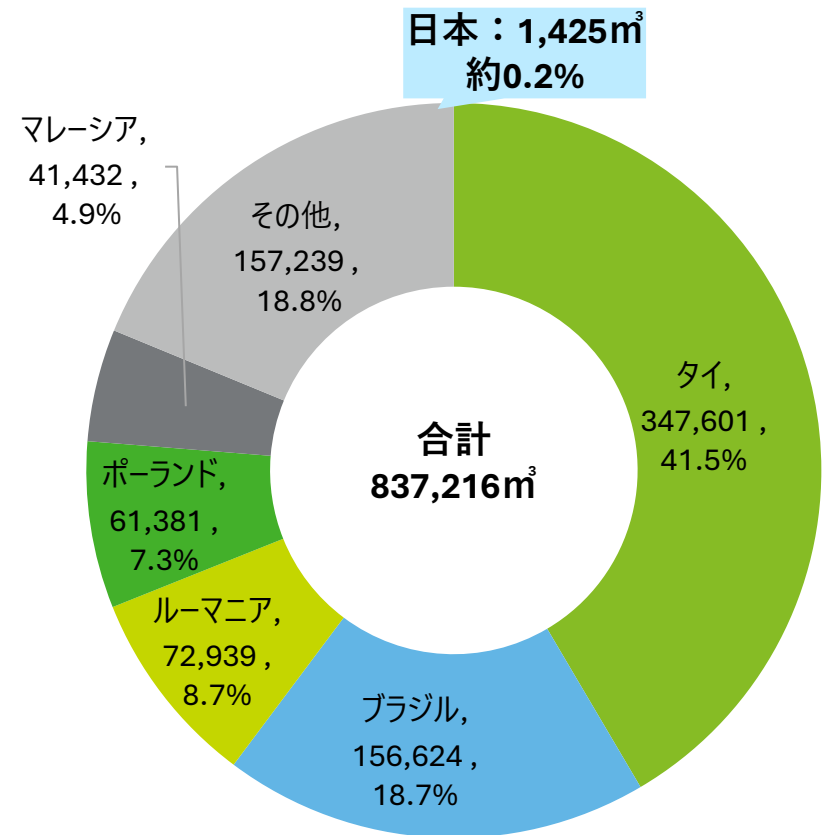
中国はパーティクルボードを主にタイ、ブラジル、ルーマニア、ポーランド等から輸入しており、輸入量に占める日本の割合は約0.2%です

主要輸入国【パーティクルボード（HS4410.11）】（2/2）

パーティクルボードの国別輸入量（2024年）（トン）



パーティクルボードの国別輸入量（2024年）*（m³）



参考：International Trade Centre「Trade Map」をもとに当法人が作成

* 換算係数1.54を用い、トン→m³に換算

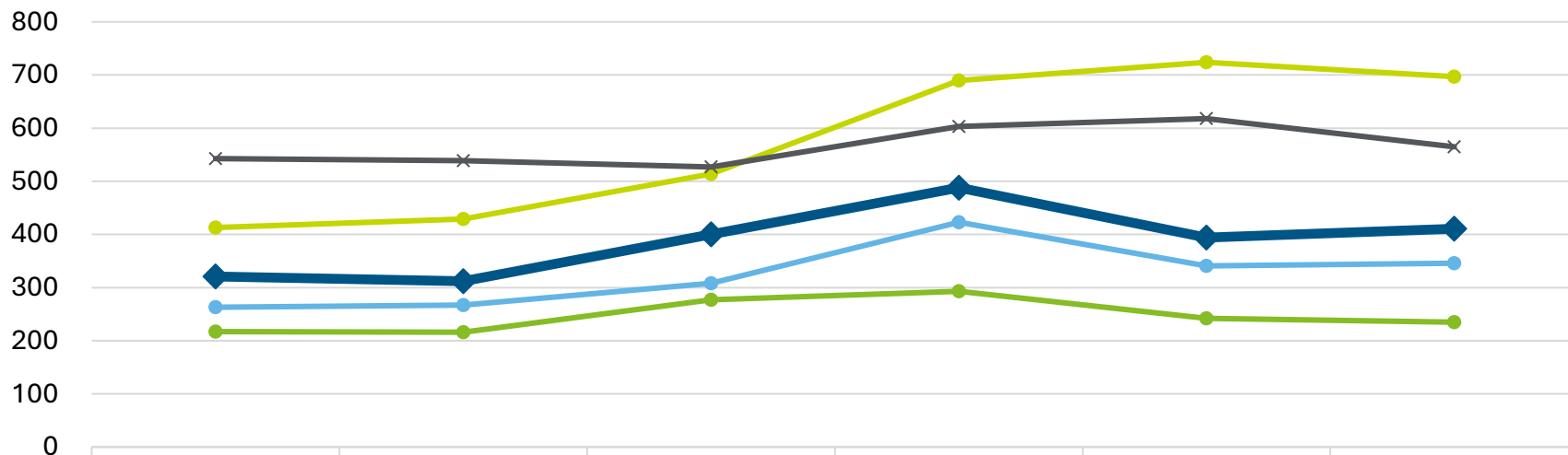
中国におけるパーティクルボードの平均輸入単価は、世界平均で310-490ドル/トン前後の推移となっています

中国における国別平均輸入単価【パーティクルボード（HS4410.11）】

需要調査
輸入統計情報
製材
合板
他の面材
集成材等

パーティクルボードの輸出上位3か国の平均単価（USD/トン）

(USD/トン)



	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
◆ 世界平均	321	312	400	488	394	411
● タイ	217	216	277	293	242	235
● ブラジル	263	267	308	423	341	346
● ルーマニア	413	429	514	690	724	697
× 日本	543	539	527	603	618	565

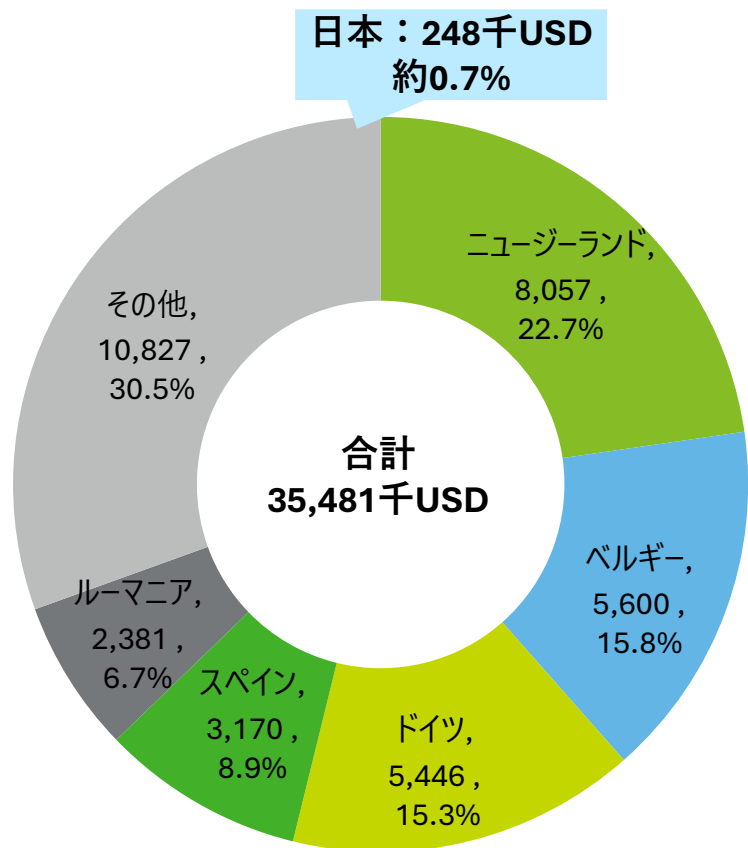
◆ 世界平均 ● タイ ● ブラジル ● ルーマニア × 日本

参考：International Trade Centre「Trade Map」をもとに当法人が作成

中国はMDFを主にニュージーランド、ベルギー、ドイツ等から輸入しており、輸入額に占める日本の割合は約0.7%です

主要輸入国【MDF（HS4411.12-14）】（1/2）

MDFの国別輸入額（2024年）（千USD）



MDFの国別輸入量（2024年）

国名	輸入量 (トン)	輸入量* (m ³)
ニュージーランド	16,733	22,422
ルーマニア	4,756	6,373
ドイツ	4,674	6,263
タイ	3,494	4,682
ベルギー	3,305	4,429
その他	9,485	12,710
合計	42,447	56,879

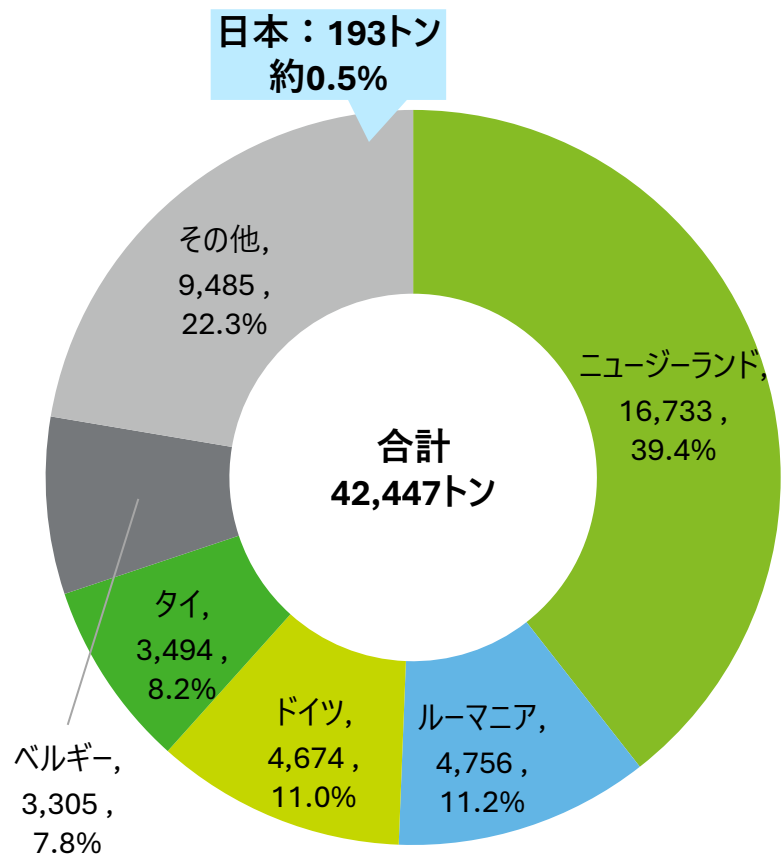
参考：International Trade Centre「Trade Map」をもとに当法人が作成

* 換算係数1.34を用い、トン→m³に換算

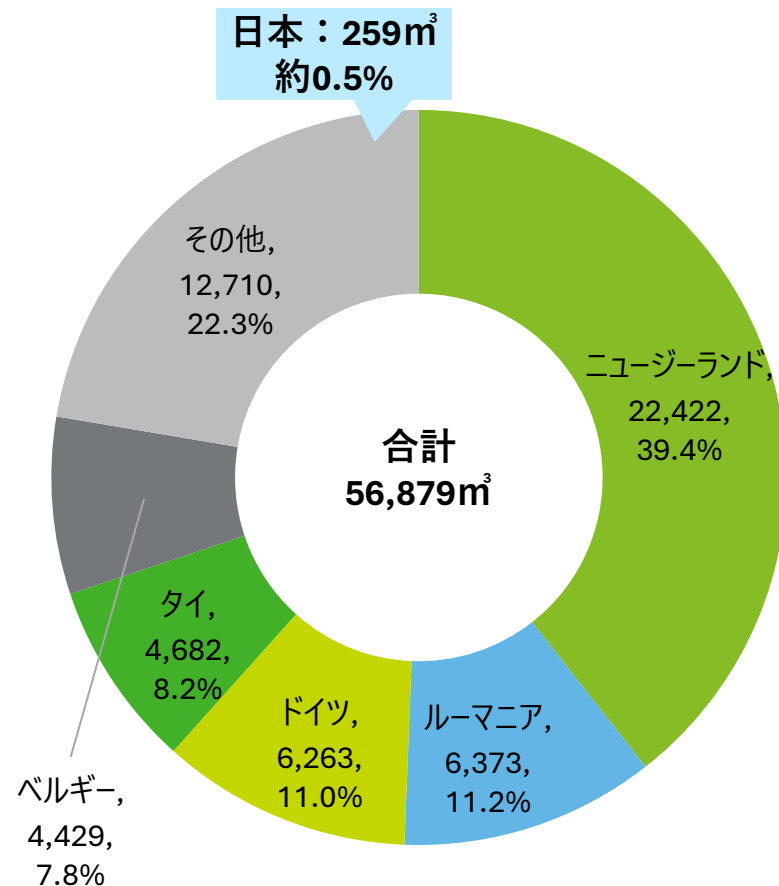
中国はMDFを主にニュージーランド、ルーマニア、ドイツ等から輸入しており、輸入量に占める日本の割合は約0.5%です

主要輸入国【MDF（HS4411.12-14）】（2/2）

MDFの国別輸入量（2024年）（トン）



MDFの国別輸入量（2024年）*（m³）

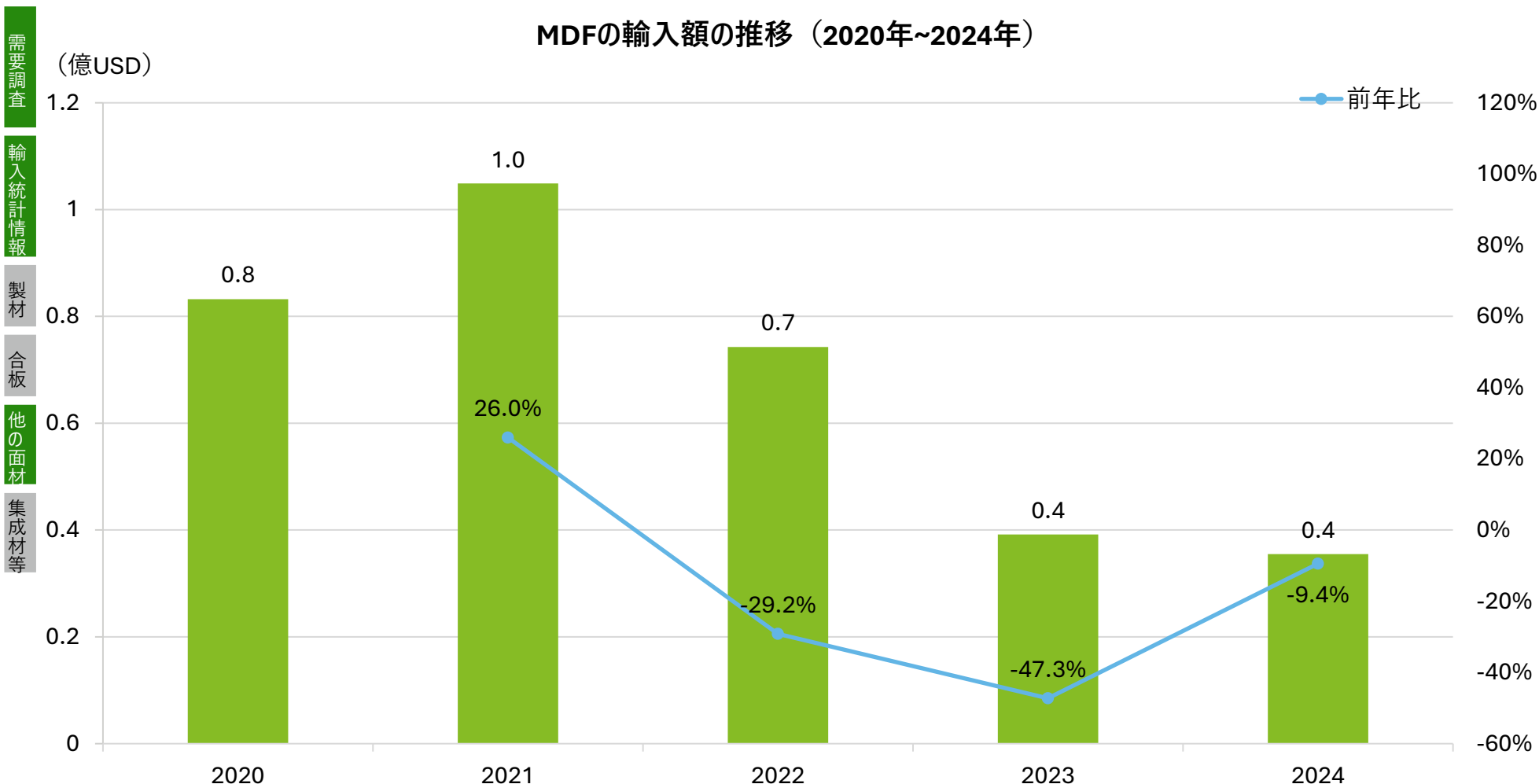


参考：International Trade Centre「Trade Map」をもとに当法人が作成

* 換算係数1.34を用い、トン→m³に換算

近年の中国におけるMDFの輸入額は、2021年をピークに減少し、直近2年は0.4億ドルで推移しています

輸入額推移【MDF（HS4411.12-14）】

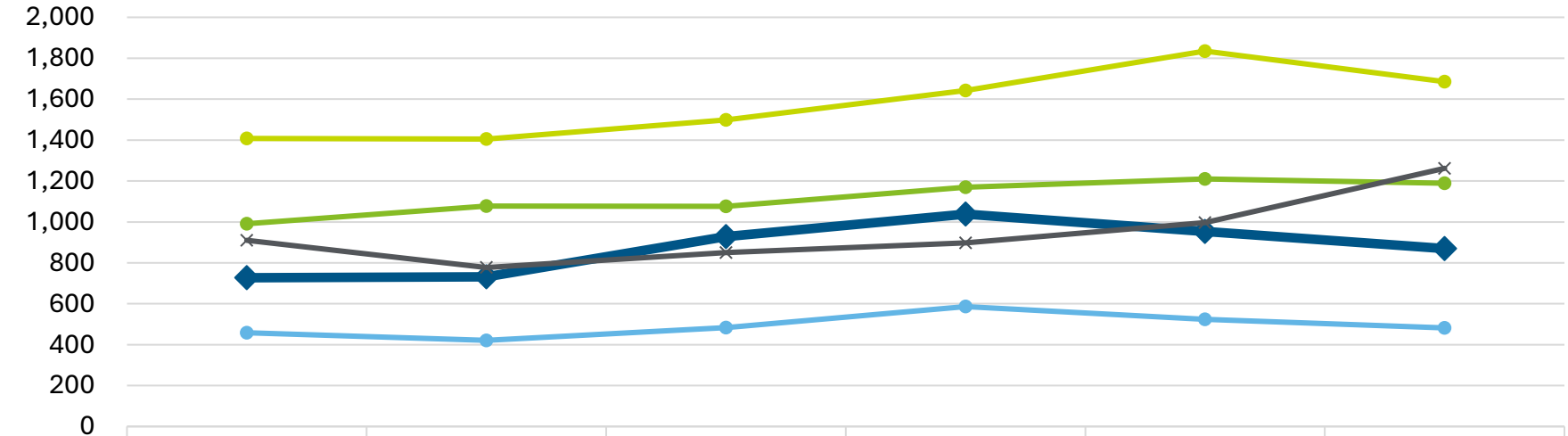


参考：International Trade Centre「Trade Map」をもとに当法人が作成

中国におけるMDF・繊維板の平均輸入単価は、世界平均で730-1,040ドル/トン前後の推移となっています

中国における国別平均輸入単価【MDF・繊維板（HS4411）*】

MDF（HS4411.12-14）の国別輸入額（2024年）の上位3か国及び日本におけるMDF・繊維板（HS4411）の平均輸入単価（USD/トン）



	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
◆ 世界平均	727	731	928	1,038	954	870
● ドイツ	991	1,078	1,076	1,169	1,210	1,189
● ニュージーランド	458	421	483	586	524	482
● ベルギー	1,408	1,405	1,499	1,642	1,835	1,686
× 日本	910	777	850	897	996	1,262

◆ 世界平均 ● ドイツ ● ニュージーランド ● ベルギー × 日本

参考：International Trade Centre「Trade Map」をもとに当法人が作成

* 平均輸入単価はHSコード4桁で算出（6桁は単価の取得が不可のため）、HS4411はMDF・その他繊維板
41 輸出相手国の市場実態等調査（中国）

需要調査

輸入統計情報

製材

合板

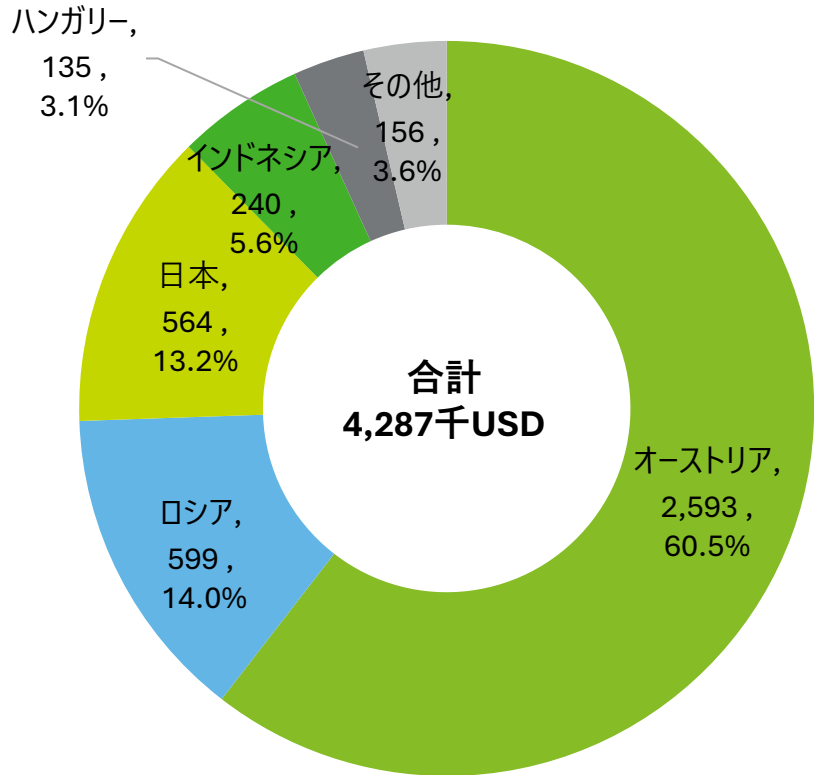
他の面材

集成材等

中国は集成材・CLT等をオーストラリア、ロシア等から輸入しており、輸入額に占める日本の割合は約13%です

主要輸入国【集成材・CLT等（HS4418.81- 83, 4418.89）】（1/2）

集成材・CLT等の国別輸入額（2024年）(千USD)



集成材・CLT等の国別輸入量（2024年）

国名	輸入量 (トン)	輸入量* (m ³)
日本	1,331	2,422
オーストリア	677	1,232
ロシア	589	1,072
インドネシア	182	331
ハンガリー	92	167
その他	135	246
合計	3,006	5,471

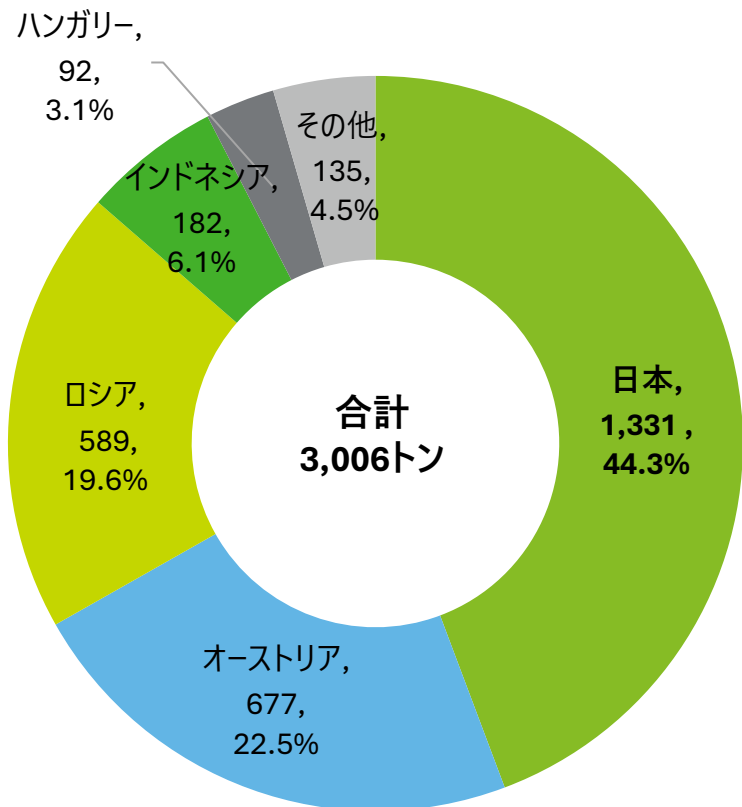
参考：International Trade Centre「Trade Map」をもとに当法人が作成

* 換算係数1.82を用い、トン→m³に換算

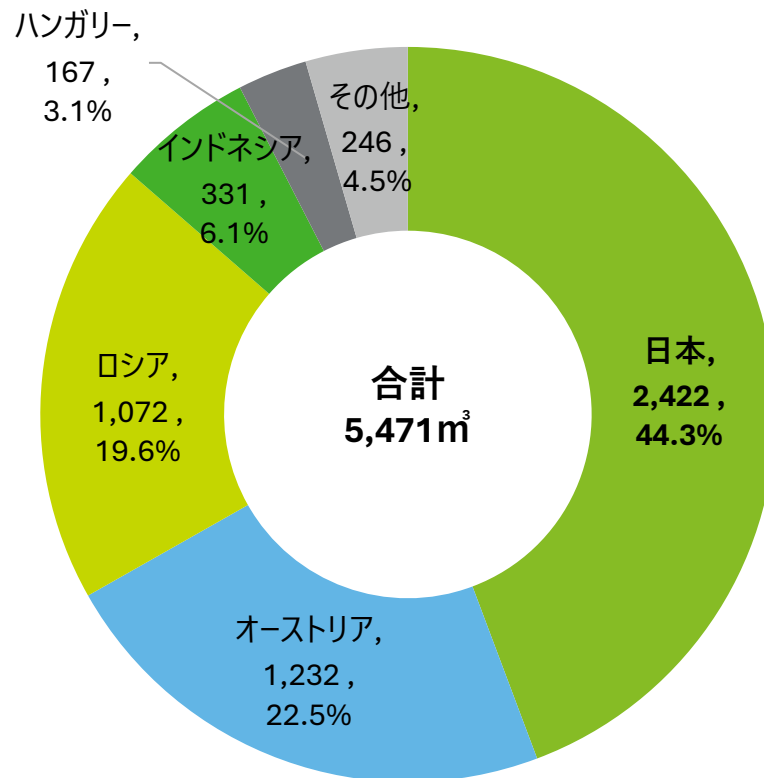
中国は集成材・CLT等を日本、オーストラリア、ロシア等から輸入しており、輸入量に占める日本の割合は約44%です

主要輸入国【集成材・CLT等（HS4418.81- 83, 4418.89）】（2/2）

集成材・CLT等の国別輸入量（2024年）(千USD)



集成材・CLT等の国別輸入量（2024年）*(m³)



参考：International Trade Centre「Trade Map」をもとに当法人が作成

* 換算係数1.82を用い、トン→m³に換算

43 輸出相手国の市場実態等調査（中国）

需要調査

輸入統計情報

製材

合板

他の面材

集成材等

近年の中国における集成材・CLT等の輸入額は、2024年に大きく増加しています

輸入額推移【集成材・CLT等（HS4418.81- 83, 4418.89）】

需要調査

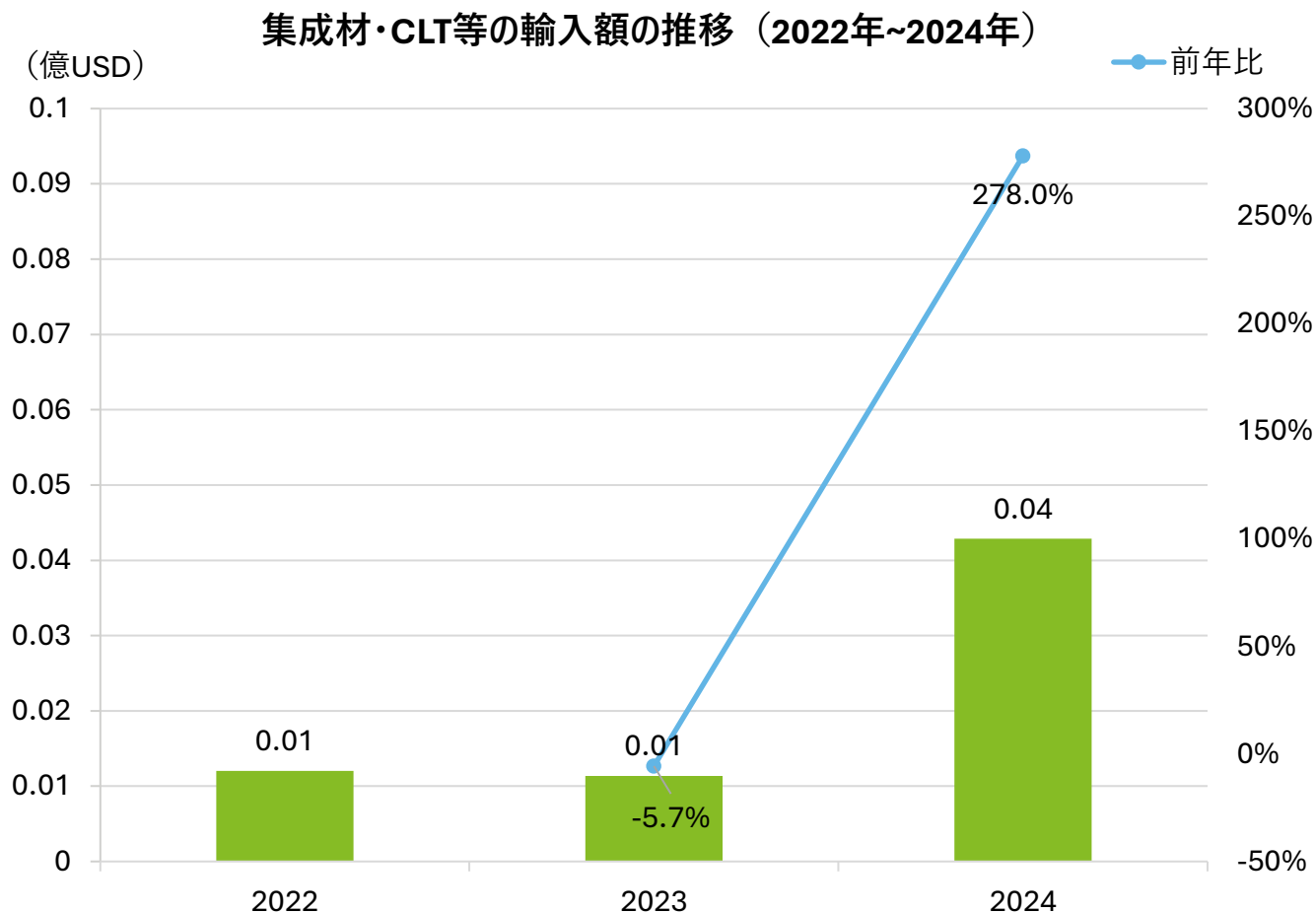
輸入統計情報

製材

合板

他の面材

集成材等



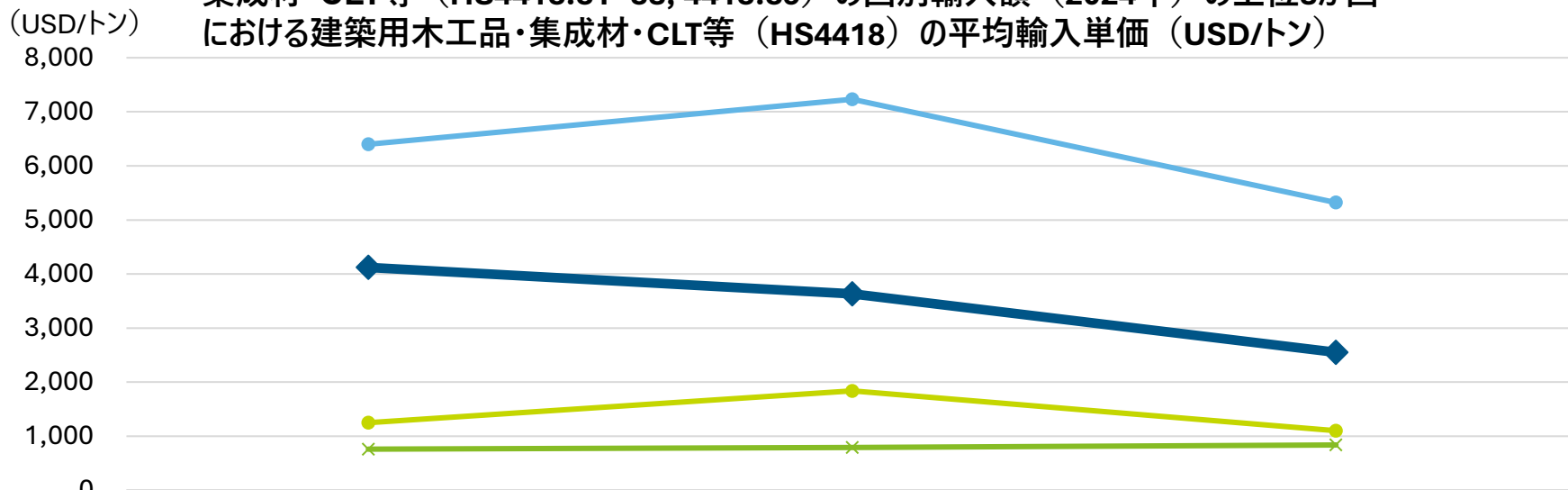
参考：International Trade Centre「Trade Map」をもとに当法人が作成

中国における建築用木工品・集成材・CLT等の平均輸入単価は、世界平均で2,550-4,120ドル/トン前後の推移となっています

中国における国別平均輸入単価【建築用木工品・集成材・CLT等（HS4418）*】

需要調査
輸入統計情報
製材
合板
他の面材
集成材等

集成材・CLT等（HS4418.81- 83, 4418.89）の国別輸入額（2024年）の上位3か国における建築用木工品・集成材・CLT等（HS4418）の平均輸入単価（USD/トン）



	2022年	2023年	2024年
◆ 世界平均	4,122	3,634	2,552
● オーストリア	6,401	7,232	5,321
● ロシア	1,250	1,839	1,102
× 日本	761	794	838

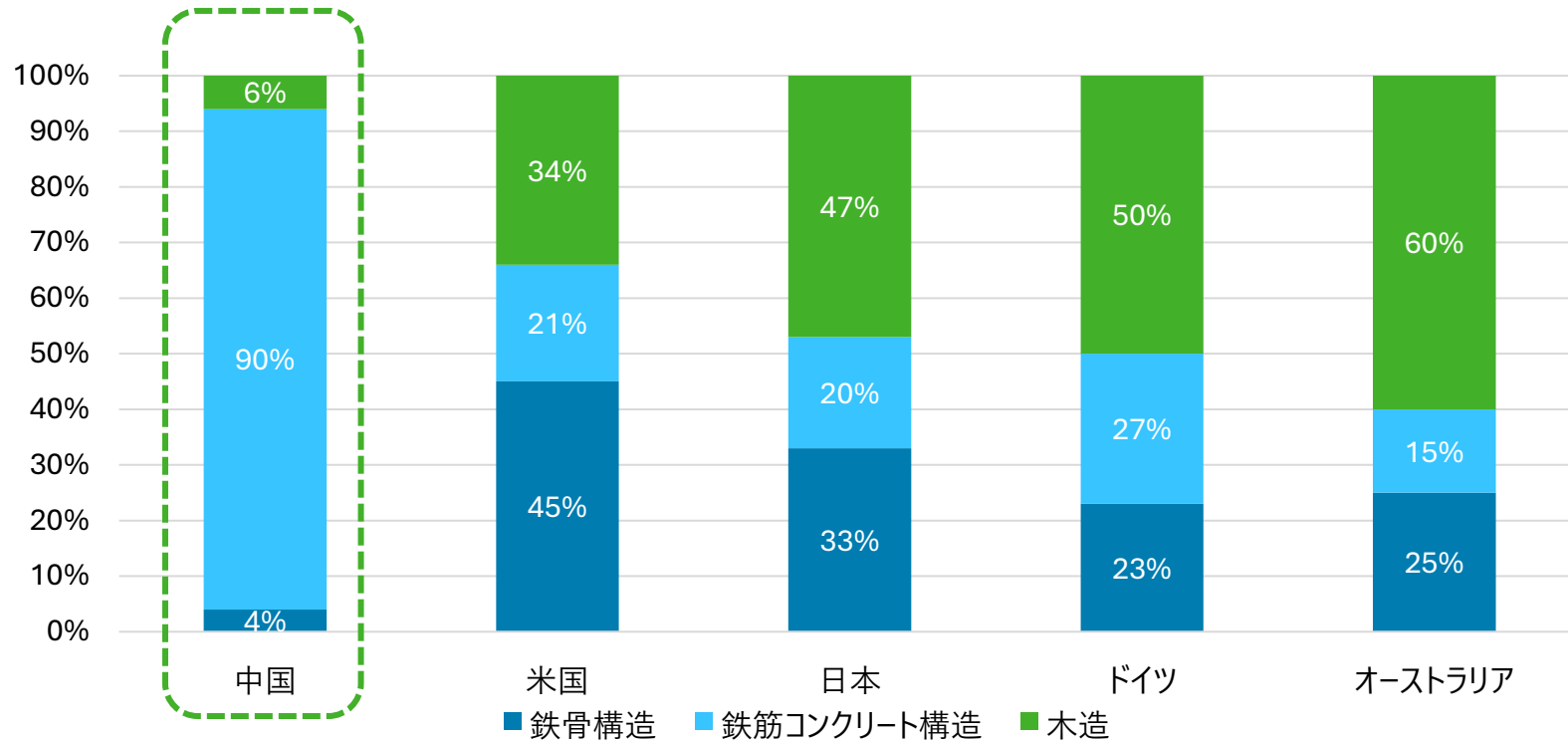
◆ 世界平均 ● オーストリア ● ロシア × 日本

参考：International Trade Centre「Trade Map」をもとに当法人が作成

* 平均輸入単価はHSコード4桁で算出（6桁は単価の取得が不可のため）、HS4418は建築用木工品、集成材、CLT、木製建具等

中国の建築構造は鉄筋コンクリート構造が主流で、建築物の90%以上を占めており、米国、日本、ドイツなどと比べ木造の割合は低い実態です

主要国における建築物の構造形式



- 中国では鉄筋コンクリート構造の割合が約90%と圧倒的に多く、木造は6%であり、米国、日本、ドイツ、オーストラリアと比べて非常に少ない
- 中国では、中華人民共和国の建国後（1949年）、インフラ建設の急速な拡大に伴い木材需要が飛躍的に増加、結果として国内の森林資源が枯渇し、1970年代以降木造建築がほとんど廃止され、レンガ・コンクリートや鉄筋コンクリート等の建築が主流となった歴史的経緯がある

参考：中国建築材料連合会 「カーボンニュートラルを背景とした我が国の建設セクターの発展のための新たな機会」

中国工程院 院士 崔凱氏「現代木造建築応用の現状分析と将来への提言」

をもとに当法人が作成

中国では国民の戸籍が都市戸籍と農村戸籍に分かれており、都市戸籍の住民は主にマンションに居住、農村戸籍の住民は農村地域に戸建て住宅を建設するのが一般的です

中国の戸籍ごとの住宅事情

中国の戸籍制度

- 中国では1958年に戸籍制度が創設された際、計画経済において都市住民の食糧供給安定や社会保障充実を図るため、戸籍が都市戸籍と農村戸籍の2種類に分けられた。都市戸籍の者は農村地域の不動産を購入できず、逆に農村戸籍の者は都市部の不動産を購入することができない。

都市戸籍	人口比	住宅取得に関連する境遇	主たる住宅の在り方
<p>個人戸籍 (都市で生まれ育ったケース)</p> <p>団体戸籍 (農村から都市に戸籍を移す場合)</p> <p>学校集体戸籍</p> <p>駐在員事務所集体戸籍</p> <p>勤務先集体戸籍</p>	45%	<ul style="list-style-type: none"> 都市部における不動産購入が可能 農村地域の不動産購入は不可 数年以上納税しなければ都市部の不動産を購入できない 一時的な進学や就職の後、所属する学校や勤務先を出た場合、農村戸籍に戻る 	<ul style="list-style-type: none"> 都市部の住宅は、主に集合住宅（マンション）となっている 戸建て住宅は、富裕層向け高級住宅地か、ごく一部の都市郊外に限定される
<p>農村戸籍</p>	55%	<ul style="list-style-type: none"> 農村戸籍を持つ住民は、住宅を建設するために土地が割り当てられる。これを農村住宅土地（宅基地）という 土地の所有権は、農村の集団経済組織が有し、農民は土地の使用権を持ち、住宅を建てることができる 都市部の不動産購入は不可 	<ul style="list-style-type: none"> 1世帯1宅地の原則が適用され、割り当てられた農村住宅土地（宅基地）で戸建て住宅を建設する（農家住宅）

- 進学や就職で戸籍の移行が認められる
- 農村戸籍から都市戸籍への移行は厳しく制限されている

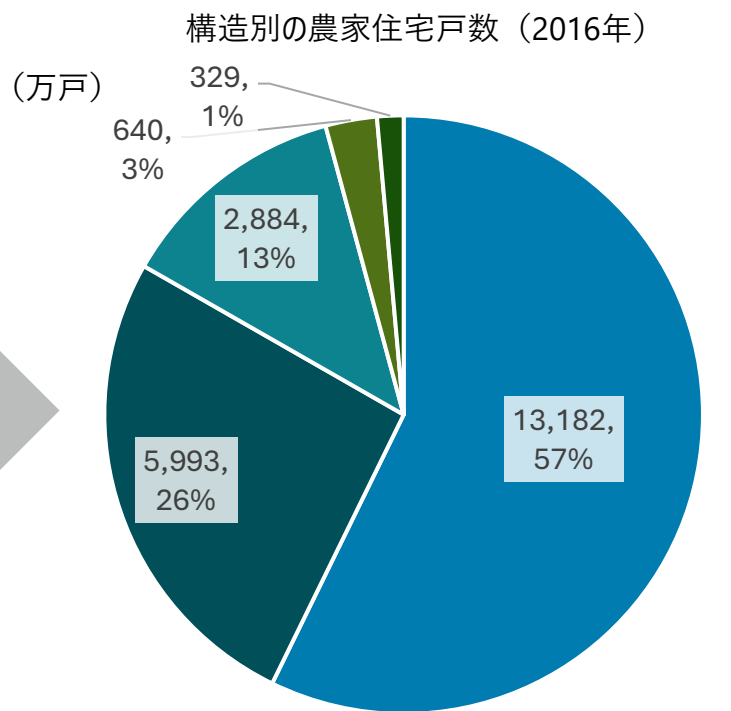
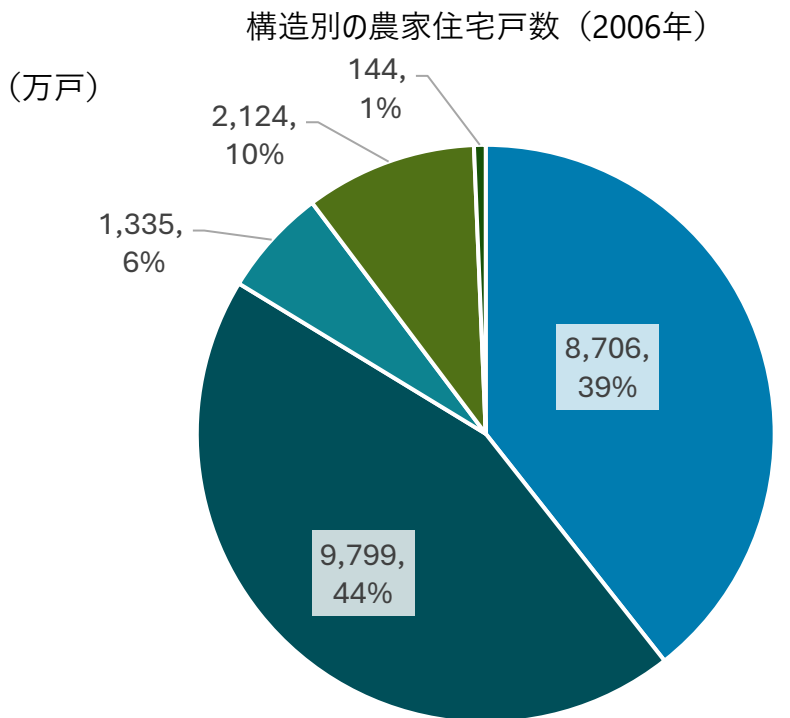
参考：「社会科学研究 第62巻 第5・6合併号（2011-03-24発行）中国から消える農村-集団所有制解体への道のり」（東京大学 社会科学研究所 田中信之）
 「北京戸籍の取得ルートおよび待遇について（2018年2月）」日本貿易振興機構(ジェトロ)北京事務所
 「中国における農村住民の消費格差」、『東アジアへの視点』、2011年6月号、pp.41-48 範金、楊中衛、坂本博、2011
 「50年以上続く中国の差別的戸籍制度」 2024.09.27 経済金融 中島恵

をもとに当法人が作成

中国では、2006年から2016年にかけて、農家住宅の構造の主流が、レンガ木造からレンガ・コンクリートへシフトし、木造住宅は極めて少ない状況です

農家住宅の需要

需要調査
統計情報
住宅・建設
構造用途
非構造
製材
集材材等
合板
他の面材



- レンガ・コンクリート構造
- レンガ木造構造
- 鉄筋コンクリート構造
- 竹・草・土壁構造
- その他の構造

- レンガ・コンクリート構造
- レンガ木造構造
- 鉄筋コンクリート構造
- 竹・草・土壁構造
- その他の構造

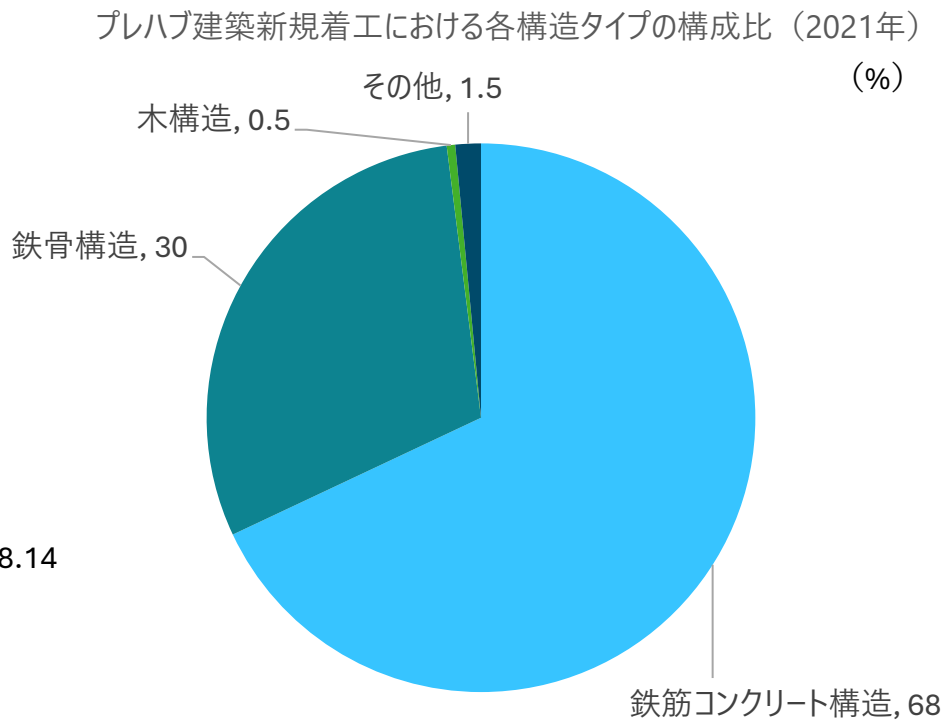
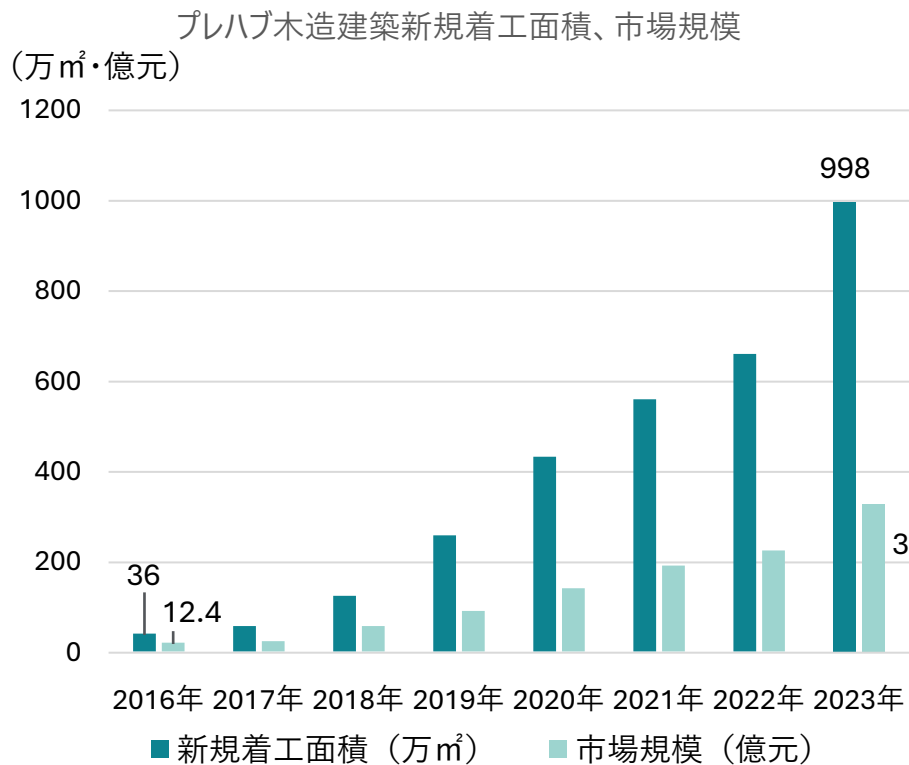
- 農家住宅は2006年から2016年にかけて、レンガ・コンクリート構造の急速な普及と鉄筋コンクリートの増加により、耐震性や耐久性を重視した「構造の近代化」が進展。一方、伝統的建築様式である竹・草・土壁構造は2,124万戸から640万戸に激減し、衰退が顕著となった。
- 農家住宅において木造建築は統計上極めて少ない

参考：中国国家统计局調査報告：第三次全国農業センサス主要データ公報（第四号）；第二次全国農業センサス主要データ公報（第四号）をもとに当法人が作成

中国のプレハブ木造建築市場は急成長し、2023年の市場規模は約330億元、新規施工面積は998万㎡に達しましたが、プレハブ建築の新規着工に占める割合は0.5%と僅かです

プレハブ木造建築

需要調査
統計情報
住宅・建設
構造用途
非構造
製材
集材等
合板
他の面材



- ▶ プレハブ工法は、壁や床・天井などの部材を工場の作業場で規格通りに製造し、現場に運び込んで機械で組み立てる建築方式。
- ▶ 中国におけるプレハブ木造建築市場は急成長しており2016年から2023年にかけて、新規着工面積は約36万平方メートルから998万平方メートルへ、市場規模は約12.4億元から328.14億元* (約257億円から6,800億円) へと大幅に拡大
- ▶ 拡大する市場ではあるものの、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造に比較すると極めて小さい市場となっている

参考：智研コンサルティング「中国のプレハブ木造建築産業の概要、市場需要、投資見通し予測」(国装装配式木结构行业发展概况、市场需求及投资前景预测) をもとに当法人が作成

中国のプレハブ式木造建築産業は、長江流域を中心に集積しており、特に江蘇省に多くの企業が集中しています

中国プレハブ木造建築業界の主要企業

需要調査
統計情報
住宅・建設
構造用途
非構造
製材
集材材等
合板
他の面材



01 蘇州崑崙

現代的なプレハブ木造建築におけるグリーン低炭素省エネ技術の研究開発・設計・製造・施工を専門とし、低炭素建築システムの技術サービスを提供する「国家火炬計画重点ハイテク企業」である

02 神州北極

年間10万平方メートルの木造建築物の生産・施工能力を有する中国最大級の木造建築メーカーの一つ。研究開発、設計、製造、施工の各分野において専門チームを擁し、顧客の要望に応じてカスタマイズされた設計ソリューションを提供し、木造部材の生産・施工も迅速に実施可能

03 金色田園

プレハブ木造住宅の設計・生産・販売・施工・アフターサービスを一体化した専門メーカー。ログハウス、木製ツリーハウス、木製ボートハウスなどの木造建築製品の設計、製造、販売、設置等を取り扱う

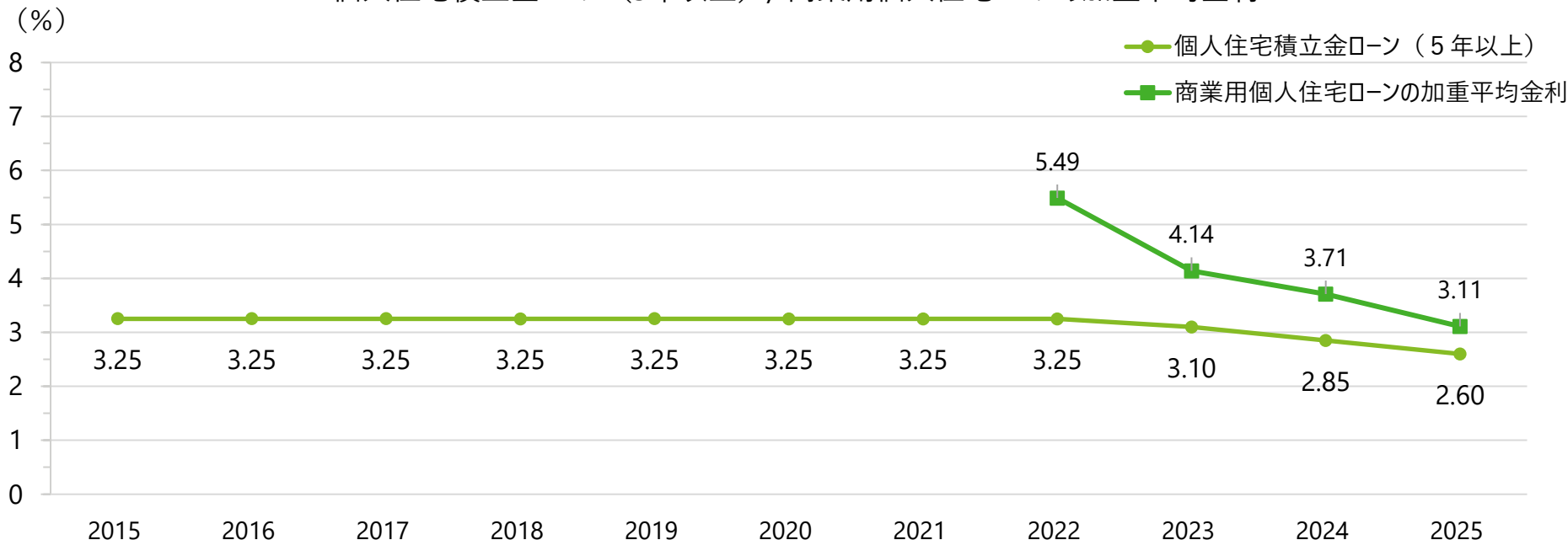
▶ 中国のプレハブ木造建築業界は、南部地域に集中。神州北極や金色田園など、地域特化型の主要企業が各種木造、軽量建築システム、内装製品、アフターサービスなど多岐にわたる製品・サービスを提供。これらの企業は、設計から製造、販売、施工、アフターサービスまでを一体化することで効率化と品質向上を促進している

参考：智研コンサルティング「中国のプレハブ木造建築産業の概要、市場需要、投資見通し予測」（国装配式木结构行业发展概况、市场需求及投资前景预测）
をもとに当法人が作成
50 輸出相手国の市場実態等調査（中国）

中国の個人住宅積立金ローンの金利は2015年から据え置かれていましたが、2023年以降金利は低下、また商業用個人住宅ローンの加重平均金利も近年低下しています

住宅ローン金利

個人住宅積立金ローン（5年以上） / 商業用個人住宅ローンの加重平均金利



- ▶ 個人住宅積立金ローン（5年以上）：中国人民銀行が定める商業銀行の貸出基準金利
- ▶ 商業用個人住宅ローンの加重平均金利：商業銀行で新たに契約された住宅ローンの実効金利（優遇・割増を含む実勢値）の加重平均（2021年以前のデータは公表無し）

参考：中国人民銀行（<http://www.pbc.gov.cn/zhengcehuobisi/125207/125213/125440/125838/5470606/index.html>）、
中国人民銀行（<http://www.pbc.gov.cn/goutongjiaoliu/113456/113469/5700062/index.html>）、
中国人民銀行『Monetary Policy Reports』、北京住房公积金管理中心（<https://gj.j.beijing.gov.cn/web/zwfw5/gjjsydkll/1736802/>）、
中華人民共和国中央人民政府（https://www.gov.cn/zhengce/zhengceku/202405/content_6952232.htm）をもとに当法人が作成

1-3 市場実態

中国各地の木材・木製品産業のサプライチェーンに関わる企業や業界団体をヒアリングし、業界の内部事情を伺いました

ヒアリング先一覧

#	ヒアリング先	所在地域（省）	業種
1	A社	福建省	輸出入事業者
2	B社	天津市	輸出入事業者
3	C社	江蘇省	輸出入事業者
4	木材関係団体D	北京市	業界団体
5	E社	浙江省	板材・製材事業者
6	F社	上海市	輸出入事業者
7	G社	山東省	木造建築業者

需要調査

市場実態

住宅・建設

構造用途

非構造

製材

合板

中国の住宅市場において木造は一般的ではなく、過去に普及が試みられたものの、認知度や技術等の不足により進展せず、現在も不動産不況下で拡大しにくい傾向にあります

中国の住宅市場における木造の普及状況

需要調査

市場実態

木造の市場規模

住宅・建設

構造用途

非構造

製材

合板

■ 市場規模・占有率

- 中国建築市場全体における木造比率は極小、主流はRC造。（#1）
- 北部・北京天津、南部・上海広東地域に散発的なプロジェクトが存在するに留まる。（#2）
- 2000年代からカナダウッド（Canada Wood）による木造の普及が始まったが、現在も発展は非常に不十分。（#4）
- 中国の木造建築は、主に北米式軽量木構造建築（ツーバイフォー工法）と欧州式重量木構造建築（中高層木造建築）の二種に分類される。木造建築のシェアは極めて少ない。（#6）
- 木造建築は中国の建築業全体で1%未満のシェアしかない。（#7）

■ 今後の見通し

- 現在、中国の木造建築市場は明らかに縮小している。この縮小傾向は2020年から2021年にかけて始まった。不動産業界全体の低迷と深く関連している。（#5）

■ 木造率が低い要因と中国の木造建築業界の課題

- 木造建築物は以下に挙げる要因等により、木造比率は上昇していない（#2）
 1. 過去のプロジェクトでは技術未成熟、低価格競争が手抜き工事を誘発。問題事例の頻発が業界の信用に影響を及ぼしている
 2. 消費者の認知が進んでいない（例：防火防水性能に関する誤解）
 3. 不動産市場の低迷や政府プロジェクトの支払遅延も課題



- 中国の木造建築市場はシェアが極めて小さい。低価格競争や不動産市場の低迷によるリスクを回避するため、品質管理を強化し、持続可能なビジネスモデルを構築することが必要

中国における木造住宅は、対象顧客が富裕層の高級木造別荘に限られています

中国における木造建築物の市場実態 (1)

需要調査

市場実態

住宅・建設

構造用途

非構造

製材

合板

住宅

高級木造別荘

■ ターゲット顧客層

- 木造住宅の対象顧客層は、個人（富裕層、農村住宅土地（宅基地）を所有する個人）、民営企業、政府観光文化機関（文化観光局など）、都市開発投資会社である。（#7）

■ 市場動向

- 軽量木構造（ツーバイフォー工法）の主要用材はカナダSPF材である。（#6）
- 木造建築の材料は北米輸入「ツーバイフォー製材」が主流。高級材は別荘の主体構造に用いられる。（#1）
- 現在市場全体は減少傾向にある。木造建築を手がける企業・専門家は限られ、国内の有名な別荘開発業者の大半が経営難に陥り、現存プロジェクトは景観地の小型建築や輸出プロジェクトが中心。（#6）

■ 制約要因（#6）

- 1. 住宅用地の審査政策が戸建て木造別荘を厳格に制限。
- 2. 中国全国統一の木造完工検査基準が存在せず、特に消防検査で地域差が顕著。

■ 今後の見込み

- 高級住宅市場における需要が存在し、富裕層は内装完備・即入居可能な木造住宅を好む。木造建築の平米単価は鉄筋コンクリート比で約1,000元*（約20,720円）高いが、ターゲット顧客（平米単価数万～数十万元の別荘購入層）にとっては無視し得る差額である。（#2）



- 日本からのツーバイフォー材の輸出における最終顧客層は、現在の市場では富裕顧客層に限られている
- 市場縮小や政策制約のリスクを管理するため、建築事業者にとっては輸入材の安定調達と基準遵守が課題

*1元=20.72円で換算（2024年平均）

中国では、非住宅用途としてリゾートログハウスや公共木造建築物があるとされており、構造用のツーバイフォー材の需要は限定的であると考えられます

中国における木造建築物の市場実態（2）

需要調査
市場実態
住宅・建設
構造用途
非構造
製材
合板

非住宅

リゾートログハウス

公共建築物

■ 市場実態

- 実際の木造建築プロジェクトは観光地における小型建築（十数万元の臨時宿泊施設等）に集中している。（#6）
- 観光地内に建設されるログキャビンは、通常、臨時建築物として扱われ、所有権証明書（不動産登記証）は発行されない。一般的な建築物に対する厳しい規制を避けていると思われる。（#4）
- 観光地における近年の整備状況を鑑みると、各区域への投資額が漸減傾向にあるため、既存施設の再整備や重複投資は非現実的、関連プロジェクト数は明らかに減少している。（#1）

■ 市場実態

- 公共建築物は欧州式重量木構造建築に分類され、大断面木材（幅 $\geq 40\sim 50\text{mm}$ ）が使用される。（#6）
- 特に特殊な形状が求められる場面（例えば博覧会や観光地内の施設など）で見られることが多いが、その数自体は依然として少ない。（#4）
- 文化施設・図書館といったプロジェクトでは、受注元が国営企業中心であるため、支払いリスクが顕著である。こうしたプロジェクトでは施工会社が資金を立て替える慣行があり、地方政府の財政難を背景に国有企業による支払遅延が頻発している。（#4）



➢ 市場が小さいため、木造建築物の企画段階から入らないと、部材として選定されることも難しいと予想される

中国では、木造建築の使用木材の選定は主に設計段階で行われ、顧客はコストパフォーマンスを重視する傾向が見られます

中国の木造建築物で使用される木材

需要調査

市場実態

住宅・建設

構造用途

非構造

製材

合板

木造建築物で
使用される木材

■ 使用される樹種

- 木造建築分野では、通常プロジェクトで特別な要求がない場合、構造材にはスプルースまたはショウジマツ*を統一採用する。コスト削減が必要な際は非耐力部材にラジアータパインを補助的に使用できるが、主要な耐力構造部材には依然としてスプルースを使用する必要がある。（#7）
- 木造住宅において、中国国産構造材は集成材梁としての使用割合が小規模ながらも増加傾向にある。非耐力部材（装飾・家具等向け）では、中国国内で製造された合板が主流を占める。（#3）

■ 樹種の選定条件

- 木材選定は用途に応じ、物理的特性（強度・耐荷重）、美的要素（木目・色調）、コストパフォーマンス、香りの4要素を優先順に基づいて行われる。（#7）
- 現在の木造は専門設計ソフトによる全体設計が基本である。建屋設計案に基づき、ソフトが材料の精密仕様（長さ・寸法等）を自動生成する。顧客の材料選択余地は限定され、設計書に基づく規格品を採用する。（#2）

■ 使用される木材の規格

- 軽量木構造住宅で使用される製材の規格は、2×4、2×6、2×8、2×10、2×12である（#6）
- 中国のツーバイフォー住宅用の構造用合板の規格は、4×8である（#7）

■ 顧客ニーズ特性

- 中国顧客の木材調達是需要主導型。最終製品の用途に基づく。（#1）
- 最も注目しているのはコストパフォーマンスである。現在の市場環境では競争激化で価格に対する感応度が更に上昇。（#6）
- 顧客の製品性能に対する優先順位は用途によって異なり、特定樹種を長年使用する顧客は慣習により同一樹種を継続採用する傾向がある。（#5）

■ 特殊環境におけるニーズ

- 中国南方の多湿環境では防腐処理木材の需要が存在、シロアリ多発地域では防腐処理が必要。（#1と#2）



➢ ツーバイフォー材の既存マーケットでは、製材としてはスプルース、ショウジマツ*が統一的に採用されており、一部ラジアータパインが使用されているため、ツーバイフォー構造材として輸出する上では、価格面で優位性を見出すことが必要

* ショウジマツとヨーロッパアカマツは学名同一
57 輸出相手国の市場実態等調査（中国）

中国では、木造建築は一部の富裕層か、企業・行政が顧客となっているのが現状であり、日本産木材輸出においても既存顧客がエンドユーザーになりうると考えられます

中国における木造建築物の顧客ニーズ

需要調査

市場実態

住宅・建設

構造用途

非構造

製材

合板

木造住宅の顧客ニーズ

■ 顧客別の木造住宅ニーズ

- 木造住宅の対象顧客層は、個人（富裕層、農村住宅土地（宅基地）を所有する個人）、民営企業、政府観光文化機関（文化観光局など）、都市開発投資会社
- 【個人】：木造住宅の希少性と自然との親和性が、消費の質を求める顧客層を惹きつける。富裕層の個人顧客、特に私有地や山荘を持つ個人顧客は木造別荘を購入する。また、中国の農村住宅土地（宅基地）政策のもと、一部の顧客は自己所有の農村住宅土地（宅基地）に木造住宅を建設する
- 【企業と政府】：木造住宅の顧客は個人に限らず、民営企業・政府観光文化機関（文化観光局など）・都市開発投資会社も含まれ、経営目的で、主に民宿として木造住宅を購入する



➢ 木造住宅のニーズは、自然との親和性などに価値を見出す一部の富裕層の個人顧客か、企業・政府などが主となることから、日本産木材もこれらの既存顧客をターゲットとして考えることが必要

日本から中国向けの木材取引は、複数階層の貿易会社と小売り会社を経由する多段階の流通構造が構築されています

中国における木材の流通実態

需要調査

市場実態

住宅・建設

構造用途

非構造

製材

合板

木材の流通実態

■ 日本からの丸太の調達フロー実態（#6）

- 森林伐採 → 集積場搬送 → 船舶チャーター/港湾集荷 → 中国向け船積み（燻蒸・通関完了） → 中国港湾（太倉港/日照港等）で保管 → 一級貿易会社（直接輸入元）が立方メートル単位で二級貿易会社、エンドユーザー小売に販売。
- 加えて、海上輸送中の販売が行われている。海上輸送中に原価+1~2米ドル/m³で権利譲渡、顧客が直接貨物引取。（#2）

■ 日本からの面材の調達フロー実態（#6と#1）

- 汎用規格材：日本企業が原木を購入・加工 → 信用状決済（L/C（Letter of Credit）） → コンテナ船で中国港湾へ搬送・荷揚げ → 一級貿易会社（直接輸入元）が二級貿易会社へ販売 → 二級貿易会社が小規模小売業者または現場供給業者へ販売 → エンドユーザーに販売。
- 特注材：顧客の需要確定と手付金（定金）支払いが必要。その後海外への生産発注を開始する。

■ エンドユーザーへの販売経路（#1）

- オフライン経路：建材市場（例：レッドスター・マカロンなどの家具販売店）
- オンライン経路：ECプラットフォーム（例：タオバオ・ティクトック）、ブランド直営店

■ 木造建築物用途製材の流通実態（#7）

- 自社製材設備を保有する木造建築企業は、ロシア（主要輸入先）が製材品輸出に限定した政策により、完成製材品の直接輸入が主流である。
- 主要な輸入先は寒帯地域の国である（ロシア・北欧・カナダなど）。ニュージーランド産ラジアータパインは価格が安くて輸入量が多いが材質的に、低層ビルにしか使えない。

木造建築物用途製材の流通実態



- 汎用材と特注材の調達・流通構造の差異を踏まえ、市場ニーズに即した多様な販売経路と商品ラインナップ戦略を柔軟に構築することが重要である

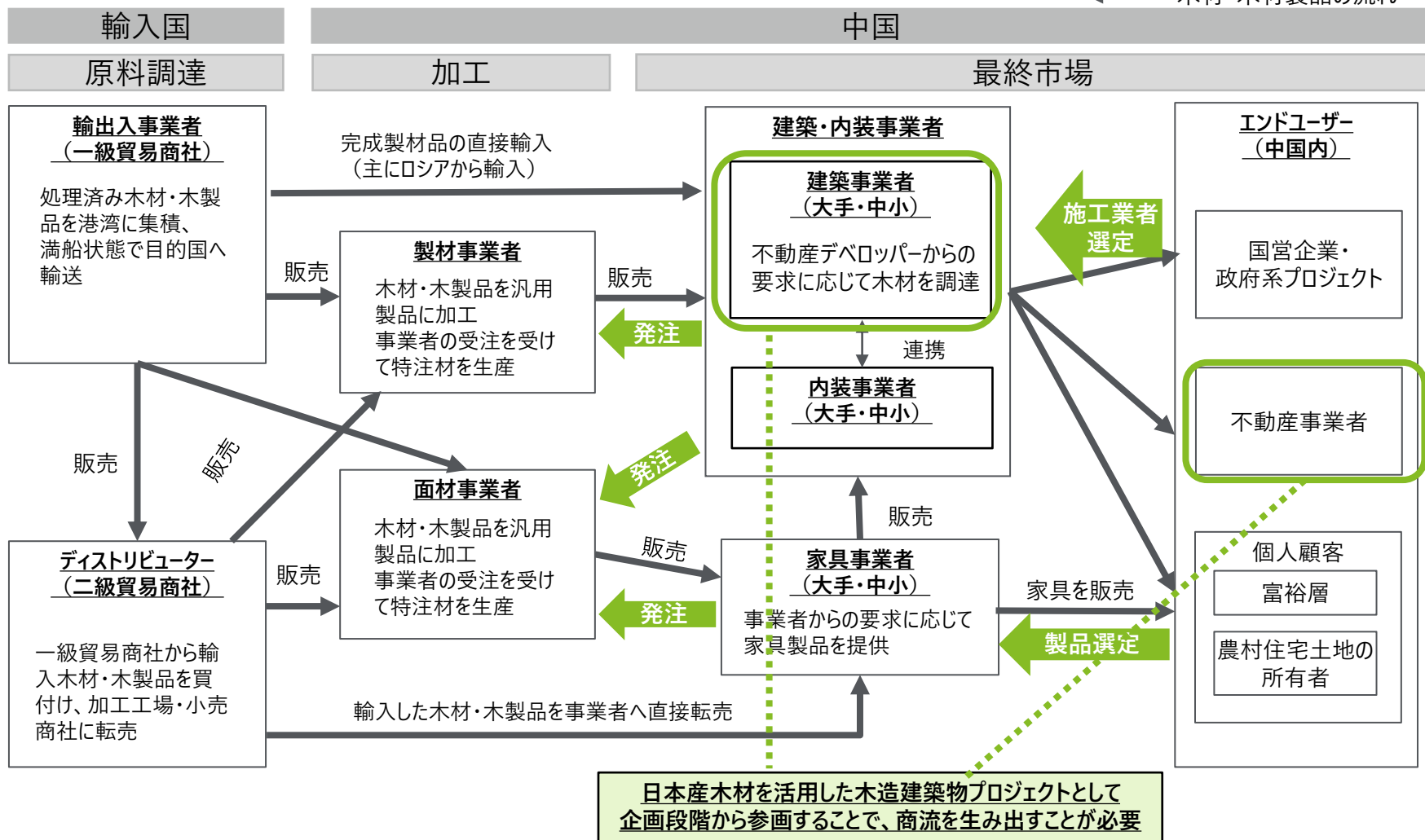
中国における木造建築市場向けに日本産木材を販売していくためには、企画段階から木造建築物プロジェクトに参加することが必要と考えます

中国における流通構造

← 意思決定
← 木材・木材製品の流れ

需要調査
市場実態
住宅・建設
構造用途
非構造
製材
合板

流通構造



日本から中国向け木材の取引はCIF価格ベースが主流で市場情報も透明化されており、一般材については価格向上余地が限定的であると言えます

中国における木材の価格実態

需要調査

市場実態

住宅・建設

構造用途

非構造

製材

合板

木材価格実態

木材
木製品

木造
建築

■ 価格とコスト感覚

- 貿易業者が木材を購入する際、最も重視するのは価格、つまりコストパフォーマンスである。木材の最終販売価格は主に市場動向と直近の取引価格を参考に決まり、需給関係が重要である。（#5）
- 国内木材市場は競争が激化、加えて公開プラットフォームとSNSによる市場情報の透明度も高い。顧客と消費者は価格の実態を把握しているため、交渉の余地はあまりない。（#1）

■ 調達・物流コスト

- 日本から中国向け木材の取引は、CIF価格*が基本。中国の買い手は、中国市場での実質調達価格を重視し、日本国内の伐採コスト、現地加工費、日本港湾までの内陸輸送費を考慮しない。（#1）
- 港湾から調達コストを算定する場合：中国国内の物流コスト（貨物揚港後、中国国内の輸送・倉庫等費用）比率は10%-15%、伐採現場から調達コストを算定する場合：国際物流（伐採＋輸送）の比率は55%-60%。（#3）
- 日本～中国航路は船舶容量が小規模であり、輸送距離が短いため、コスト圧縮余地は限定的。（#1）

■ 木造建築物の価格感

- 現在、軽量鉄骨構造建築物の相場は1,000～1,500元/m²*（約20,720円～31,080円/m²）、同規格の木造建築物（非住宅・住宅）の相場は3,500元/m²*（約72,520円/m²）円程度となる。コンクリート構造住宅は2,000元/m²*（約41,440円/m²）で、軽量鉄骨構造建築物に比べて木造住宅との差が縮まる。（#7）



- 中国市場は価格透明性が高く交渉の余地があまりないため、木材・木製品市場と木造建築市場の価格帯や市場動向を把握し、効果的な戦略を策定していくことが求められる

*1： CIF価格：輸入品が本船に積み込まれた港から輸入者の港までにかかる費用を含んだ価格を意味する

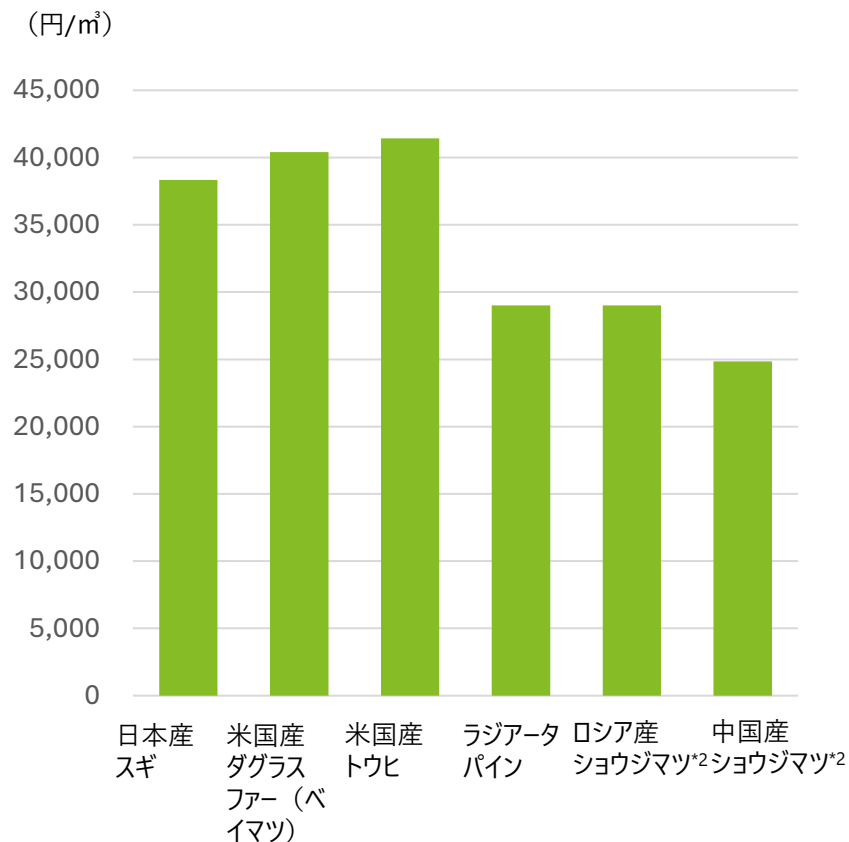
*2： 1元=20.72円で換算（2024年平均）

現地メーカーへのヒアリングによると、日本産の2x4材の価格は、米国産よりも安くなっていますが、ニュージーランド産やロシア産に比べて割高となっています

中国における木材の価格実態（2025年7月 メーカーへのヒアリングに基づく）

需要調査
市場実態
住宅・建設
構造用途
非構造
製材
合板

原産地	樹種	規格 (長さ：200cm)	価格*1 (CNY/m ³)	価格*1 (円/m ³)
日本	スギ	2x4	1,850	38,330
米国	ダグラスファー (ベイマツ)	2x4	1,950	40,400
	トウヒ	2x4	2,000	41,440
ニュージーランド	ラジアータパイ ン	2x4	1,400	29,010
ロシア	ショウジマツ*2	2x4	1,400	29,010
中国	ショウジマツ*2	2x4	1,200	24,860



出所：アリババ - 1688.com

アリババ (1688.com) は、個人事業主から大企業まで幅広いユーザーに利用されている、中国最大級の中国国内向け B to B 電子商取引のプラットフォームである

参考：メーカーへのヒアリングをもとに当法人が作成

*1：当該価格は、木材加工メーカーから家具メーカー・建設会社等の顧客への税込み工場渡し価格（運賃別）である。
特注品・汎用品の違いにより、価格に幅が生じる可能性がある

*2：ショウジマツとヨーロッパアカマツは学名同一

*3：1元=20.72円で換算（2024年平均）

中国市場に参入するためには、木材・木製品が中国国家標準（GB規格）に適合する必要があります。JAS認証製品は、GB規格に適合する可能性があるとの見解が得られました

中国における木材の市場要件（1）

需要調査

市場実態

住宅・建設

構造用途

非構造

製材

合板

構造用製材・面材の
品質・規格要件

■ 規格適合体系

- 輸入木材は、通関審査を通過でき、中国に輸送されれば販売可能となる。合板等の最終製品は国家標準（GB規格）への適合が義務付けられる。（#4）
- 新樹種の中国市場参入には、まず基礎的な材料性能試験が必須となる。企業は自主予備検査後にサンプルを国家認定検査機関へ提出し、規格適合性を検証する。
- 新樹種の市場受容性は実際の使用効果によって決まり、検査認証・工場試用・市場実証等の長期プロセスを要する。

■ 木造建築物のGB規格遵守実態

- 実務上の基準は「税関検査を通過すること」が最低条件であり、通関後の流通は各工場が自社製品に応じて任意の規格を適用する。（#6）
- 日本JAS規格は中国国家標準（GB規格）より厳しいとの認識がある。具体的には製品ごとに比較が必要だが、中国輸出業者の実感として日本の品質基準は上位と評価される。したがって、JAS認証取得製品のGB規格適合リスクは低いと思われる。（#4）
- 木造建築の品質基準の適用実態において、中小企業は顧客予算優先でGB規格違反するケースがあるが、大企業・政府案件ではGB規格（金物規格・防火基準、等）が厳格に遵守される。（#7）
- 中国の木造建築業界の現状として、政府機関は規範遵守を監督するが、業界全体では規範執行の厳格さは十分とは言えない状況である。（#7）



- 大手案件ではGB規格を厳格遵守する一方、中小企業では価格優先でGB規格から逸脱するケースが散見される。業界ではJAS規格の方がGB規格より厳しいとの認識が一般的であり、JAS認証製品であれば、木造建築物利用上問題ないと考えられるが、まだ事例に乏しいため、政府機関・自治体等の許認可が得られるかは定かでない

木造建築物での輸入木材利用にあたっては、構造材としてのGB規格適合に加え、防火性能や防腐処理木材としての性能を追加要求される可能性がある点に留意が必要です

中国における木材の市場要件 (2)

需要調査

市場実態

住宅・建設

構造用途

非構造

製材

合板

構造用製材・面材の
品質・規格要件

■ 防火性能等の要求

- 中国向け輸出木材が既にJAS規格を満たす場合、追加認証は不要であると考える。
- ただし木造建築の用途に供する際は、(1) 防火性能（核心要件となる）(2) 構造性能（応力試験などがある）等が追加で要求される可能性もある。（#2）
- 木造の建設過程で強制遵守すべき国家標準（GB規格）は、まず金物規格である。これに加え防火基準も強制適用され、特に集成材の構造建築では要求が厳格化される。（#7）
- 現行の基準、例えば住宅都市農村建設部（住建部）が公布した基準は、防火に関する規制が厳しく、木造建築の建設を6階以下に限定している。これについては既存の検査・適合基準が存在する。しかし、6階を超える木造建築物については、現行の基準が存在せず、専門家による個別審査（専門家論証）を経て、初めて検査・適合が可能となる。しかしながら、実際のところ審査の基準が不明であり、審査を通過し政府の許可を得る可能性は非常に低いと思われる。例：高層木造オフィスビルの実例は全国で2棟のみ（6階建て1棟・4階建て1棟）。1階または2階建てのホテル建築も若干存在する。（#4）

■ 防腐木材の要求

- 多雨地域向け防腐・防水要求への対応：中国南方（長江以南）の多湿環境では、防腐処理木材の需要が存在。（#1）
- 対応樹種：米国産サザンイエローパイン（southern yellow pine）、欧州産アカマツ（赤松）、ロシアショウジマツ*（ロシア産Pinus sylvestris var. mongolica）が薬剤浸透に優れ防腐処理に適する。（#1）
- 樹種選定基準：木材の強度、防腐剤の浸透性が重要。（#1）
- 具体例：屋外景観における木材劣化防止のため、防腐処理を実施。長期耐久性が求められる構造物（例：上海ディズニーランド、北京ハッピーバレーの木製ローラーコースター）では、木材を主体とし、防腐処理を必須化。これにより5年、10年、場合によっては20～30年の屋外使用を可能とする（定期メンテナンスは必要）。（#1）

* ショウジマツとヨーロッパアカマツは学名同一

日本産木材は、中国の木材市場で一定の需要はありますが、認知度は低く、価格面での割高感もある状況です。既存の需要を活かしつつ、他国産木材との差別化が必要です

中国における木材の市場要件（2）

需要調査

市場実態

住宅・建設

構造用途

非構造

製材

合板

日本産木材の市場実態

■ 日本産木材の輸入状況

- 輸入品目はスギ丸太が主流である。（#5）
- 中国の輸入全体が減少する中、日本産針葉樹原木のみ増加傾向。（#4）

■ 日本産木材（丸太）の需要

- 全体的には認知度が低いと考えられる。日本産木材の中国輸入量は年々増加傾向にあるものの、中国市場の需要量が低い。同時に価格面では国際相場比較で割高感がある。（#2）
- 中国南部地域（福建省等）ではスギ（福杉）が植栽され木材生産されている。現地顧客は使用習慣から、スギ材の指定調達を行うケースが多い。このため日本スギ材の販売市場は南部地域に集中。（#2）
- 顧客は日本産木材を購入するが、必需品として購入することはない。現在、中国東北地域では、棺桶用材が日本産スギ／ニュージーランド産ラジアータパインから中国産材へシフト。つまり輸入木材が中国産材に代替される傾向がある。（#5）
- 日本の木材、主にスギとヒノキは、中国の木造建築市場ではほとんど使用されていない。日本側はこれまで中国での普及活動において、スギの原木（木製パレットなどの製造用）に焦点を当てており、木造建築への応用を特にターゲットとした活動は行ってこなかった。（#4）
- 日本産スギ特有の香りが問題である。中国国内では従来、パレットや敷き木など人が常に接触しない用途が主流であり、木造建築での実用経験が乏しい。（#4）



- 日本産木材の輸出拡大のためには、中国市場のニーズを的確に捉え、中国南部市場でのスギ材需要を活かしつつ、認知度向上や価格競争力の強化、木造建築向けの製品開発などにより、他国産木材との差別化を図ることも考えられる

中国市場における日本産木材の取引実態では、特別な取引条件がないものの、支払い遅延等のリスクに留意する必要があります

中国における木材の商慣習等

需要調査	商慣習	木材	■ 商慣習事項 <ul style="list-style-type: none">▶ 特別な取引条件は存在せず、中国の顧客は価格が適正であれば取引する。最小注文数量は通常1船分、約2,500m³が基準である。取引慣行は概ね船舶単位で行われる。（#3）▶ 木材を売る貿易業者が最も重視するのは、契約は絶対守れということである。（#5）▶ リスク回避のため信用状（L/C）を決済保証として必須使用すべき。（#6）
市場実態		木造建築	<ul style="list-style-type: none">▶ 政府からの建築プロジェクトを請け負う際には、特に政府と良好な関係を保つことが大切だと思う。近年は政府系プロジェクトの受注では、2年以上の支払い遅延が生じることもある点に注意が必要である。（#2）▶ 構造用材料、補助資材においては品質管理も必須である。材料選定にあたっては、供給工場の生産工程を確認する必要がある。特に小規模工場の製品については、中国国家標準（GB規格）を満たしている場合でも、品質が不安定になりがちなため、避けたほうがよい。（#7）
住宅・建設	マーケティング	木材	■ マーケティングチャンネルと戦略 <ul style="list-style-type: none">▶ 木材業界のマーケティングは消費財マーケティングと根本的に異なる。消費財のように製品に情感やブランドプレミアムを付与することではなく、木材は需給動向をめぐってマーケティングする必要がある。実際の需給変動を基盤とするため、ブランド属性に基づくプレミアム創出余地は存在しない。（#5）
構造用途		木造建築	<ul style="list-style-type: none">▶ 一般顧客層には広告宣伝で対応する一方、政府機関にも定期的訪問、政府当局上層部との交流を並行して実施する。地方政府を訪問し、政策の動きを把握した上で適切な案件を選定する。さらに業界団体の会長クラスへ直接提案し、当該団体を通じたプロモーションを依頼する。これら人脈を活用したプロモーションでは、各業界の特性に応じた顧客ニーズを掘り出す。（#7）
非構造			
製材			
合板			



▶ 業界団体等との人脈構築を重視し、需給動向に基づいたプロモーションで案件を獲得するとともに、支払遅延リスクへの対応も不可欠である

ヒアリングで得た中国の住宅事情からは、一般層への木造住宅普及は難しく、一部の富裕層やリゾート地等の需要に限定されると考えられます

日本と中国の住宅事情の違い

緑字：有利な項目、青字：不利な項目

需要調査	市場実態	住宅・建設	構造用途	非構造	製材	合板	項目		中国における木造住宅の普及を考える上での項目ごとの有利・不利	
							日本	中国		
住宅文化	建築様式	木造	RC造が一般的 木造は極めて希少	—	RC造がメイン 木造住宅は全体の中で極めて希少					
	価格	60～70万円/坪 (20万円/㎡前後)	数万～数十万円/㎡ ※10万元 = 20.7万円 (別荘購入層)	+	高級別荘の平米単価は日本より 高価格帯を見込める					
自然環境	シロアリ	被害あり	南部地域は被害多	—	南部地域は防蟻対策が重要					
	地震	高頻度	地域によっては 高頻度	—	西南部など地域によっては地震が発生					
経済環境	住宅ローン	金利1%前後	近年低下しており 金利2～3%	+	—					
	住宅施工者	大工・工務店	木造建築可能な 工務店・会社は希少	—	プレハブ木造は長江流域周辺など 限定的な地域にしか施工会社なし					
	住宅市況	長期的に減少	長引く不況	—	今後の木造住宅シェア拡大には 多くの事業者が悲観的					
社会制度	建築に係る 法規制・手続き	厳格・煩雑 専門性が高い	厳格・煩雑 専門性が高い	—	中国の建設事業者との連携なしには 木造住宅の建設は困難					

2 流通・販売に係る規格・規制調査

中国では木造建築物に用いる木材製品はGB規格（強制規格）に適合する必要がある、認証未取得材は利用不可、JAS規格がGB規格に適合するかについては確認が必要です

規格・規制調査（日本産木材の輸出に必要となる規格）（概要）

輸出製品	用途	木材製品の規格	中国の規格との適合
ツーバイフォー構造用製材 （日本産木材）	木造住宅または 木造建築物 （構造用）	JAS認証材	△ 規制当局で、JAS認証材がGB規格に適合するかの判断が必要
ツーバイフォー構造用面材 （日本産木材）		JAS認証等の認証未取得の木材	× 木造住宅や木造建築物での利用不可（GB規格不適合）
		EUのEN規格、米国ASTM規格、ISO規格の認証材	○ GB規格に適合すると考えられる（規制当局が適合性を判断）

木造建築物におけるGB規格の遵守

- ◆ 中国における木造建築物の建設では、国家標準であるGB規格の遵守が求められる
- ◆ GB規格において、材料としての木材製品については「建築用輸入木材製品については、中国に国家規格がない場合、関連する国際規格やその他の関連規格を参照することができる」とされている

JAS認証材のGB規格への適合

- ◆ 上記のGB規格では、EUのEN規格や米国ASTM規格が例示されているが、JAS規格は記載されていないため、JAS認証材がGB規格に適合するかは、当局の判断になると考えられる
- ◆ ヒアリング事業者意見では「JAS認証材であれば、GB規格適合リスクは低い」という評価が多く聞かれたが、実際には規制当局の判断となるため、JAS認証材ならばGB規格に適合する、とは一概に言及できない

認証マーク及び技術文書の添付

- ◆ 木造建築物に用いられる輸入木材について、GB規格では「承認された認証マークが必要であり、関連する技術文書が添付されていなければならない。」とされている

2-1 調査方法

行政機関HP等によりデスクトップ調査を行うとともに、日本産木材を輸出する国内事業者や中国事業者へのヒアリングを行い、規格・規制調査を実施しました

規格・規制調査 調査方法

デスクトップ調査

行政機関HP等の調査・分析

- 中国標準化行政主管部門HP
- 中国市場監督管理総局HP
- 中国国家標準ライブラリHP

ヒアリング後の情報収集

- ヒアリングで得られた情報に関連する資料等の収集

木材商社・卸売業者等へのヒアリング

オンラインヒアリング

- 【国内事業者】
 - ・ 実際に中国に輸出している国内事業者
- 【中国事業者】
 - ・ 木材製品卸売事業者、住宅事業者等
 - ・ 木材製品規格の関係者等

ヒアリング内容

- 規格規制・商慣習等の取引実態
 - ・ 中国における2×4構造用製材、構造用面材の流通・販売時の規格等の取り扱い

2-2 調査結果

中国の規格には国家標準（GB規格）と団体標準とが存在、国家標準は、強制規格と非強制規格に区分されます

中国の規格規制

中国におけるGB規格及びその他の規格の体系

中国における標準規格の体系

中華人民共和国標準化法		
関連制定機関	強制	非強制
政府機関	国家標準 (GB-xxxx)	国家標準 (GB/T-xxxx)
		業界標準
		地方標準
社会团体		団体標準
企業		企業標準

参考：中国標準化制度解説（日本貿易振興機構（JETRO））2018年1月よりDeloitte作成

中国における木造建築・木材製品の規格

強制規格

- 中国では、木構造建築について、設計標準等が強制規格として位置づけられているため、順守することが必須となる

木構造建築	木構造通用規範	GB 55005-2021
	木構造設計標準	GB 50005-2017
	木構造工程施工品質検査規範	GB 50206-2012

非強制規格

- 中国では、製材、合板といった製品についての規格は非強制規格として位置づけられている

製材	針葉樹製材	GB/T 153-2019
	広葉樹製材	GB/T 4817-2019
集成材	構造用集成材	GB/T 26899-2022
合板	構造用合板	GB/T 35216-2017

中国では品質規格について自己宣言制度が導入されており、企業側は建築基準を含め、木材製品の流通時には国家強制規格を遵守し、関連情報を公開することが求められます

中国における品質規格、流通・販売に係る規制及び制度等

規格・規制	#	品質・規格	法令	管轄	内容	必要手続き	対応者
求められる規格・規制	1	国家標準・業界標準・地方標準、等	標準化法	標準化行政主管部門、関係行政主管部門	<ul style="list-style-type: none"> ■ 標準は国家標準・業界標準・地方標準・団体標準・企業標準を含む。国家標準（GB規格）は強制標準（GB）と推奨標準（GB/T）に区分される。 ■ 強制標準は遵守を義務付ける。 ■ 中国は団体標準・企業標準の自己宣言公開および監視制度を導入している。企業は遵守する強制標準・推奨標準・団体標準または企業標準の番号および名称を公開する義務を負う。 	企業標準情報公共サービスプラットフォームでの自己宣言公開	木材事業者
構造用製材	2	木材製品に関する標準（現行基準に適合する場合）	標準化法	標準化行政主管部門、関係行政主管部門	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「木材製品の品目ごとの基準及び品質基準」と異なる規格が存在する。 • GB/T 35216-2017・・・構造用合板 • GB/T 153-2019・・・針葉樹製材 	企業標準情報公共サービスプラットフォームでの自己宣言公開	木材事業者
構造用面材合板	3	木材製品に関する標準（現行基準に適合しない場合）	標準化法	標準化行政主管部門、関係行政主管部門	<ul style="list-style-type: none"> ■ 現行基準に適合しない場合、企業標準を制定する義務がある。自ら制定した企業規格を政府部門に申告すべく、下記の書類が必要（地域・規格分類によって異なる）： <ol style="list-style-type: none"> ① 『企業製品執行規格申請登録表』（法人署名＋社印） ② 製品規格本文 ③ 企業規格届出表（必要に応じて） ④ 国家/業界/地方規格の有効性証明書（第三者機関発行） ⑤ その他補足資料 ■ 自ら制定した企業規格を適用する場合、製品・サービスの機能指標及び製品の性能指標を併せて公開する義務がある。 	新規企業規格の登録、企業標準情報公共サービスプラットフォームでの自己宣言公開	木材事業者
建築に関する規格・規制	4	建築基準	建築法	住宅・都市農村建設局	<ul style="list-style-type: none"> ■ 中国における新設・増設・改築等の建設工事活動は、建設強制標準の遵守を義務付ける。建設標準認可部門は、プロジェクトの強制標準遵守状況に対する監督検査を実施するものとする。監督検査は重点検査・抜取検査・特別検査の方式で実施可能である。 	企業標準情報公共サービスプラットフォームでの自己宣言公開	建築事業者

参考：中国標準化行政主管部門、中国市場監督管理総局、全国標準情報公共サービスプラットフォーム、企業標準情報公共サービスプラットフォーム、インターネット公開情報

木造建築・合板・製材・集成材に関する国家標準が存在しており、木構造設計標準等の強制規格、その他非強制規格が定められ、各種規程内容についても公表されています

国家標準（GB規格）一覧（1）

分類	規程名	規程コード	強制規格	内容詳細
木構造建築	木構造通用規範	GB 55005-2021	○	規格詳細については、以下サイト等で規定番号を検索して確認 「全国標準情報公共サービスプラットフォーム（中国語：全国标准信息公共服务平台）」 https://std.samr.gov.cn/ P83参照
	木構造設計標準	GB 50005-2017	○	
	木構造工程施工品質検査規範	GB 50206-2012	○	
	木構造工程施工規範	GB/T 50772 - 2012		
	多高層木造建築技術基準	GB/T 51226-2017		
	プレハブ木造建築技術基準	GB/T 51233-2016		
	胶合木構造技術規範	GB/T 50708-2012		
製材	針葉樹製材	GB/T 153-2019		
	広葉樹製材	GB/T 4817-2019		
	貴重輸入銘木製品用材規格	GB/T 35475-2017		
集成材	構造用集成材	GB/T 26899-2022		
	単板積層材	GB/T 20241-2021		
	木構造用単板積層材	GB/T 36408-2018		
	仕上げ材	GB/T 20445-2017		
	構造用集成材木質複合層板	GB/T 38070-2019		

規格・規制

求められる規格・規制

構造用製材

構造用面材合板

建築に関する規格・規制

参考：中国標準化行政主管部門、全国標準情報公共サービスプラットフォーム、企業標準情報公共サービスプラットフォーム

国家標準（GB規格）一覧（2）

分類	規程名	規程コード	強制規格	内容詳細
合板	構造用合板	GB/T 35216-2017		規格詳細については、以下サイト等で規定番号を検索して確認 「全国標準情報公共サービスプラットフォーム（中国語：全国标准信息公共服务平台）」 https://std.samr.gov.cn/ P83参照
	浸漬樹脂化粧紙貼り合板及び細木工板*	GB/T 34722-2025		
	防火合板	GB/T 18101-2024		
	木質構造用被覆合板	GB/T 22349-2008		
	構造用竹材-木材複合板	GB/T 21128-2007		
	OSB	GB/T 41715-2022		
	成形合板	GB/T 22350-2017		
	汎用合板	GB/T 9846-2015		
その他	防腐合板	GB/T 40052-2021		
	住宅内装木製品モジュール	GB/T 31434-2015		
	非構造用フィンガージョイント材	GB/T 21140-2017		
	WPC化粧板	GB/T 24137-2009		
	木材・木製品のバイオ炭含有量測定方法	GB/T 44290-2024		
	木材越境輸送に伴う有害生物リスク分析	GB/T 43161-2023		
	環境配慮製品評価：人造板及び木質床材	GB/T 35601-2024		
中国における地上用木材の腐朽及びシロアリ被害に係る等級区分	GB/T 33041-2016			

参考：中国標準化行政主管部門、全国標準情報公共サービスプラットフォーム、企業標準情報公共サービスプラットフォーム

中国で木造建築物を建設する際は「木構造設計標準」(強制規格)を順守する必要があります

中国 木構造設計標準 [GB50005-2017] (1)

規格・規制

規格

コード:

GB50005-2017

名称:

木结构设计标准 (木構造設計標準)

2018年8月より、「木構造設計規範」は「木構造設計標準」に改められました

求められる規格・規制

管轄機関

管轄機関: 住宅都市農村建設部

構造用製材

構造用面材合板

概要

- 住宅都市農村建設省が発行する、国家規格のうち、強制規格に位置づけられる中国での木造建築物は、基本的に本規格を順守する必要がある
- 木材材料、耐震設計・強度設計、木構造、防火規程、防水・防湿・防腐などについての基本的な規程を整備している
- 3章材料の規程において、輸入木材についての言及があり、輸入木材については認証マークや技術文書の添付が求められている
- 4章では、樹種ごとに異なる適用強度区分が定められており、各強度区分に応じて設計強度等が算出される。日本産木材についても、4章の適用強度区分において定められている

建築に関する規格・規制

中华人民共和国国家标准
木结构设计标准

Standard for design of timber structures
GB 50005-2017

发布日期: 2017年11月20日
实施日期: 2018年08月01日
发布部门: 中华人民共和国住房和城乡建设部
中华人民共和国国家质量监督检验检疫总局

中华人民共和国住房和城乡建设部公告
第1745号

住房和城乡建设部关于发布国家标准《木结构设计标准》的公告

现批准《木结构设计标准》为国家标准, 编号为GB 50005-2017, 自2018年8月1日起实施。其中, 第3.1.3、3.1.12、4.1.6、4.1.14、4.3.1、4.3.4、4.3.6、7.4.11、7.7.1、11.2.9条为强制性条文, 必须严格执行。原国家标准《木结构设计规范》GB 50005-2003同时废止。

本标准在住房和城乡建设部门户网站公开, 并由我部标准定额研究所组织中国建筑工业出版社出版发行。

中华人民共和国住房和城乡建设部
2017年11月20日

参考: 中国 国家標準ライブラリ 木構造設計標準 [GB50005-2017]

木構造設計標準は、中国における強制規格であり、その中では輸入木材についての規程が定められています

中国 木構造設計標準 [GB50005-2017] (2)

規格・規制

求められる規格・規制

構造用製材

構造用面材合板

建築に関する規格・規制

主要規程

3.材料 3.1木材 3.1.5

- 3.1.5 木造工事における輸入木材の使用は、以下の規程に従うものとする。
1. 天然欠陥や乾燥欠陥が少なく、耐食性に優れた樹種を選択すべきである。
 2. 承認された認証マークが必要であり、関連する技術文書が添付されていなければならない。
 3. 木材輸入に対する国の動物植物検疫の関連規程に適合しなければならない。
 4. 中国語の標識がなければならず、国別、等級、規格別に分けて積み上げなければならず、混同してはならない;保管時のカビ、腐敗、虫食いを防止する;
 5. 中国で初めて使用される樹種は試験を経て物理力学性能を確定した後、本標準の要求に従って使用しなければならない。

3.材料 3.1木材 3.1.9

- 3.1.9 木構造において、木構造板、構造複合木材及び工字形木柵欄を使用する場合は、次の規程に適合しなければならない。
1. 屋根パネル、床パネル及び壁パネルに用いる木基構造板は、国家現行標準『木組み覆板用合板』GB/T 22349、『方向性パーティクルボード』LY/T 1580の関連規程に合致しなければならない。輸入木構造板には認証標識、板材の厚さ及び板材の使用条件等の説明がなければならない。
 2. 梁または柱として使用される構造用複合材の強度は、設計要件を満たす必要があります。輸入構造複合木材認証マーク及びその他の関連説明文書があること。
 3. 建物の蓋と屋根に用いる工字形の木製シェルフは現行の国家標準『建築構造用木工字梁』GB/T 28985の関連規程に符合しなければならない。輸入工字形木製シェルフには認証標識及びその他の関連説明がなければならない文書。

出所：中国 国家標準ライブラリ 木構造設計標準 [GB50005-2017]

木構造設計標準においては、3.材料の条項で、輸入木材については関連する国際規格や他の関連規格を参照することができるかとされています

中国 木構造設計標準 [GB50005-2017] (3)

規格・規制

求められる規格・規制

構造用製材

構造用面材合板

建築に関する規格・規制

主要 規程

3.材料 3.1木材 3.1.9 [解説付き]

- 3.1.9 この条項では、木質構造パネル、構造複合材、I型梁木材などの木質構造に使用される材料を指定します
1. 木質構造パネルは、集中荷重、衝撃荷重、および等分布荷重試験の要件を満たす必要があります。さらに、天候、遅延、その他の要因により施工中にパネルが湿気を帯びる可能性があることを考慮し、木質工房パネルは適切な対湿性を備え、根太心間距離およびパネル厚さの要件をパネルに明確に表示する必要があります
 2. 中国における木質建築資材の現状を踏まえると、多くの構造用複合材やI型梁木材は輸入に頼らざるを得ない状況にあります。そのため、これらの**建築用輸入木材製品については、中国に国家規格がない場合、関連する国際規格やその他の関連規格を参照することができます。具体的な関連規格には、以下のものがあります。**

- 1) EN 13986、建築用木質パネル-特性、適合性の評価および表示
- 2) EN 12871、木質パネル-床、壁、屋根に使用する耐荷重ボードの性能仕様および要件
- 3) 木造構造物 -構造用積層ベニア材- 要件、EN 14374
- 4) 「木質構造 -積層単板- 構造特性」、ISO 22390
- 5) ASTM D 5456、構造用複合木材製品の評価のための標準仕様。
- 6) ASTM D5055、プレハブ木製Iジョイストの構造容量を確立および監視するための標準仕様。

JAS規格が輸入木材の規格として承認される可能性もあるが、留意が必要

- 輸入木材については、関連する国際規格やその他の関連規格を参照することができるかとあり、EUのEN規格、米国ASTM規格、ISO規格が具体的な規格として例示されている
- 日本のJAS規格は明記されているわけではないが、実際に事業者ヒアリングでもJAS規格も上記の規格と同様に中国にて輸入木材としての関連規格に適合しようとの意見が挙げられた。ただし、GB規格に適合するかは、現時点で具体事例が確認できていないため、法令所管部門や許認可部門の判断次第となりうる点に留意が必要である

木構造設計標準4.3.1の樹種一覧表において、日本スギは強度等級TC11、日本ヒノキ・カラマツはTC13として位置づけられていることから構造材としての利用が可能です

中国 木構造設計標準 [GB50005-2017] (4)

規格・規制

求められる規格・規制

構造用製材

構造用面材合板

建築に関する規格・規制

主要規程

4. 基本規程 4.3 強度設計 基準と変形値 4.3.1

□ 4.3.1 角材、原木、普通の積層接着木及び接着原木等の木材の設計指標は、下記の規程により確定しなければならない。

1. 木材の強度等級は、表4.3.1-1及び1-2に従って、選択した樹種に応じて決定する必要があります

原文	和訳
----	----

4.3.1-2 的规定采用;

表 4.3.1-1 针叶树种木材适用的强度等级

強度等級	組別	適用樹種
TC17	A	柏木 长叶松 湿地松 粗皮落叶松
	B	东北落叶松 欧洲赤松 欧洲落叶松
TC15	A	铁杉 油杉 太平洋海岸黄柏 花旗松—落叶松 西部铁杉 南方松
	B	鱼鳞云杉 西南云杉 南亚松
TC13	A	油松 西伯利亚落叶松 云南松 马尾松 扭叶松 北美落叶松 海岸松 日本扁柏 日本落叶松
	B	红皮云杉 丽江云杉 樟子松 红松 西加云杉 欧洲云杉 北美山地云杉 北美短叶松
TC11	A	西北云杉 西伯利亚云杉 西黄松 云杉—松—冷杉 铁—冷杉 加拿大铁杉 杉木
	B	冷杉 速生杉木 速生马尾松 新西兰辐射松 日本柳杉

強度等級	樹種和訳 (代表樹種のみ)
TC17	スラッシュパイン等
	北東カラマツ、ヨーロッパアカマツ、ヨーロッパカラマツ等
TC15	ツガ、中国モミ、ダグラスモミ、サザンパイン等
	南西部トウヒ、南アジアマツ等
TC13	中国カラマツ、シベリアカラマツ、雲南マツ、北米カラマツ、 日本ヒノキ、日本カラマツ 等
	ヨーロッパトウヒ、チョウセンマツ、北米トウヒ等
TC11	スプルース、イエローパイン、モミ、カナダツガ等
	SPF、ラジアータパイン、 日本スギ 等

参考：中国 国家標準ライブラリ 木構造設計標準 [GB50005-2017]

木造建築物の工事は強制規格を満たす必要があり、手続きは煩雑で現地当局とのやりとりも多数ある為、中国国内の事業パートナーとの連携が必要になると考えられます

中国における木造建築物の建築に必要な手続き (1)

#	品質・規格	法令	管轄	内容	必要手続き	対応者
1	GB 50206-2012・・・ 木構造工程施工品質 検査規範、 GB 50206-2017・・・ 木構造設計標準	建築法	住宅・都市農村 建設部	<ul style="list-style-type: none"> ■ 木構造工程施工業者は建設工程施工資格を有し、主要専門工程の作業員は作業資格証明を保有しなければならない。不動産開発資格等級証書を取得すれば、特別な追加認証が不要である。 ■ 不動産開発資格等級証書を取得していない企業は、不動産開発経營業務に従事してはならない。不動産開発企業は企業条件に応じて第一級・第二級の資格等級に区分する。 ■ 第一級資格認定を例として、必要な書類は下記の通り： <ol style="list-style-type: none"> ① 企業資格等級申請書 ② 専門管理・技術要員の資格証明書 ③ 既開発プロジェクト関連書類 ④ 『住宅品質保証書』『住宅使用説明書』実施状況報告書、品質管理制度・品質管理部門・品質管理要員配置等の品質保証システム説明書 ■ 関連の資格・手続きと必要書類は住宅・都市農村建設部サービスサイト等を参照 	住宅・都市農村 建設部に 申請書類の提出	建築 事業者
2	GB 50206-2012・・・ 木構造工程施工品質 検査規範	建築法	住宅・都市農村 建設部	<ul style="list-style-type: none"> ■ 木構造工事の分部工程は、木構造製作・据付工事と木構造防護（防腐・防火）工事の分項工程に区分する。これら分項工程を2社以上の有資格企業が施工する場合、木構造製作・据付企業を主契約企業とし、当該企業が分部工程の施工計画及び品質管理を統括する責任を負う。 ■ 関連の資格・手続きと必要書類は住宅・都市農村建設部サービスサイト等を参照 	必要に応じて 住宅・都市農村 建設部に資格認 定書類の提出	建築 事業者

参考：中国標準化行政主管部門、全国標準情報公共サービスプラットフォーム、企業標準情報公共サービスプラットフォーム、中国国家行政サービスプラットフォーム
住宅・都市農村建設部サービスサイト

中国における木造建築物の建築に必要な手続き（2）

規格・規制	#	品質・規格	法令	管轄	内容	必要手続き	対応者
求められる規格・規制	3	GB 50206-2012・・・ 木構造工程施工品質 検査規範、 GB 50206-2017・・・ 木構造設計標準	建築法	所属地域の規制 当局と関連部門、 資格認定された 審査機関	<ul style="list-style-type: none"> ■ 木構造工事は設計文書（施工図・設計変更指示書等を含む）に基づき施工し、現行国家基準『GB 50206 木構造工程施工品質検査規範』の全品質基準を満たさなければならない。 ■ 設計文書は現地の施工図審査部門の審査を通過する必要。必要な書類は下記の通り： <ol style="list-style-type: none"> ① 調査・設計の根拠となる政府関係部門の批准書類及び付属書類 ② 施工図 ③ その他提出すべき材料 	規制局と関連部門、資格認定された審査機関に資料の提出	建築事業者
構造用製材 構造用面材合板	4	GB 50206-2017・・・ 木構造設計標準	建築法	住宅・都市農村 建設部	<ul style="list-style-type: none"> ■ 木構造工事で使用する材料・構配件の等級は設計文書の規程に合致させる。力学性能・防火性能・防護性能が設計文書規程等級を満たす、もしくは上回る材料・構配件による代替を認める。 ■ 同強度（同効果）代替処理を実施する場合は、設計機関の再検証を受け、当該技術文書による認可を取得する必要がある。設計文書規程性能を下回る材料・構配件による代替は禁止する。 	必要に応じて企業基準公開プラットフォームでの自己宣言公開	木材事業者
建築に関する規格・規制	5	GB 50206-2017・・・ 木構造設計標準	建築法	国务院住宅都市 建設主管部門、 地方人民政府 建設主管部門	<ul style="list-style-type: none"> ■ 建築工事は竣工検査を受けなければならない。施工単位から建設単位へ竣工報告を提出して検査を受ける。 ■ 木造建築の場合、材料・構配件は、現行国家基準『GB 50206 木構造工程施工品質検査規範』の関連規程に基づき入場検査及び立会検査を実施し、検査合格後のみ工程で使用すること。各工程の引継ぎ時には工程間検査を実施し、監理機関が「継続施工可否通知書」を発行するものとする。 	建設単位へ竣工報告の提出	建設事業者

参考：中国標準化行政主管部門、全国標準情報公共サービスプラットフォーム、企業標準情報公共サービスプラットフォーム、中国国家行政サービスプラットフォーム
住宅・都市農村建設部サービスサイト

(参考) 中国の規格内容は、主に下記のデータベースで検索・閲覧できます。また、規格を所管する行政機関などのウェブサイトでも公開されています

規格検索システム

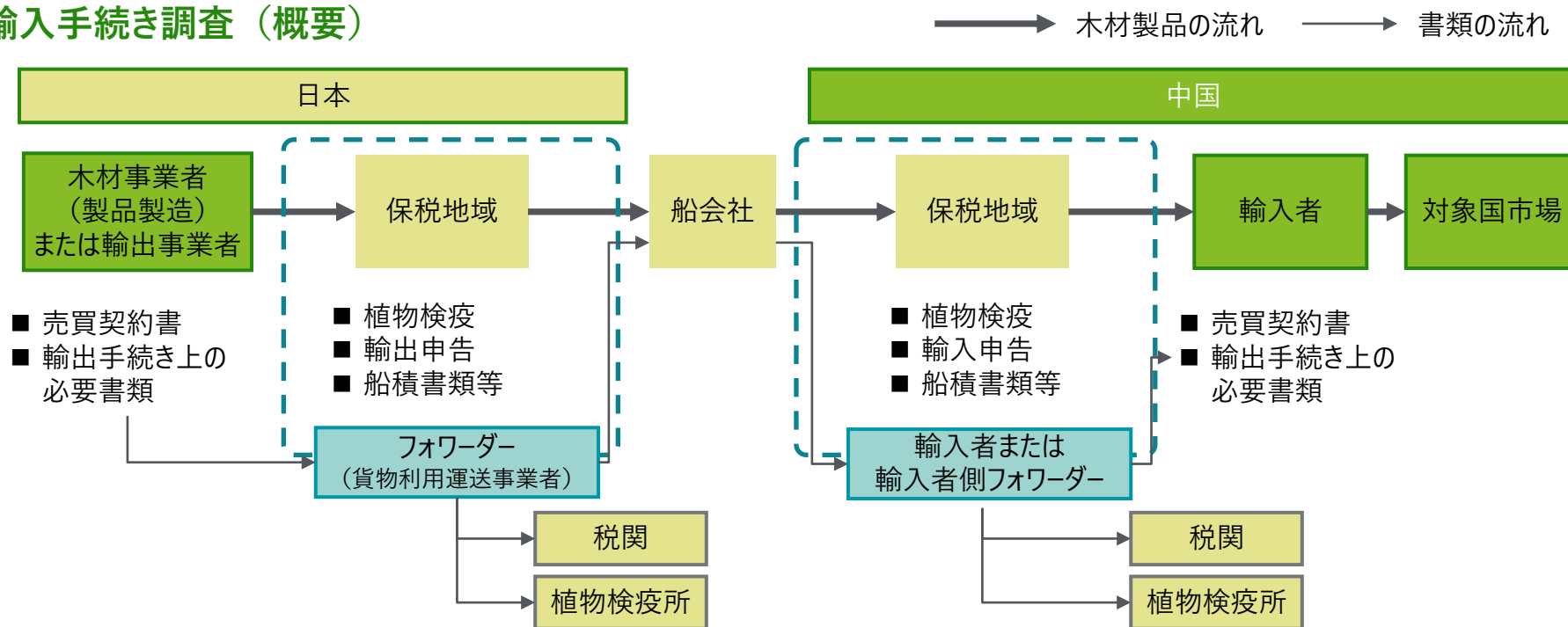
統合検索	<ul style="list-style-type: none">■ 全国標準情報公共サービスプラットフォーム（中国語：全国标准信息公共服务平台）➢ 国家規格、業界規格、地方規格の統合検索ができる。また、規格に関する法規、業界標準委員会の情報、新たな規格化の公告なども公開している。➢ サイトURL：（https://std.samr.gov.cn/）
国家標準 (GB規格)	<ul style="list-style-type: none">■ 国家標準全文公開システム（中国語：国家标准全文公开系统）➢ 現時点、現行有効な強制国家標準2,080件を収録している。標準番号、名称などから検索できる。規格の状況（有効・廃止等）や、詳細内容等が掲載されている。➢ サイトURL：（https://openstd.samr.gov.cn/bz/gk/gb/index）
企業標準 情報公共 サービス プラット フォーム	<ul style="list-style-type: none">■ 企業標準情報公共サービスプラットフォーム（中国語：企业标准信息公共服务平台）➢ 企業標準情報公共サービスプラットフォームで自社製品の適用規格を公開できる。企業標準自己宣言・最新政策・国内標準動向なども公開している。➢ サイトURL：（https://www.qybz.org.cn/）

参考：中国標準化行政主管部門、全国標準情報公共サービスプラットフォーム、企業標準情報公共サービスプラットフォーム

3 木材輸入手続き調査

中国への輸出においては、植物検疫証明書の添付が求められ、マツ材については追加的な処理・書類提出を行うとともに、指定港のみから中国へ輸出が可能となります

木材輸入手続き調査（概要）



輸出事業者が提出する輸出手続き上の必要書類

- ① 輸出申告書類等
- ② 処理証明書
- ③ 植物検疫証明書（「樹皮がないこと」を備考欄に記載）ただしマツ材の場合は特殊検疫品目として追加処理及び書類を提出、かつ指定港のみへの輸出

輸入事業者が提出する輸入手続き上の必要書類

- ① 契約書（売買契約書）
- ② インボイス
- ③ パッキングリスト
- ④ B/L（船荷証券）
- ⑤ 通関委任状
- ⑥ 信用状
- ⑦ 輸出入許可証
- ⑧ その他書類

木造建築物に用いる場合

◆ 木造建築物に用いられる構造用製材、構造用面材の場合は、「認証マーク」及び「技術文書の添付」が必要

3-1 調査方法

輸出手続きについては、基本的に政府HP等から情報を収集・分析して整理しました

木材輸出手続き 調査方法

デスクトップ調査



政府HP等の調査・分析

- 中国税関総署
- 中国国家市場監督管理局
- 中国国家行政サービスプラットフォーム（国家政务服务平台）

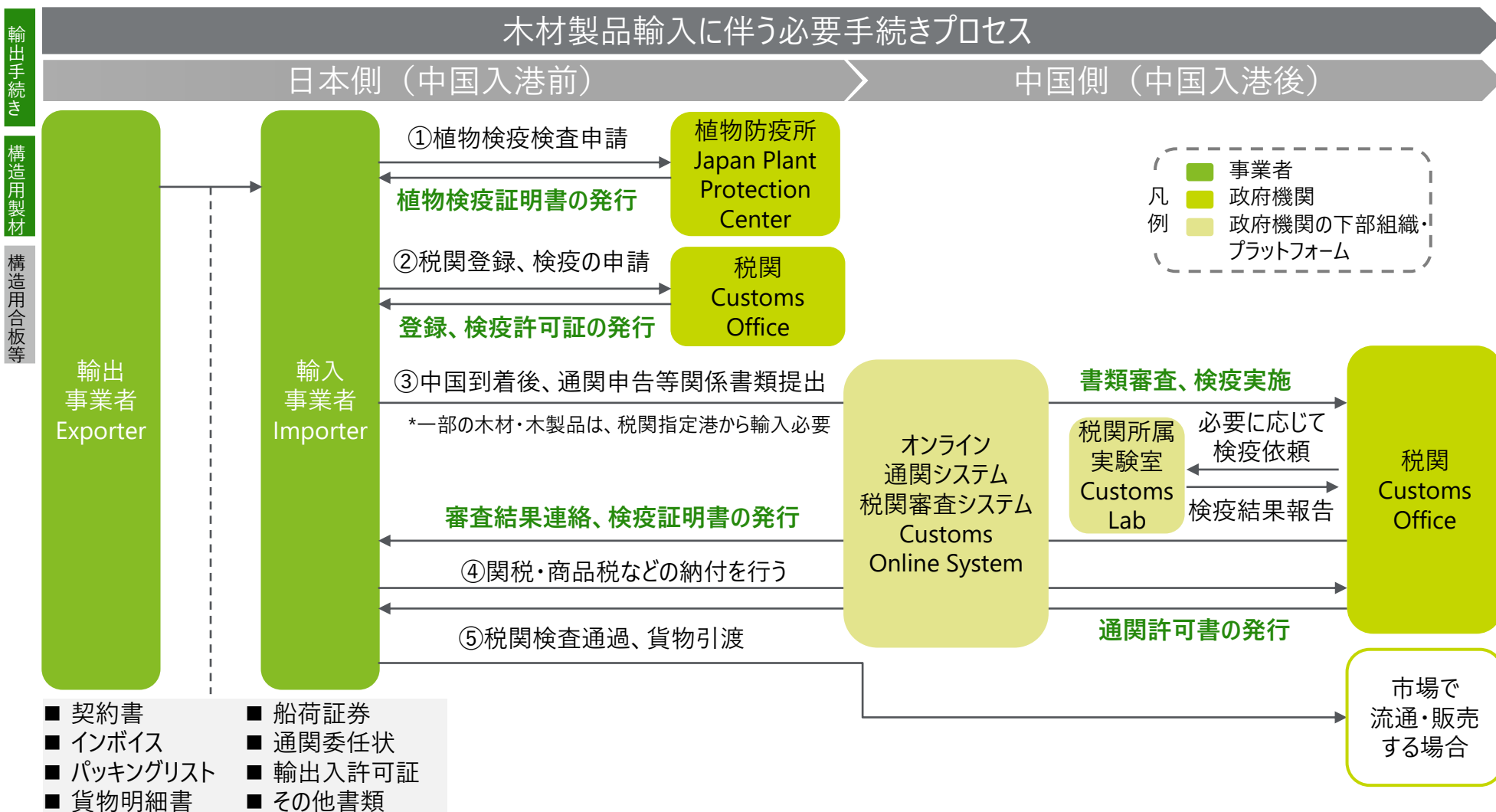
事業者ヒアリングにて手続きを確認

- ヒアリングで手続き内容について確認

3-2 調査結果

中国へ輸出する際には、輸入事業者は検疫・輸入申告などの手続きを行い、事前に準備しておく必要があります

中国における木材輸入に必要な手続き（1）



中国では、輸入をする際に、貨物の種類、数量、値段などの情報を税関に申告し、検疫を受けた後に関税を支払い、輸入の許可を受けるなどの手続きがあります

中国における木材輸入に必要な手続き（2）

#	輸入に必要な手続き	法令	管轄	内容	必要手続き	対応者
0	輸入許可申請	対外貿易法	商務部	<ul style="list-style-type: none"> ■ 輸入ライセンス・資格要件 ➢ 木材・木製品は特殊対象外、商務部に輸入許可証の申請は不要。 	-	輸入事業者
1	輸出前植物検疫	出入国動植物検疫法	税関 動植物・食品 検疫処	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「出入国動植物検疫法」第15条においては、輸入植物・動物・それらの製品及びその他の検疫対象物は、検疫に合格した場合に限り輸入を許可する。 ■ 税関総署公告〔2021〕110号において、日本産マツ材は、特殊検疫品目に該当する。 ➢ 日本産のマツ材については輸出国（日本）発行の植物検疫証明書を提出する必要がある。 ➢ 植物検疫証明書は税関総署公告〔2021〕110号に記載された要求を満たさなければならない。 	輸出国の植物防疫所に植物検疫検査申請の提出	木材事業者 または 輸入事業者
2	税関登録手続	税関法	税関	<ul style="list-style-type: none"> ■ 輸入ライセンス・資格要件 ➢ 日本側輸出事業者：中国税関に関する特定の資格・要件は不要 ➢ 中国側輸入事業者：有効な中国輸入資格を保有していることが必須である。税関登録手続を実施する必要がある ■ 通関業者及びその支店・支社の登録が満たすべき条件： <ol style="list-style-type: none"> ① 通関業者は以下のいずれかの市場主体類型に該当すること：会社、非公司企業法人、個人独自企業、合併企業。 ② 未だに通関業者登録を完了していないこと。 ■ 税関登録手続には、以下の書類が必要とされている： <ol style="list-style-type: none"> ① 通関単位備案情報表 ■ 輸入申告の流れ ➢ 税関備案申請を提出する。税関側にて書類を審査し、審査の結果、備案書類が全て整っており通関単位備案の要件に合致する場合、税関は3営業日以内に備案登録を実施する。 	税関登録の提出（オフライン、またはオンラインでの申請が可能）	輸入事業者

参考：中国税関総署、中国国家市場監督管理局、中国国家行政サービスプラットフォーム、インターネット公開情報

中国における木材輸入に必要な手続き (3)

輸出手続き

構造用製材

構造用合板等

#	輸入に必要な手続き	法令	管轄	内容	必要手続き	対応者
3	植物検疫申告提出	出入国動植物検疫法	税関 動植物・食品 検疫処	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「出入国動植物検疫法」第4条においては、検疫許可手続きの申請者は、独立した法人資格を持ち、かつ直接対外貿易契約または協定を締結できる単位でなければならない。 ■ 「出入国動植物検疫法」第5条、においては、一部の林産物について、申請者は、貿易契約または協定を締結する前に、許可機関に申請し『検疫許可証』を取得しなければならない。 ■ 植物検疫の許可申請は「インターネット+税関」で手続きができる。ログイン後、HSコード、品名、産地、貿易取引方式などの輸入商品関連情報を入力し、必要書類をアップロードする。 ■ 当該許可証の取得要否については、HSコードごとに異なるため、詳細は中国側の輸入事業者にて確認する。 	必要に応じ、植物検疫申告の提出（オンラインでの申請は主要）	輸入事業者
4	通関申告	税関法	税関	<ul style="list-style-type: none"> ■ 貨物が中国港湾に到着（入港）後、14日以内通関申告手続きを開始する必要がある。 ■ 輸入木材が中国港湾に到着後、港湾動植物検疫機関は現場検疫を行い、必要に応じて実験室検疫を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 現場検疫：輸出地の疫病情報・中国検疫要求・樹種リスク・有害生物特性に基づく重点検査を実施し、発見した生体有害生物/病害疑い材は実験室へ送付。 ➢ 実験室検疫：必要に応じて提出サンプルの検疫を実施。 ■ 原木は指定港から通関しなければならない。 ■ 税関総署公告第110号において、日本産マツ材は特殊検疫品目に該当する。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 税関公示指定港からのみ輸入を許可する。その他の港の税関は日本産マツ材の通関申告を受理不可。 	「インターネット+税関」オンラインシステムにおける通関申告関連書類の提出	輸入事業者

各手続きにおける必要提出書類は下記の通りです

具体的提出書類 (1)

輸出手続き	#	輸入に必要な手続き	手続き	内容
構造用製材	1	輸出前植物検疫	輸出前植物検疫の提出	<ul style="list-style-type: none"> ■ 輸出国の植物防疫所に植物検疫検査申請を提出する
構造用合板等	2	税関登録手続	「インターネット+税関」オンラインシステムで電子提出	<ul style="list-style-type: none"> ① 通関単位備案情報表 (社印押印済み) ➢ 「インターネット+税関」オンラインシステム: https://online.customs.gov.cn/
	3	植物検疫申告の提出	必要に応じ、植物検疫申告の提出 (オンラインでの申請は主要)	<ul style="list-style-type: none"> ① 進境動植物検疫許可証 (新鮮果物、穀物など許可要の植物・植物製品向け、対象品目は「進境(過境)植物・植物製品検疫許可サービス」ガイド参照) ② 輸出国・地域発行の植物検疫証明書 ③ 原産地証明書 ④ 貿易契約書 ⑤ 信用状 ⑥ インボイス ⑦ B/L (船荷証券) ⑧ パッキングリスト ⑨ 通関委任状 (通関代理時使用向け)
	4	通関申告	「インターネット+税関」オンラインシステムで電子提出	<ul style="list-style-type: none"> ① 契約書 (契約または協議書に中国の法定検疫条件を明記する) ② インボイス ③ パッキングリスト ④ 貨物明細書 (マニフェスト) ⑤ 船荷証券 (運送状) ⑥ 通関委託協議書 ⑦ 輸出入許可証 (必要に応じて、木材・木製品が対象外) ⑧ 植物検疫書類 ⑨ その他税関要求書類 (法律/行政法規/税関総署規程)

具体的提出書類 (2)

輸出手続き

構造用製材

構造用合板等

#	輸入に必要な手続き	手続き	内容
5	通関申告 日本産マツ材について	マツ材については、オンラインシステムにおける輸出国発行の植物検疫証明書の提出	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日本産のマツ材については輸出国（日本）発行の植物検疫証明書を提出する必要がある。植物検疫証明書は税関総署公告〔2021〕110号に記載された要求を満たさなければならない。 ➤ 実験室検査及び燻蒸処理を実施した原木・製材については、植物検疫証明書に下記内容の記載が求められる： <ol style="list-style-type: none"> ① 燻蒸剤の種類 ② 持続時間 ③ 環境温度 ④ 投薬量 ⑤ 付加声明欄に下記英文を記載する："This consignment of pine wood has been sampled and tested in laboratory, and Bursaphelenchus xylophilus was not detected." ➤ 輸出前に熱処理を実施した製材については、植物検疫証明書に下記内容の記載が求められる： <ol style="list-style-type: none"> ① 製材の心部到達温度 ② 熱処理の持続時間

参考：中国税関総署、中国国家市場監督管理局、中国国家行政サービスプラットフォーム

日本からマツ材を輸入する際、輸入者または代行業者は、輸出国発行の植物検疫証明書を提出する必要があります

中国出入国動植物検疫法及び税関総署公告〔2021〕110号

輸出手続き

構造用製材

構造用合板等

法令	中国出入国動植物検疫法、税関総署公告〔2021〕110号		
本法令の対象品目	マツノザイセンチュウ発生国からのマツ材（原木・製材）	所管	税関 動植物・食品検疫処
規制内容	輸出国発行の植物検疫証明書の添付、輸出国検疫合格品のみ指定輸入港における通関を受理し輸入を許可する	適用対象者	輸入者

概要

輸入者が必要なアクション

目的	マツノザイセンチュウは、中国輸入植物検疫有害生物かつ全国森林検疫有害生物と認められ、林業・生態系に侵入防止を目的に厳しい管理措置を取る	<h4>#1 輸出国発行の植物検疫証明書の提出</h4> <ul style="list-style-type: none"> ■ マツノザイセンチュウ発生国からのマツ材（原木・製材）を輸入する場合、輸入者またはその代行業者（例：通関業者）は、指定輸入港において通関し、輸出国発行の植物検疫証明書を提出する必要がある。 ■ 植物検疫証明書は税関総署公告〔2021〕110号に記載された要求を満たす必要がある。 ■ 植物検疫証明書の電子提出は、税関のオンラインシステム「インターネット＋税関」で行うことが可能となっている。
主要規程	<p>中国出入国動植物検疫法 第2章 輸入検疫</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 第12条 貨主またはその代理人は、動植物・動植物製品その他の検疫物の輸入前または輸入時に、輸出国・地域の検疫証明書・貿易契約書等を提示し、輸入港動植物検疫機関へ検疫申告を行うこと。 <p>税関総署公告〔2021〕110号 マツノザイセンチュウ発生国産マツ材の輸入植物検疫要求</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 四、輸出前検疫 <ul style="list-style-type: none"> （四）植物検疫証明書要求：輸出前検疫合格の原木/製材に対し、輸出国主管部門は植物検疫証明書を発行する。 検査・燻蒸処理を経たものは、証明書に「燻蒸剤種類・持続時間・環境温度・投薬量」を明記し、付帯声明に以下を記載： "This consignment of pine wood has been sampled and tested in laboratory, and Bursaphelenchus xylophilus was not detected." 熱処理製材は、証明書に「製材中心温度・持続時間」を明記する ■ 五、輸入時検疫：中国到着港において、税関は以下により検疫を実施： <ul style="list-style-type: none"> （一）松材線虫発生国からの輸入は指定港（附属文書参照）に限定 （二）植物検疫証明書が上記四（四）を満たすか確認 	

参考：中国税関総署 - 税関総署公告〔2021〕110号

日本からマツ材を輸入する際は、税関公示指定港からの輸入に限定され、指定輸入港のみから輸入が可能です

税関総署公告〔2021〕110号

輸出手続き

構造用製材

構造用合板等

法令	税関総署公告〔2021〕110号		
本法令の対象品目	マツノザイセンチュウ発生国からのマツ材（原木・製材）	所管	税関 動植物・食品検疫処
規制内容	輸出国発行の植物検疫証明書の添付、輸出国検疫合格品のみ指定輸入港における通関を受理し輸入を許可する	適用対象者	輸入者

概要

輸入者が必要なアクション

目的

マツノザイセンチュウは、中国輸入植物検疫有害生物かつ全国森林検疫有害生物と認められ、林業・生態系に侵入防止を目的に厳しい管理措置を取る

#1 指定港から入港して輸入申告の提出

- マツノザイセンチュウ発生国からのマツ材（原木・製材）を輸入する場合、輸入者またはその代行業者（例：通関業者）は、指定輸入港において通関し、輸出国発行の植物検疫証明書を提出する必要がある。

主要規程 指定輸入港一覧

税関総署公告〔2021〕110号 マツノザイセンチュウ発生国産マツ材の輸入植物検疫要求

- 五、輸入時検疫：中国到着港において、税関は以下により検疫を実施：

（一）松材線虫発生国からの輸入は指定港（附属文書参照）に限定

- 附属文書：指定輸入港一覧

- ・ 山東省：
 - 黄島港・日照港・日照嵐山港・董家口港
- ・ 江蘇省：
 - 連雲港（贛榆港・燕尾港・新東方埠頭）、南京（龍潭埠頭・新生圩港）
- ・ 浙江省：
 - 寧波北侖港・舟山港・温州港・台州港
- ・ 福建省：
 - 福州港（馬尾・江陰）
- ・ 広東省：
 - 佛山南海三山港・肇慶新港・黄埔港・東莞港・珠海湾仔港・汕頭広澳港



参考：中国税関総署 - 税関総署公告〔2021〕110号

4 日本産木材製品の輸出拡大策の提言

日本から中国へツーバイフォー材を輸出することは、価格競争力の低さから多くの事業者が否定的であり、木材製品のみではなく住宅製品販売のような総合的アプローチが必要です

中国事業者ヒアリング：日本産木材製品輸出拡大についての意見

日本産木材製品
輸出拡大についての
中国事業者意見

■ 競合樹種との比較

- カナダ材は、普及の歴史が長く、応用システム（軽量木構造（ツーバイフォー工法）、ログハウス工法（井幹式）など）が成熟しているため、設計パラメータ（応力、硬度などの力学的性能）が明確で実践的に検証されていることから、国内業界はその使用に慣れ親しみ、安心感を持っている（#4）
- 一部顧客は特定樹種を要求する。例：木造古建築プロジェクトはダグラスファー（ベイマツ）やヘムロックを指定する場合がある。理由は顧客の使用習慣である。初めて使った木材（ヘムロック）で良好な実績があると、価格が急騰しない限り同樹種を使い続け、代替材を試そうとしない（#5）
- これに対し、日本のスギを木造建築（特に大スパンの集成材梁などの大型部材）に応用するには、設計（例えば荷重能力、必要な部材サイズなど）を裏付ける実験データや工学的実績が不足している。中国国内企業はその性能を理解しておらず、安易に使用することに躊躇している（#4）
- 建築用木材は、松材が主体。厳密な樹種制限は存在せず、コストパフォーマンスが核心的な要素。ラジアータパインは低価格・供給量多により市場で主流となっている。その他の材（北米ダグラスファー、欧州トウヒ等）はラジアータパイン価格を基準に設定され、価格向上余地は限定的（#7）

■ 価格帯

- 汎用製品は買い手主導市場。価格は相場水準に厳格に固定される（#2）
- 製材品は、25,000円/m³前後から40,000円/m³程度の流通価格（#7）



- 中国における木造住宅では、既にラジアータパインやダグラスファー等が普及して利用される慣習が出来上がっており、相当な価格競争力を持たなければ、そもそも市場参入自体が厳しいとの指摘が多数

不動産不況により、建築市場のシェア拡大には悲観的な意見も聞かれる一方、木材の新しい用途の提案なども聞かれています

中国事業者ヒアリング：日本産木材のシェア拡大に向けて検討すべき戦略（1）

日本産木材の
シェア拡大に向けて
検討すべき戦略

■ 日本産木材の優位性

- 日本産木材は納品リードタイムの短さと供給速度の速さが競争優位点である。中国国内市場で木材不足が発生した場合、日本産木材は迅速に需給ギャップを補填し得る。（#1）

■ 市場拡大の提言

- シェア拡大の鍵は価格競争力であり、十分な低価格を実現すれば大量の日本産木材でも中国市場が受け入れる。（#6）
- **最大需要分野は木製梱包資材と建築用型枠材**である。これらの製品を日本で加工後中国へ輸出する方式は非効率であり、物流効率・コスト競争力を考慮すると、原木輸出も一策。（#2）
- 棺桶とパレットが二つの潜在需要分野である。**建築市場は不動産不況によってシェア拡大の可能性はほぼゼロと思われる**。棺桶需要は高齢化で増加が見込まれるが、現在は既に多数のメーカーが参入して激しい競争状態になる。パレット需要は消費・輸出物流と繋がっているが、現在の消費不振で同様に弱い。（#5）
- **高層建築の非耐力間仕切り壁領域にチャンスがあると考えられる**。未内装高層ビルの広大な空きフロア（例：1階400㎡）を、木材で60～100㎡のユニット空間に分割する。木材は建築総コストの約3%を占めるのみ、非耐力間仕切り案を実施すれば木材使用量は大幅増。かつ非耐力構造は材料強度要求が低く、日本スギの潜在応用市場となる。日本企業だけでなく、カナダウッドもこの領域に注力。カナダSPF材などの木材の新販路を開拓中。（#6）



- 日本産木材は納品リードタイムの短さと供給スピードが強み
- 中国市場の需給ギャップ対応に加え、比較的小規模な市場へ特化するなどにより、日本産木材の特性を最大限に活かすことが、シェア拡大の突破口となる

建築市場が縮小傾向の中、日本産木材の中国市場進出には、潜在的な需要への戦略転換や中国関係団体等との協力関係構築の必要性が指摘されています

中国事業者ヒアリング：日本産木材のシェア拡大に向けて検討すべき戦略（2）

日本産木材の
シェア拡大に向けて
検討すべき戦略

■ 木造建築市場向けの提言

- 中国の木材加工業界は床材・木製窓枠・板材など全分野で過剰生産状態にあるため、日本産木材は中国国内産業が未開発のニッチ領域への進出であれば参入可能性がある。（#4）
- 優先的に検討すべきは、軽量型ログハウスの推進である。文化観光・民宿・ホテル等に適用可能な臨時建築については、防火基準が相対的に緩和され、市場飽和度が低く参入障壁も小さいため、日本事業者の参入も可能であると考えられる。（#4）
- 日本企業が中国の木造建築市場に参入できる可能性はあるものの、中国市場固有の条件を認識・検討すべきである。特に前払い資金慣行による資金全額の前払い要求がハードルとなること、自社が担う事業範囲（設計、生産、施工、全工程、EPC等）を事前に明確化することが重要であり、大型公共建築か小型個人建築か、現地企業との協業を含めたターゲット戦略を決定することも不可欠である。（#7）

■ 日本中小企業向けの提言

- 日本中小木材企業の中国市場進出には、中国業界団体主催の会議・展示会への参加による情報交換の推進、中国潜在顧客との直接接触、中国ブランド向けOEM生産の活用、あるいは既存販売ネットを持つ中国企業による製品代理販売を推奨する。（#4）



- 日本産木材が中国市場へ参入できる可能性はあるが、市場参入前に販売戦略や協力範囲を明確にすることが重要である。さらに、資金の前払い慣行といった中国市場固有の商慣習を把握することも重要であり、これらにより、リスクを抑えつつ中国市場での成長機会を捉えることができると考えられる

中国では、日本産ツーバイフォー材を製材品のみで販売することは価格競争等の高いハードルがあるため、木造住宅そのものへの遡及や新製品の開拓が必要になると考えられます

調査結果（概要）

用途種別 (大) *		用途種別 (中)		用途種別 (小)	市場実態	製品価格帯
住宅・建設	構造材	住宅	木造軸組	柱・梁桁・土台等	<ul style="list-style-type: none"> 中国における木造建築物市場は小さい上、近年の建設不況によりますます市場が縮小傾向 富裕層は木造住宅の希少性と自然志向から、木造住宅の取得に意欲があるほか、リゾートハウス等の需要が一定存在 一方で、木材製品は、北米材やロシア材等の安価な製品が市場に流通しており、価格競争力が求められる 木材製品単体のみの販売では、他国の安価な木材製品との価格競争が必須 富裕層・リゾートハウス等の購入層をターゲットに、高品質な住宅そのものを訴求していくなどの総合的な戦略が必要になると考えられる 	製材 25,000～ 40,000円/m ³ 現地流通価格 (P62、97参照)
			面材	ツーバイフォー材		
		非住宅	低層木造施設等	ツーバイフォー材・面材		
			中高層木造建築物	CLT材等/面材		
	非構造	内装	床材	床材		
			壁・天井材等	壁・天井材等		
			外構 エクステリア	デッキ・フェンス		
		外構 エクステリア	外壁・屋根・サイディング等	外壁・屋根・サイディング等		
			家具原料（製材）	製材		
			家具原料（面材）	面材		
産業資材	土木用・工事用	製材・面材（合板）				
	梱包・パレット	製材				
	その他	製材・面材				
					<ul style="list-style-type: none"> 高層建築の非耐力間仕切り壁領域など、建築において木材製品が入り込める余地があることが指摘されている 巨大な中国市場において、大きく普及し得る新製品の開拓から販路拡大を図ることの可能性が指摘されている 	—

* 用途種別は、当法人にて木材製品の最終用途を大・中・小項目で区分・整理したもの

日本産木材製品の中国市場への参入には、GB規格の適合確認、現地パートナー企業との提携による企画・設計段階からの商流構築などが必要になります

輸出に向けた課題と対応策（案）

				輸出に向けた課題	対応策（案）
提言	構造材 構造用途	住宅	ツーバイフォー材	<ul style="list-style-type: none"> 中国では、GB規格に準拠した木材製品しか木造建築物の構造用製材としては使用できないが、JAS認証材がGB規格に準拠するかは明確に確認できていない GB規格に準拠した製品を輸出できたとしても、既に流通しているスプルースやショウジマツ*といった樹種との競争優位性をもつことが必要 	<ul style="list-style-type: none"> 富裕層の別荘や企業におけるリゾートログハウス等の木造住宅ニーズに対応し、企画・設計段階から、日本産木材製品を活かした木造住宅を建築すべく、新たな商流を構築
			面材	<ul style="list-style-type: none"> GB規格への準拠の確認が必要であるという課題は、構造用面材も構造用製材と同様 中国のツーバイフォー住宅用の構造用合板の規格（4×8）で生産する必要がある 中国国内で競合製品が安価で出回っているため、価格競争力の確保が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 4×8サイズの合板製造に対応した日本国内での供給体制構築 JAS認証材でのGB規格の適合確認を取った後、日本産木材製品の価値を訴求した販売戦略の検討
		非住宅	中高層木造建築物	CLT材等／面材	<ul style="list-style-type: none"> 日本産木材が、設計段階において建築物の発注者や設計士に認知され、利用されていく必要がある 構造用途だけでなく、間仕切り壁等、今後拡大し得る市場で新たなニーズに対応した製品の開発等も求められる

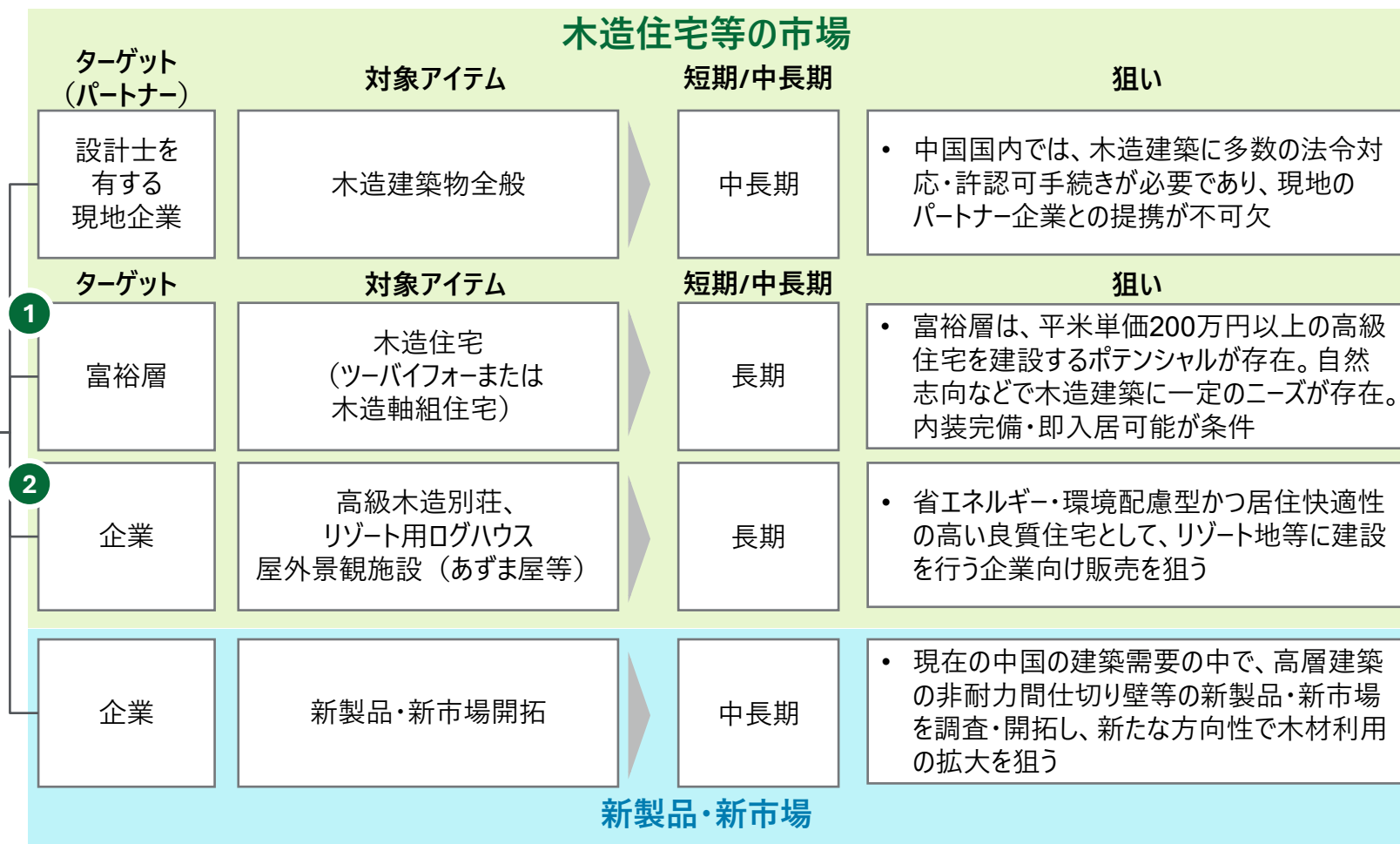
* ショウジマツとヨーロッパアカマツは学名同一

中国では、現地企業と提携した木造建築物の展開や新製品・新市場の開拓等のターゲットを明確にした戦略が必要になると考えられます

中国への木材輸出において想定されるターゲット

提言

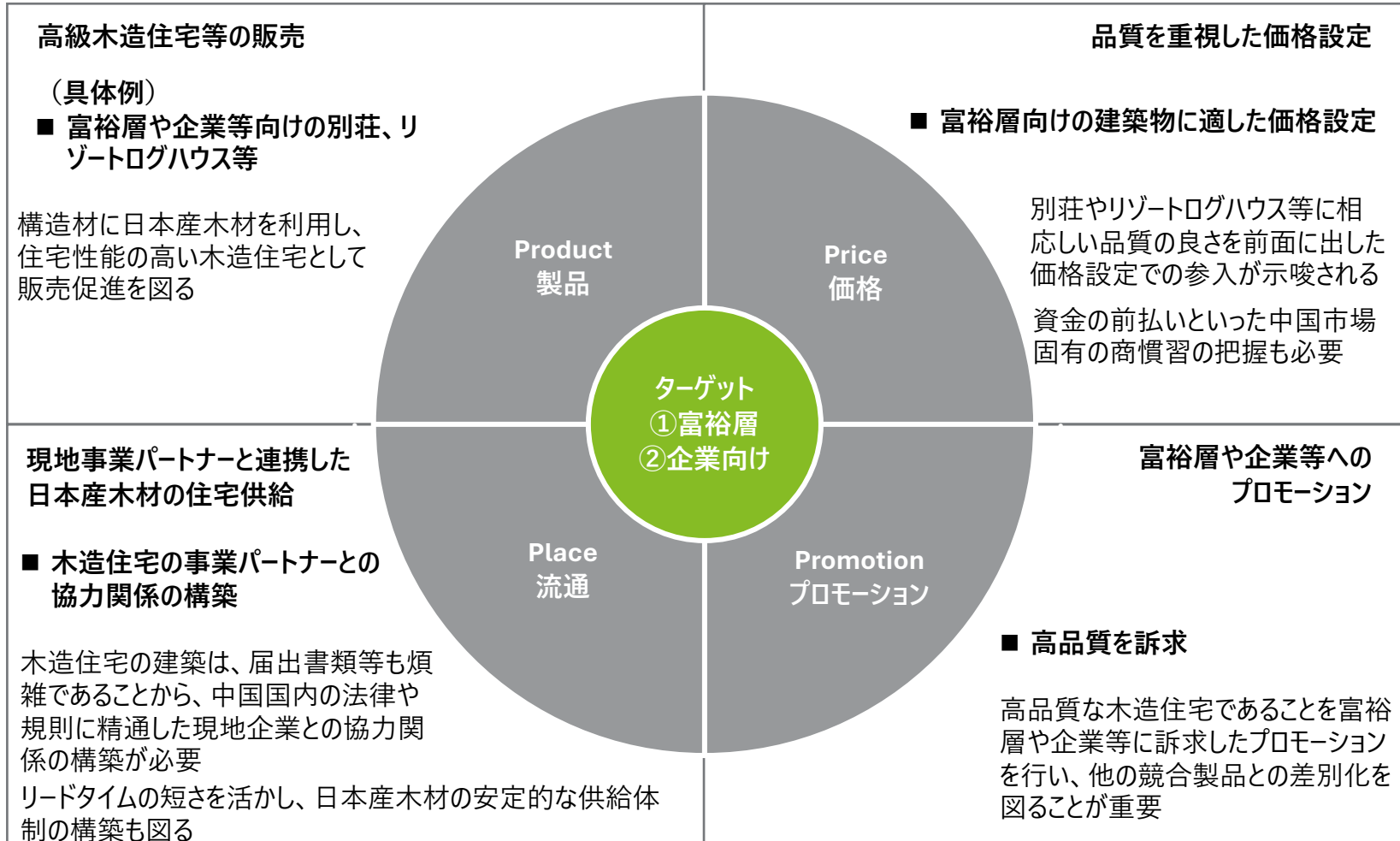
中国へ木材製品を輸出する際のターゲット



既存の木造住宅市場では、富裕層や企業等向けの別荘やリゾートログハウス等として日本産木材製品を販売する戦略が考えられます

ターゲット①富裕層、②企業向けのマーケティング案

提言



- 本報告書は、林野庁と当法人との間で締結された、令和7年3月17日付業務委託契約書に基づいて実施した「令和6年度林業・木材産業国際競争力強化総合対策のうち日本産木材製品プロモーション活動支援事業（輸出相手国の市場実態等調査）」について、調査結果をご報告するものであり、保証業務として実施したものではありません。内容の採否や使用方法については本報告書の読者自らの責任で判断を行うものとします。
- 本報告書に記載されている情報は、調査時点のものであり、公開情報を除き、林野庁又は調査対象者から提出を受けた資料、また、その内容についての質問を基礎としております。これら入手した情報自体の妥当性・正確性については、当法人側で責任を持ちません。

デロイト トーマツグループは、日本におけるデロイト アジア パシフィック リミテッドおよびデロイト ネットワークのメンバーである合同会社デロイト トーマツグループならびにそのグループ法人（有限責任監査法人トーマツ、合同会社デロイト トーマツ、デロイト トーマツ 税理士法人およびDT 弁護士法人を含む）の総称です。デロイト トーマツグループは、日本で最大級のプロフェッショナルグループのひとつであり、各法人がそれぞれの適用法令に従いプロフェッショナルサービスを提供しています。また、国内30都市以上に2万人超の専門家を擁し、多国籍企業や主要な日本企業をクライアントとしています。詳細はデロイト トーマツグループWebサイト、www.deloitte.com/jpをご覧ください。

Deloitte（デロイト）とは、Deloitte Touche Tohmatsu Limited（“Deloitte Global”）、そのグローバルネットワーク組織を構成するメンバーファームおよびそれらの関係法人（総称して“デロイト ネットワーク”）のひとつまたは複数を指します。Deloitte Globalならびに各メンバーファームおよび関係法人はそれぞれ法的に独立した別個の組織体であり、第三者に関して相互に義務を課しまたは拘束させることはありません。Deloitte Globalおよびその各メンバーファームならびに関係法人は、自らの作為および不作為についてのみ責任を負い、互いに他のファームまたは関係法人の作為および不作為について責任を負うものではありません。Deloitte Globalはクライアントへのサービス提供を行いません。詳細はwww.deloitte.com/jp/aboutをご覧ください。

デロイト アジア パシフィック リミテッドは保証有限責任会社であり、Deloitte Globalのメンバーファームです。デロイト アジア パシフィック リミテッドのメンバーおよびそれらの関係法人は、それぞれ法的に独立した別個の組織体であり、アジア パシフィックにおける100を超える都市（オークランド、バンコク、北京、ベンガルール、ハノイ、香港、ジャカルタ、クアラルンプール、マニラ、メルボルン、ムンバイ、ニューデリー、大阪、ソウル、上海、シンガポール、シドニー、台北、東京を含む）にてサービスを提供しています。

Deloitte（デロイト）は、最先端のプロフェッショナルサービスを、Fortune Global 500®の約9割の企業や多数のプライベート（非公開）企業を含むクライアントに提供しています。デロイトは、資本市場に対する社会的な信頼を高め、クライアントの変革と繁栄を促進することで、計測可能で継続性のある成果をもたらすプロフェッショナルの集団です。デロイトは、創設以来180年の歴史を有し、150を超える国・地域にわたって活動を展開しています。“Making an impact that matters”をパーパス（存在理由）として標榜するデロイトの約46万人の人材の活動の詳細については、www.deloitte.comをご覧ください。



IS 669126 / ISO 27001



BCMS 764479 / ISO 22301

IS/BCMSそれぞれの認証範囲は
こちらをご覧ください

<http://www.bsigroup.com/clientDirectory>

MAKING AN
IMPACT THAT
MATTERS
since 1845